

添付資料

目 次

添付資料－1 大飯発電所 第4号機 第18保全サイクル 保全計画

添付資料－1 大飯発電所 第4号機 第18保全サイクル 保全計画

「1.3 構築物、系統及び機器」に示された発電用原子炉施設に係る点検の実施状況等に関して、「大飯発電所 第4号機 第18保全サイクル 保全計画」をもとに、点検及び試験の項目、点検頻度等を示す。

大 飯 発 電 所
第 4 号 機
第 1 8 保 全 サ イ ク ル
保 全 計 画

目 次

1. 施設管理実施計画の始期（定期事業者検査の開始する日をいう。）及び期間・・・ 1
2. 発電用原子炉施設の工事の方法及び時期・・・ 1
3. 発電用原子炉施設の点検、検査等の方法、実施頻度及び時期・・・ 3
4. 発電用原子炉施設の工事及び点検等を実施する際に行う保安の確保のための措置・・・ 3

別紙：点検計画（第18保全サイクル）

別図：定期事業者検査時の安全管理の計画

1. 施設管理実施計画の始期（定期事業者検査の開始する日をいう。）及び期間

本保全計画の適用期間は、第18回定期事業者検査開始日から第19回定期事業者検査開始日の前日までの期間（第18回定期事業者検査終了日以降13ヶ月までの間(※)）とし、以降、この期間を第18保全サイクルという。

ただし、この期間内に第19回定期事業者検査を開始した場合には、その前日までの期間とする。

※:第18回定期事業者検査終了日以降13ヶ月までの間を『実運転期間』という。

2. 発電用原子炉施設の工事の方法及び時期

(1) 工事の計画

a. 特定重大事故等対処施設設置工事：工事計画認可申請

○ 工事概要

原子炉建屋への故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムに対してその重大事故等に対処するために必要な機能を有した特定重大事故等対処施設を設置する。

○ 予定時期

2013年6月～2022年8月

b. 火災感知器設置工事：設計及び工事計画認可申請

○ 工事概要

新火災防護基準バックフィット対応として、火災区域に対し、異なる種類の火災感知器を消防法に準じた箇所に設置する。

○ 予定時期

2019年2月～2024年2月

c. 所内常設直流電源設備（3系統目）設置工事：設計及び工事計画認可申請

○ 工事概要

重大事故等の対応に必要な設備に電気の供給を行うことが可能であるもう1系統の特に高い信頼性を有する所内常用直流電源設備を設置する。

○ 予定時期

2021年12月～2022年8月

d. 加圧器スプレイ配管改造工事：設計及び工事計画認可申請

○ 工事概要

原子炉冷却系統配管の製造過程で芯金を用いた曲げ加工を行うことで生じる硬化層を有する曲げ管を使用している部位があるため、自主的な安全対策として、芯金を用いずに製作した硬化層が形成されない曲げ配管等へ取替えを実施

する。

○予定時期

第18回定期事業者検査期間中

e. 化学体積制御設備配管改造工事：設計及び工事計画認可申請

○工事概要

酸素型応力腐食割れに対する自主的な安全対策として、耐腐食性に優れている材料の配管へ取替えるとともに取替配管の溶接部信頼性向上の観点から、ソケット溶接を突合せ溶接へ変更する。

○予定時期

第18回定期事業者検査期間中

f. 非常用ディーゼル発電機受電遮断器高エネルギーアーク損傷対策工事：設計及び工事計画認可申請

○工事概要

高エネルギーアーク放電による重要安全施設への電力供給に係る電気盤の損壊の拡大を防止するため、遮断器の遮断要素および非常用ディーゼル発電機機関の停止要素等の追加を実施する。

○予定時期

第18回定期事業者検査期間中

g. 1次系海水管伸縮継手修繕工事

○工事概要

海水ポンプ廻りにおける配管・弁点検の作業性向上のため伸縮継手への取替えを実施する。

○予定時期

第18回定期事業者検査期間中

h. 2次系配管取替工事

○工事概要

減肉対策として、2次系配管を耐食性に優れた材料へ取替えを実施する。

○予定時期

第18回定期事業者検査期間中

3. 発電用原子炉施設の点検、検査等の方法、実施頻度及び時期

(1) 点検計画

定期事業者検査中及びプラント運転中の点検について、あらかじめ保全方式を設定し、点検の方法並びにそれらの実施頻度及び時期を定めた点検計画を「大飯発電所 保守業務所則（平成15大原保所則 第1号）」に基づき策定した「保全指針」に従い策定した。また、土木建築に関する設備の点検計画については、「大飯発電所 土木建築業務所則（平成19大原土所則 第1号）」に従い策定した。

点検計画のうち、定期事業者検査対象機器等に係る主要な点検の計画に基づく点検計画を別紙に記載する。

附帯設備も含めた各機器の詳細な点検計画は、「保全指針」等に規定している。

点検計画を策定又は変更するにあたっては、保全活動から得られた情報等から、保全の有効性を評価し、保全が有効に機能していることを確認するとともに、継続的な改善につなげている。なお、保全の有効性評価は、以下の情報を適切に組み合わせて行った。

- ・ 保全活動管理指標の監視結果
- ・ 保全データの推移及び経年劣化の長期的な傾向監視の実績
- ・ トラブルなど運転経験
- ・ 安全性向上評価
- ・ 他プラントのトラブル及び経年劣化傾向に係るデータ
- ・ リスク情報、科学的知見

4. 発電用原子炉施設の工事及び点検等を実施する際に行う保安の確保のための措置

定期事業者検査に伴う停止時における保安規定の運転上の制限を遵守するための計画は、別図のとおりである。また、定期事業者検査以外の安全上重要な保守点検活動並びに留意事項等については、特になし。

別紙

点 検 計 画
(第 1 8 保全サイクル)

点検計画の記載について

1. 点検計画については以下の方針に従い記載している。

(1) 記載している設備について

点検計画には発電所設備の主要機器として、以下設備を対象に記載している。

①核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第43条の3の14に規定する技術基準が適用される設備

a. 定期事業者検査の対象となる設備

b. 実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則別表第2において、設計及び工事の計画に記載が要求されている設備

なお、設計及び工事の計画において仕様が記載されていない設備については、日常の管理の中で健全性が確認でき、かつ、取替が可能な下記のものについて除外する。

(a) 防保護具、現地操作時に用いる工具類

(b) 一般消耗品（電池類他）

(c) 一般産業品（可搬型照明、電話・ファクシミリ他）

②保全の重要度が高い設備

保全重要度が高い設備とは、以下の設備を指す。

a. 安全機能の重要度が高い設備

b. 供給信頼性重要度が高い設備

c. リスク重要度が高い設備

なお、アクシデントマネジメント（AM）対応設備であることにより、保全の重要度を「高」とした設備については、点検計画において「AM（対応するアクシデントマネジメント名）機器」として明示している。

(2) 記載している点検について

点検計画には上記設備の主要な点検として、以下を記載している。

- ・ 定期事業者検査に係る点検
- ・ 定期事業者検査の都度性能維持のための措置を伴う点検
- ・ 定期事業者検査に係る点検の実施頻度より短い実施頻度で行う性能維持のための措置を伴う点検
- ・ 記載対象設備において、上記に該当する点検が無い設備については主要な点検

上記以外の点検（主要機器の上記条件以外の点検や附帯設備^{*1}の点検等）については、「大飯発電所 保守業務所則（平成15大原保所則 第1号）」に基づき策定した

「保全指針」及び「大飯発電所 土木建築業務所則（平成19大原土所則 第1号）」に定めている。

※1：附帯設備の例

〔潤滑油、潤滑水、シール水、冷却設備、電源、制御回路、オリフィス〕
〔レジューサ、フローグラス 等〕

（3）保全の重要度について

「グレード分け通達（平成18原品証通達第2号）」等の考え方に従い、「高」又は「低」のいずれかで表記している。

なお、重要度「高」及び定期事業者検査対象の設備については、保全方式として予防保全（時間基準保全、状態基準保全）を選定し、事後保全是選定していない。

（4）保全方式について

保全方式について以下のとおり記載している。

- ・ 時間基準保全を採用しているもの：点検頻度
- ・ 状態基準保全を採用しているもの：CBM
- ・ 事後保全を採用しているもの：BM

（5）点検頻度について

次の整理により「F」：保全サイクル、「M」：月、「Y」：年で表記している。

- ・ 性能維持のための措置を伴う点検及びそれに伴い実施する点検については、「M」又は「Y」により表記している。なお、記載した頻度のうち「M」は、運転期間（総合荷性能検査～解列）に対応した値を示している。
また、複数の機器や複数の点検タスクをまとめて記載した項目については、その点検頻度の最短及び最長のものを記載している。
- ・ 供用期間中検査のように年度管理するものについては、「Y」により表記している。
- ・ 機器の分解点検時期に合わせて実施する機能・性能試験については、「B」により表記している。また、その他、性能維持のための措置を伴わない点検のうち、分解・開放点検等の性能維持のための措置を伴う点検と合わせて実施するものについても「B」※2と表記している。なお、回転機器（ポンプ、ファン等）等、本体と駆動部で構成される機器は、一方が分解点検を実施した場合においても、その後の機能・性能試験で本体と駆動部の機能・性能を確認する。
- ・ これ以外で性能維持のための措置を伴わない点検については、「F」※2により

表記している。また、性能維持のための措置を伴わない点検であっても、当該点検が、プラント運転期間中の発電用原子炉施設の保安の確保に支障がなく、年度管理するものについては、「Y」により表記している。

- ・ このほか肉厚管理指針に従い管理する肉厚測定は、検査箇所ごとの管理となるため、本表では“肉厚管理指針による”と表記している。
- ・ 機能・性能試験の結果等を踏まえて適宜実施する点検については、「X」により表記している。

※2：「B」、「F」により表記しているものは、基本的に性能維持のための措置を予定していない点検であり、劣化進展がごく軽微なため、分解・開放点検や定期事業者検査停止時期に合わせた実施管理が適しているものを対象にしている。

(6) 点検時期について

- ・ 時間基準保全の点検については、“定期事業者検査起動後”、“プラント運転中”の表現により、備考欄に実施時期を記載している。なお、これらの記載のないものについては、定期事業者検査停止中に実施することとしている。
- ・ プラント停止（定期事業者検査）に先立ち、プラント運転中に実施する定期的な点検を「先行実施」とし、その対象設備は備考欄に明記し、区別する。

(7) 状態監視方法の記載について

- ・ 保全方式として状態基準保全を用いる機器については、経年劣化事象等による劣化の有無・劣化の傾向を監視する方法（状態監視技術、定例試験、巡視点検等）及びその頻度を備考欄に記載している。
- ・ 保全方式として時間基準保全を採用している機器については、保全をより充実する観点で採用している状態監視技術について方法・頻度を備考欄に記載している。
- ・ 状態監視技術のうち振動診断の頻度については、年度におけるデータ採取回数を「M」表示となるよう平均し記載している。

なお、第18保全サイクル中に点検を計画するものについては、「点検計画」に「○」※3を記載している。

また、「点検計画」には、当該点検の前回実績（実施時期）※4も記載している。

※3：複数の機器や複数の点検タスクをまとめて記載した項目については、本保全サイクルの中に一つでも点検の計画があれば「○」としている。

※4：複数の機器や複数の点検タスクをまとめて記載した項目にあつては、最新実績を記載している。

点検計画 目次

| 機器又は系統名 | ページ |
|-----------------------------|-------|
| 原子炉本体 | 1/46 |
| [炉心] | |
| [原子炉容器] | |
| 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 | 1/46 |
| [燃料取扱設備] | |
| [使用済燃料貯蔵設備] | |
| [使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備] | |
| [燃料取替用水設備] | |
| 原子炉冷却系統施設 | 4/46 |
| [一次冷却材の循環設備] | |
| [主蒸気・主給水設備] | |
| [余熱除去設備] | |
| [非常用炉心冷却設備] | |
| [化学体積制御設備] | |
| [原子炉補機冷却設備] | |
| [原子炉補機冷却海水設備] | |
| [原子炉格納容器内の一次冷却材の漏えいを監視する装置] | |
| [蒸気タービンの附属設備] | |
| 計測制御系統施設 | 19/46 |
| [制御材] | |
| [制御棒駆動装置] | |
| [ほう酸注入機能を有する設備] | |
| [工学的安全施設等の作動信号] | |
| [制御用空気設備] | |
| [その他設備] | |
| 放射性廃棄物の廃棄施設 | 23/46 |
| [気体、液体又は固体廃棄物処理設備] | |
| 放射線管理施設 | 24/46 |
| [放射線管理用計測装置] | |
| [換気設備] | |
| 原子炉格納施設 | 30/46 |
| [原子炉格納容器] | |
| [圧力低減設備その他の安全設備] | |
| 原子力設備 | 36/46 |
| [その他設備] | |
| 原子力設備・タービン設備 | 36/46 |
| [その他設備] | |

| 機器又は系統名 | ページ |
|-----------------------------------|-------|
| 蒸気タービン | 37/46 |
| [車室、円板、隔板、噴口、翼、車軸] | |
| [調速装置及び非常調速装置並びに調速装置で制御される主要弁] | |
| [復水器] | |
| [蒸気タービンに附属する熱交換器] | |
| [蒸気タービンに附属する給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理設備] | |
| [蒸気タービンに附属する管等] | |
| [その他設備] | |
| その他発電用原子炉の附属施設 | 42/46 |
| [非常用発電装置] | |
| [その他の電源装置] | |
| [常用電源設備] | |
| [火災防護設備] | |
| [浸水防護施設] | |
| 土木建築設備 | 46/46 |
| プラント総合 | 46/46 |
| 全般機器 | 46/46 |

別表－1: クラス1機器供用期間中検査10年計画

別表－2: クラス2機器供用期間中検査10年計画

別表－3: クラス3機器供用期間中検査10年計画

別表－4: クラス1機器Ni基金合金使用部位特別検査10年計画

別表－5: クラス2管(原子炉格納容器内)特別検査10年計画

別表－6: 原子炉格納容器供用期間中検査10年計画

別表－7: 重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

別表－8: 重大事故等クラス3機器供用期間中検査10年計画

別表－9: クラス1配管特別検査10年計画

1. 点検計画

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 () 内は適用する設備診断技術) ※: 炉心設計による ※: 炉心設計による | |
|------------------------------|---|-----------------|-----------------|----------|---------|---------------|----------------------------|---|------|
| 原子炉本体 〔炉心〕 | 照射済燃料集合体 | ※ 1式 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 燃料集合体外観検査 | | |
| | 照射済燃料集合体 (取出燃料) | ※ 1式 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 燃料集合体外観検査 | | |
| | 燃料集合体 | 193体 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 燃料集合体炉内配置検査 | | |
| 原子炉本体 〔原子炉容器〕 | 内挿物 ・ 制御棒クラスタ ・ パーナブルポイズン ・ シンブルプラグアセンブリ ・ 2次中性子源 | ※ 1式 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 燃料集合体炉内配置検査 | ※: 炉心設計による | |
| | 原子炉本体のうち炉心 | | 高 | 1F | ○ | 17回 | 原子炉停止余裕検査 炉物理検査 | 施設検起動後 | |
| 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取扱設備〕 | 原子炉容器 | | 高 | 1F | ○ | 17回 | | | |
| | 原子炉容器 | | 高 | 1F | ○ | 17回 | | | |
| | 原子炉容器 | 116箇所 | 高 | 3F | ○ | 15回 | 構造健全性検査 | | |
| | 燃料移送装置 | 1台 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 燃料取扱装置機能検査 | | |
| | 燃料取扱クレーン | 1台 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 燃料取扱装置機能検査 | | |
| | 使用済燃料ピットクレーン | | 1. 簡易点検 (潤滑油給油) | 高 | 26M | — | 17回 | | |
| | | | 2. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 燃料取扱装置機能検査 (動作・インターロック試験等) | |
| | | | 3. 簡易点検 (潤滑油給油) | 高 | 26M | — | 17回 | | |
| | 新燃料エレベータ | 1台 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 燃料取扱装置機能検査 (動作・インターロック試験等) | 先行実施 |
| | | | 2. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 燃料取扱装置機能検査 (動作・インターロック試験等) | 先行実施 |
| 3. 簡易点検 (潤滑油給油) | | | 高 | 26M | ○ | 16回 | | | |
| 補助建屋クレーン | 1台 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 燃料取扱装置機能検査 (動作・インターロック試験等) | 先行実施 | |
| | | 2. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 燃料取扱装置機能検査 (動作・インターロック試験等) | 先行実施 | |
| | | 3. 簡易点検 (潤滑油給油) | 高 | 26M | — | 17回 | | | |
| 新燃料取扱工具 | 1台 | 1. 機能・性能試験 | 低 | 1F | ○ | 17回 | 燃料取扱装置機能検査 (動作・インターロック試験等) | 先行実施 | |
| | | 2. 機能・性能試験 | 低 | 1F | ○ | 17回 | 燃料取扱装置機能検査 (動作・インターロック試験等) | 先行実施 | |
| | | 3. 簡易点検 (点検手入れ) | 低 | 1Y | ○ | 17回 | 燃料取扱装置機能検査 (動作・インターロック試験等) | 年次点検 プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 先行実施 | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------|------------------|----------|---------|--------------|-----------------------|------------------------|-------------------|
| 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取扱設備〕 | 使用済燃料取扱工具 | 1. 外観点検 | 低 | 1F | ○ | 17回 | 燃料取扱設備検査(動作・インテロク試験等) | 先行実施 | |
| | 燃料反置ラック | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 燃料取扱設備検査(動作・インテロク試験等) | | |
| | 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設〔燃料取扱設備〕 その他機器 | 1. 分解点検他 | 高 | 13M~130M | ○ | 17回 | | | |
| 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵設備〕 | 使用済燃料ピット温度 | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 計測制御系監視機能検査 | | |
| | 使用済燃料ピット水位 | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 計測制御系監視機能検査 | | |
| | 可搬式使用済燃料ピット水位 | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 計測制御系監視機能検査 | 15回施設定検時に設置 | |
| | 使用済燃料ピット温度 (AM用) | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | プラント状態監視設備機能検査 | 15回施設定検時に設置 | |
| | 使用済燃料ピット水位 (AM用) | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | プラント状態監視設備機能検査 | 15回施設定検時に設置 | |
| | 使用済燃料ピット監視カメラ | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | 15回施設定検時に設置 | |
| | 使用済燃料ピット監視カメラ冷却装置 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 可搬型重大事故等対処設備機能検査 | 15回施設定検時に設置 | |
| | 使用済燃料ピット浄化冷却設備 | 1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機等含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化システム機能検査 | | |
| | 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕 | A 使用済燃料ピットポンプ・電動機 | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 91M | — | 14回 | | (振動診断：6M) 先行実施 |
| | | B 使用済燃料ピットポンプ・電動機 | 2. 分解点検 (電動機) | 高 | 78M | — | 15回 | | |
| 3. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ) | | | 高 | 26M | ○ | 16回 | | | |
| 1. 分解点検 (ポンプ) | | | 高 | 91M | ○ | 14回 | | (振動診断：6M) 先行実施 | |
| 送水車 | | 2. 分解点検 (電動機) | 高 | 78M | ○ | 14回 | | | |
| | | 3. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ) | 高 | 26M | — | 17回 | | | |
| | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 15M | ○ | 17回 | | プラント運転中又は定期事業者検査停止中 | |
| 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕 | | 2. 外観点検 | 高 | 15M | ○ | 17回 | | プラント運転中又は定期事業者検査停止中 | |
| | | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 16回 | | 先行実施 | |
| | | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 16回 | | 先行実施 | |
| | | A 使用済燃料ピットフィルタ | 1. 開放点検 | 高 | 195M | — | 9回 | | 1次系熱交換器検査 |
| | | | 2. 非破壊試験 | 高 | 195M | — | 9回 | | 1次系熱交換器検査 |
| | | | 3. 漏えい試験 | 高 | 195M | — | 9回 | | |
| | B 使用済燃料ピット冷却器 | 1. 開放点検 | 高 | 195M | — | 8回 | | 1次系熱交換器検査 | |
| | | 2. 非破壊試験 | 高 | 195M | — | 8回 | | 1次系熱交換器検査 | |
| | | 3. 漏えい試験 | 高 | 195M | — | 8回 | | | |
| | C 使用済燃料ピット冷却器 | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 17回 | | 平成13年度に設置 | |
| | | 2. 漏えい試験 | 高 | 130M | — | 17回 | | 先行実施 | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|---|---|--|---|-----------|---------|--------------|------------|--|--|
| 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕 | 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕 その他の弁 | 1.機能・性能試験 2.分解点検 3.簡易点検 (グラウンドバッドバッキング取替) | 高・低 | B | — | 17回 | 1次系弁検査 | 一部先行実施 | |
| | | | | 104M~130M | ○ | 17回 | | | |
| | | | | 130M | ○ | 16回 | | | |
| | | | | 78M | ○ | 15回 | | | |
| 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取替用水設備〕 | 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備〕 その他機器 | 1.分解点検他 | 高・低 | B* | — | 15回 | 1次系ポンプ機能検査 | B*：ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 (振動診断：6 M) | |
| | | | | 130M | — | 12回 | | | |
| | | | | 52M | — | 15回 | | | |
| | | | | 26M | ○ | 16回 | | | |
| | A燃料取替用水ポンプ・電動機 | 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃 | 1.機能・性能試験 2.分解点検 (ポンプ) 3.分解点検 (電動機) 4.簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ) | 高 | B* | ○ | 15回 | 1次系ポンプ機能検査 | B*：ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 (振動診断：6 M) |
| | | | | | 130M | ○ | 10回 | | |
| | | | | | 52M | — | 15回 | | |
| | | | | | 26M | — | 17回 | | |
| | B燃料取替用水ポンプ・電動機 | 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃 | 1.機能・性能試験 2.分解点検 (ポンプ) 3.分解点検 (電動機) 4.簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ) | 高 | B | — | 17回 | 1次系ポンプ機能検査 | B*：ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 (振動診断：6 M) |
| | | | | | 130M | ○ | 17回 | | |
| | | | | | 130M | ○ | 17回 | | |
| | | | | | 130M | — | 15回 | | |
| 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃料取替用水設備〕 その他の弁 | 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設 〔燃 | 1.分解点検他 | 高 | B | — | 17回 | 1次系弁検査 | 一部先行実施 | |
| | | | | 130M | ○ | 17回 | | | |
| | | | | 130M | ○ | 17回 | | | |
| | | | | 130M | — | 15回 | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|---------------------------|---------------|---------------|--------|----------|---------|--------------|--------------|------------------------|--|
| 原子炉冷却系統施設 [一次冷却材の循環設備] | A 蒸気発生器 | 伝熱管 3,382本 | 高 | 26M | — | 17回 | 蒸気発生器伝熱管体積検査 | | |
| | | 1次側 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 1次系熱交換器検査 | | |
| | | 2次側 | 高 | 13M | ○ | 17回 | | | |
| | | | | 高 | 13M | ○ | 17回 | | |
| | | | | 26M | ○ | — | | | |
| | | マンホール | 高 | 13M | ○ | 17回 | | | |
| | B 蒸気発生器 | 伝熱管 3,382本 | 高 | 26M | ○ | 16回 | 蒸気発生器伝熱管体積検査 | | |
| | | 1次側 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 1次系熱交換器検査 | | |
| | | 2次側 | 高 | 13M | ○ | 17回 | | | |
| | | | | 高 | 13M | ○ | 17回 | | |
| | | | | 26M | ○ | — | | | |
| | | マンホール | 高 | 13M | ○ | 17回 | | | |
| C 蒸気発生器 | 伝熱管 3,382本 | 高 | 26M | — | 17回 | 蒸気発生器伝熱管体積検査 | | | |
| | 1次側 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 1次系熱交換器検査 | | | |
| | 2次側 | 高 | 13M | ○ | 17回 | | | | |
| | | | 高 | 13M | ○ | 17回 | | | |
| | | | 26M | ○ | — | | | | |
| | マンホール | 高 | 13M | ○ | 17回 | | | | |
| D 蒸気発生器 | 伝熱管 3,382本 | 高 | 26M | ○ | 16回 | 蒸気発生器伝熱管体積検査 | | | |
| | 1次側 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 1次系熱交換器検査 | | | |
| | 2次側 | 高 | 13M | ○ | 17回 | | | | |
| | | | 高 | 13M | ○ | 17回 | | | |
| | | | 26M | ○ | — | | | | |
| | マンホール | 高 | 13M | ○ | 17回 | | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|---------------------------|-----------------|------------------------------|-----------------------|----------|---------|--------------|----------------------|------------------------|--|
| 原子炉冷却系統施設 [一次冷却材の循環設備] | 加圧器 加圧器安全弁 | 1. 開放点検 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 加圧器安全弁機能検査 | | |
| | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | | |
| | | 2. 漏えい試験 | | B | ○ | 17回 | | | |
| | 加圧器逃がし弁 | 4V-RC-055 | 3. 分解点検 | | 13M | ○ | 17回 | 加圧器安全弁分解検査 | |
| | | 4V-RC-056 | | | | | | | |
| | | 4V-RC-057 | | | | | | | |
| | 加圧器逃がし弁 | 4PCV-452A | 1. 機能・性能試験 (駆動部含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 加圧器逃がし弁機能検査 | |
| | | | 2. 漏えい試験 | | 1F | ○ | 17回 | 加圧器逃がし弁漏えい検査 | |
| | | | 3. 分解点検 | | 26M | ○ | 16回 | 加圧器逃がし弁分解検査 | |
| | 加圧器逃がし弁駆動部 | 4PCV-452B | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 16回 | | |
| | | | 2. 簡易点検 (特性点検) | | 13M | ○ | 17回 | | |
| | | | 1. 機能・性能試験 (駆動部含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 加圧器逃がし弁機能検査 | |
| | 加圧器逃がし弁前弁 | 2個 | 2. 漏えい試験 | | 1F | ○ | 17回 | 加圧器逃がし弁漏えい検査 | |
| | | | 3. 分解点検 | | 26M | — | 17回 | 加圧器逃がし弁分解検査 | |
| | | | 1. 分解点検 | 高 | 26M | — | 17回 | | |
| | 加圧器逃がし弁前弁駆動部 | 4V-RC-054A 4V-RC-054B | 2. 簡易点検 (特性点検) | | 13M | ○ | 17回 | | |
| | | | 1. 機能・性能試験 (駆動部含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 加圧器逃がし弁元弁機能検査 | |
| | | | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 13回 | | |
| | 加圧器逃がし弁前弁駆動部 | 2個 | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 14回 | | |
| | | | 1. 分解点検 | 高 | 78M | ○ | 16回 | | |
| 2. 簡易点検 (特性点検) | | | | 13M~78M | ○ | 17回 | | | |
| A.1 次冷却材ポンプ・電動機 | A.1 次冷却材ポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1次冷却材ポンプ機能検査 | 一部定期事業者検査起動後 | |
| | | 2. 分解点検 (ポンプ) | | 130M | — | 17回 | | | |
| | | 3. 分解点検 (メカニカルシール ポンプ) | | 13M | ○ | 17回 | 1次冷却材ポンプメカニカルシール分解検査 | 一部先行実施 | |
| | | 4. 分解点検 (フライホイール 電動機) | | 104M | ○ | 10回 | | | |
| | | 5. 分解点検 (軸受分解 電動機) | | 52M | ○ | 14回 | | | |
| | | 6. 分解点検 (全分解 電動機) | | 104M | — | 14回 | | | |
| | | 7. 簡易点検 (潤滑油入替 電動機) | | 26M | ○ | 17回 | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) 一部定期事業者検査起動後 | |
|---------------------------|-----------------|----------------------|--------|----------|---------|--------------|-----------------------|--|--------|
| 原子炉冷却系統施設 [一次冷却材の循環設備] | B 1 次冷却材ポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次冷却材ポンプ機能検査 | 一部定期事業者検査起動後 | |
| | | 2. 分解点検(ポンプ) | | 130M | — | 16回 | | | |
| | | 3. 分解点検(メカニカルシールポンプ) | | 13M | ○ | 17回 | 1 次冷却材ポンプメカニカルシール分解検査 | | 一部先行実施 |
| | | 4. 分解点検(フライホイール電動機) | | 104M | — | 16回 | | | |
| | | 5. 分解点検(軸受分解電動機) | | 52M | — | 16回 | | | |
| | | 6. 分解点検(全分解電動機) | | 104M | — | 16回 | | | |
| | | 7. 簡易点検(潤滑油入替電動機) | | 26M | ○ | 16回 | | | |
| | C 1 次冷却材ポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次冷却材ポンプ機能検査 | 一部定期事業者検査起動後 | |
| | | 2. 分解点検(ポンプ) | | 130M | — | 15回 | | | |
| | | 3. 分解点検(メカニカルシールポンプ) | | 13M | ○ | 17回 | 1 次冷却材ポンプメカニカルシール分解検査 | | 一部先行実施 |
| | | 4. 分解点検(フライホイール電動機) | | 104M | — | 17回 | | | |
| | | 5. 分解点検(軸受分解電動機) | | 52M | — | 17回 | | | |
| | | 6. 分解点検(全分解電動機) | | 104M | — | 17回 | | | |
| | | 7. 簡易点検(潤滑油入替電動機) | | 26M | — | 17回 | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | | |
|----------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|-------------------------|----------|----------|--------------|-----------------------|------------------------|--------------------------|--|
| 原子炉冷却系統施設 [一次冷却材の循環設備] | D 1 次冷却材ポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次冷却材ポンプ機能検査 | 一部定期事業者検査起動後 | | |
| | | 2. 分解点検 (ポンプ) | | 130M | — | 12回 | | | | |
| | | 3. 分解点検 (メカニカルシール) (ポンプ) | | 13M | ○ | 17回 | 1 次冷却材ポンプメカニカルシール分解検査 | | 一部先行実施 | |
| | | 4. 分解点検 (フライホイール) (電動機) | | 104M | — | 11回 | | | | |
| | | 5. 分解点検 (軸受分解) (電動機) | | 52M | — | 15回 | | | | |
| | | 6. 分解点検 (全分解) (電動機) | | 104M | — | 11回 | | | | |
| | | 7. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機) | | 26M | — | 17回 | | | | |
| | 原子炉冷却系統施設 [一次冷却材の循環設備] その他の弁 | 1式 | 1. 機能・性能試験 | 高・低 | B | ○ | 17回 | 1 次系弁検査 | 有効性評価 No.4の反映 一部B.Mあり | |
| | | | 2. 分解点検 | 高 | 52M~130M | ○ | 17回 | | | |
| | | | 3. 分解点検 | 低 | 78M~130M | ○ | 17回 | 1 次系弁検査 | | |
| | | | 4. 簡易点検 (グラントパッキン取替) | 高・低 | 39M~130M | ○ | 17回 | | | |
| | | | 1. 機能・性能試験 | 高・低 | B | ○ | 17回 | 1 次系弁検査 | | |
| | | | 2. 分解点検 | | 26M~65M | ○ | 17回 | | | |
| | | | 3. 簡易点検 (特許点検) | | 13M~65M | ○ | 17回 | | | |
| 原子炉冷却系統施設 [一次冷却材の循環設備] その他の機器 | 1式 | 1. 分解点検他 | 高 | 13M~104M | ○ | 17回 | | | | |
| | | 2. 分解点検他 | 低 | 13M~65M | ○ | 17回 | | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|---------------------------|--|--------------------|--------|----------|---------|---------------|----------------------------------|------------------------|---------------------------------|
| 原子炉冷却系統施設 [主蒸気・主給水設備] | 主蒸気安全弁 20個 B, D系 4V-MS-526B 4V-MS-527B 4V-MS-528B 4V-MS-529B 4V-MS-530B 4V-MS-526D 4V-MS-527D 4V-MS-528D 4V-MS-529D 4V-MS-530D | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 主蒸気安全弁機能検査 | | |
| | | 1. 漏えい試験 | 高 | B | - | 17回 | 主蒸気安全弁漏えい検査 | | |
| | | 2. 分解点検 | | 26M | - | 17回 | | | |
| | | 1. 漏えい試験 | 高 | B | ○ | 16回 | 主蒸気安全弁漏えい検査 | | |
| | | 2. 分解点検 | | 26M | ○ | 16回 | | | |
| | | 1. 機能・性能試験 (駆動部含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 主蒸気逃がし弁機能検査 最終ヒートシンク熱輸送設備作動検査 | | 最終ヒートシンク熱輸送設備作動検査は、15回施設設定時から設定 |
| | | 1. 漏えい試験 | 高 | B | ○ | 17回 | 主蒸気逃がし弁漏えい検査 | | |
| | | 2. 分解点検 | | 13M | ○ | 17回 | | | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 52M | - | 16回 | | | |
| | | 2. 簡易点検 (特性点検) | | 13M | ○ | 17回 | | | |
| | 主蒸気隔離弁 4個 4V-MS-533A 4V-MS-533B 4V-MS-533C 4V-MS-533D | 1. 機能・性能試験 (駆動部含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 主蒸気隔離弁機能検査 | | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 39M | ○ | 15回 | 2次系弁検査 | | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 39M | - | 17回 | 2次系弁検査 | | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 39M | - | 16回 | 2次系弁検査 | | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 39M | ○ | 15回 | 2次系弁検査 | | |
| 主蒸気隔離弁駆動部 15個 | 1. 分解点検 | 高 | 39M | ○ | 17回 | | | | |
| | 2. 簡易点検 (特性点検) | | 13M | ○ | 17回 | | | | |
| | 1. 機能・性能試験 (駆動部含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | タービンバイパス弁機能検査 | | | |
| タービンバイパス弁 タービンバイパス弁駆動部 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 17回 | | | | |
| | 2. 簡易点検 (特性点検) | | 52M | ○ | 17回 | | | | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 13M | ○ | 17回 | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) |
|--------------------------------------|-------------------------------------|----------------------------|--------|---------------------------|---------|---------------|---|--|
| 原子炉冷却系統施設 〔主蒸気・主給水設備〕 | 原子炉冷却系統施設〔主蒸気・主給水設備〕 1式 その他の弁 | 1.機能・性能試験 | 高・低 | B 26M～130M | ○ | 17回 | 2次系弁検査 | 一部BMあり |
| | | 2.分解点検 | | | | | | |
| | | 3.簡易点検 (グラウンドバッドバッキン取替) | | | | | | |
| | | 1.機能・性能試験 | | | | | | |
| | | 2.分解点検 | | | | | | |
| 原子炉冷却系統施設 〔主蒸気・主給水設備〕 その他の弁駆動部 | 原子炉冷却系統施設〔主蒸気・主給水設備〕 1式 | 3.簡易点検 (特許点検) | 高・低 | B 26M～182M 13M～182M | ○ | 17回 | 2次系弁検査 | 有効性評価 No.5の反映 |
| | | 1.分解点検他 | | | | | | |
| | | 2.分解点検他 | | | | | | |
| | | 1.機能・性能試験 | | | | | | |
| | | 2.分解点検 (ポンプ) | | | | | | |
| 原子炉冷却系統施設 〔余熱除去設備〕 | A余熱除去ポンプ・電動機 | 3.簡易点検 (電動機) | 高 | B* 78M | ○ | 14回 | 1次系ポンプ機能検査 非常用炉心冷却系ポンプ分 解検査 その他原子炉注水系ポンプ 分解検査 | B*：ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 (振動診断：3M) その他原子炉注水系ポンプ 分解検査は、15回施設定検 から設定 有効性評価 No.12の反映 |
| | | 4.潤滑油入替 (ポンプ) | | | | | | |
| | | 5.簡易点検 (潤滑油入替) (電動機) | | | | | | |
| | | 3.分解点検 (電動機) | | | | | | |
| | | 4.潤滑油入替 (ポンプ) | | | | | | |
| 原子炉冷却系統施設 〔余熱除去ポンプ・電動機〕 | B余熱除去ポンプ・電動機 | 1.機能・性能試験 | 高 | B* 78M | - | 15回 | 1次系ポンプ機能検査 | B*：ポンプまたは電動機 の分解点検にあわせて実施 (振動診断：3M) その他原子炉注水系ポンプ 分解検査は、15回施設定検 から設定 有効性評価 No.12の反映 |
| | | 2.分解点検 (ポンプ) | | | | | | |
| | | 3.分解点検 (電動機) | | | | | | |
| | | 4.潤滑油入替 (ポンプ) | | | | | | |
| | | 5.簡易点検 (潤滑油入替) (電動機) | | | | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|-------------------------------|----------------------------|-----------------------|------------|-----------|---------|---------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|
| 原子炉冷却系統施設 〔余熱除去設備〕 | 低圧注入系主要弁 | 4V-RH-050A | 高 | 130M | — | 11回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分解検査は、15回施設定検から設定 | |
| | | 4V-RH-050B | 高 | 130M | — | 17回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分解検査は、15回施設定検から設定 | |
| | 4V-RH-050C | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 12回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分解検査は、15回施設定検から設定 | |
| | | 4V-RH-050D | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 17回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分解検査は、15回施設定検から設定 |
| | 4V-RH-051A | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 12回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分解検査は、15回施設定検から設定 | |
| | | 4V-RH-051B | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 13回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分解検査 | |
| | A 余熱除去冷却器 | 1式 | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 16回 | 1次系熱交換器検査 | |
| | | | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 16回 | 1次系熱交換器検査 | |
| | | | 3. 漏えい試験 | | 130M | — | 16回 | | |
| | B 余熱除去冷却器 | 1式 | 1. 開放点検 | 高 | 130M | ○ | 11回 | 1次系熱交換器検査 | |
| | | | 2. 非破壊試験 | | 130M | ○ | 11回 | 1次系熱交換器検査 | |
| | | | 3. 漏えい試験 | | 130M | ○ | 11回 | | |
| | 原子炉冷却系統施設〔余熱除去設備〕 その他の弁 | 1式 | 1. 機能・性能試験 | 高・低 | B | ○ | 17回 | 1次系弁検査 1次系安全弁検査 | 有効性評価 No.6の反映 |
| 2. 分解点検 | | | 高 | 52M～130M | ○ | 17回 | 1次系弁検査 | 一部B Mあり | |
| 3. 分解点検 | | | 低 | 104M～130M | — | 16回 | | 有効性評価 No.1の反映 | |
| 原子炉冷却系統施設〔余熱除去設備〕 その他の弁駆動部 | 1式 | 4. 簡易点検 (グラウンドパッキン取替) | 高・低 | 65M～130M | ○ | 17回 | | | |
| | | 1. 機能・性能試験 | 高・低 | B | ○ | 17回 | 1次系弁検査 | | |
| | | 2. 分解点検 | | 65M～182M | ○ | 17回 | | | |
| 原子炉冷却系統施設〔余熱除去設備〕 その他機器 | 1式 | 3. 簡易点検 (特性点検) | | 13M～182M | ○ | 17回 | | | |
| | | 1. 分解点検他 | 高 | 13M～130M | ○ | 17回 | | 有効性評価 No.13の反映 | |
| | | 2. 分解点検他 | 低 | 65M～130M | ○ | 17回 | | | |
| その他AM(代替再循環) 機器 | 1式 | 1. 分解点検他 | 高 | 130M～182M | — | 13回 | 1次系弁検査 | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|--------------------------|--|---------------------------------------|--------------------------------------|----------|---------|--------------|---------------|--|---|
| 原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] | 高圧及び低圧注入系 (弁駆動除去設備(低圧注入機能)を含む) その他原子炉注水系 | 1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機、弁、 弁駆動部等含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 非常用炉心冷却系機能検査 | [対象設備] ・A, B低圧注入系 ・A, B高圧注入系 ・B高圧注入系(電動機海水 冷却) ・A, B, C充てん系(電動機自己冷 却) 15回施設定検から設定 | |
| | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | その他原子炉注水系機能検査 | | |
| | A 高圧注入ポンプ・電動機 | | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 130M | — | 12回 | 非常用炉心冷却系ポンプ分 解検査 その他原子炉注水系ポンプ 分解検査 | (振動診断: 3M) その他原子炉注水系ポンプ 分解検査は、15回施設定検 から設定 |
| | | | 2. 分解点検 (電動機) | | 91M | ○ | 15回 | | |
| | | | 3. 簡易点検 (メカニカルシール取 替) (ポンプ) | | 130M | — | 12回 | | |
| | | | 4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ) | | 26M | ○ | 16回 | | |
| | B 高圧注入ポンプ・電動機 | | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 130M | — | 11回 | 非常用炉心冷却系ポンプ分 解検査 その他原子炉注水系ポンプ 分解検査 | (振動診断: 3M) その他原子炉注水系ポンプ 分解検査は、15回施設定検 から設定 |
| | | | 2. 分解点検 (電動機) | | 91M | — | 15回 | | |
| | | | 3. 簡易点検 (メカニカルシール取 替) (ポンプ) | | 130M | — | 11回 | | |
| | | | 4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ) | | 26M | — | 17回 | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|--------------------------|------------------|---------------------------|---------------------|----------|---------|--------------|---------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|
| 原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] | 恒設代替低圧注水系 | 1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | その他原子炉注水系機能検査 原子炉格納容器安全系機能検査 | 15回施設定検時に設置 | |
| | | 1台 | 1. 機能・性能試験 漏えい試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | 15回施設定検時に設置 |
| | | | 2. 分解点検 (ポンプ) | | 130M | — | — | — | その他原子炉注水系ポンプ分解検査 |
| | 3. 分解点検 (電動機) | | | 130M | — | — | — | 原子炉格納容器安全系ポンプ分解検査 | |
| | 可搬式代替低圧注水ポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 15M | ○ | 17回 | 17回 | 可搬型重大事故等対応設備機能検査 | プラント運転中又は定期事業者検査停止中 15回施設定検時に設置 |
| | | 2. 分解点検 (ポンプ) | | 10Y | — | — | — | | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | | 130M | — | — | — | | |
| | 高圧注入系主要弁 | 4V-SI-082A | 1. 分解点検 | 高 | 260M | ○ | — | 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 | |
| | | 4V-SI-082B | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 15回 | 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 | |
| | | 4V-SI-082C | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 16回 | 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 | |
| | | 4V-SI-082D | 1. 分解点検 | 高 | 260M | ○ | — | 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 | |
| | | 4V-SI-072A | 1. 分解点検 | 高 | 260M | — | 7回 | 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査 | その他原子炉注水系主要弁分解検査は、15回施設定検から設定 |
| | | 4V-SI-072B | 1. 分解点検 | 高 | 260M | — | 5回 | 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査 | その他原子炉注水系主要弁分解検査は、15回施設定検から設定 |
| | | 4V-SI-072C | 1. 分解点検 | 高 | 260M | — | 6回 | 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査 | その他原子炉注水系主要弁分解検査は、15回施設定検から設定 |
| | | 4V-SI-072D | 1. 分解点検 | 高 | 260M | — | 5回 | 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 その他原子炉注水系主要弁分解検査 | その他原子炉注水系主要弁分解検査は、15回施設定検から設定 |
| | | 4V-SI-079A | 1. 分解点検 | 高 | 260M | — | 5回 | 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 | |
| | 4V-SI-079B | 1. 分解点検 | 高 | 260M | — | 6回 | 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 | | |
| | 4V-SI-079C | 1. 分解点検 | 高 | 260M | — | 6回 | 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 | | |
| | 4V-SI-079D | 1. 分解点検 | 高 | 260M | — | 6回 | 非常用炉心冷却系主要弁分解検査 | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) |
|--------------------------|------------|--------------------------|---------|----------|---------|---------------|--|--|
| 原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] | 蓄圧注入系 | 1. 機能・性能試験 (弁、弁駆動部含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 非常用炉心冷却系機能検査 その他原子炉注水系機能検査 | その他原子炉注水系機能検査は、15回施設定検から設定 |
| | | 4V-SI-132A | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 13回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分 解検査 その他原子炉注水系主要弁 弁分検査 |
| | 4V-SI-132B | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 14回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分 解検査 その他原子炉注水系主要弁 弁分検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分検査は、15回施設定検から設定 |
| | 4V-SI-132C | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 15回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分 解検査 その他原子炉注水系主要弁 弁分検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分検査は、15回施設定検から設定 |
| | 4V-SI-132D | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 16回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分 解検査 その他原子炉注水系主要弁 弁分検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分検査は、15回施設定検から設定 |
| | 4V-SI-134A | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 14回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分 解検査 その他原子炉注水系主要弁 弁分検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分検査は、15回施設定検から設定 |
| | 4V-SI-134B | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 17回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分 解検査 その他原子炉注水系主要弁 弁分検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分検査は、15回施設定検から設定 |
| | 4V-SI-134C | 1. 分解点検 | 高 | 130M | ○ | 9回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分 解検査 その他原子炉注水系主要弁 弁分検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分検査は、15回施設定検から設定 |
| | 4V-SI-134D | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 10回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分 解検査 その他原子炉注水系主要弁 弁分検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分検査は、15回施設定検から設定 |
| | 4V-SI-136A | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 15回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分 解検査 その他原子炉注水系主要弁 弁分検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分検査は、15回施設定検から設定 |
| | 4V-SI-136B | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 11回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分 解検査 その他原子炉注水系主要弁 弁分検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分検査は、15回施設定検から設定 |
| | 4V-SI-136C | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 13回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分 解検査 その他原子炉注水系主要弁 弁分検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分検査は、15回施設定検から設定 |
| | 4V-SI-136D | 1. 分解点検 | 高 | 130M | ○ | 8回 | 非常用炉心冷却系主要弁弁分 解検査 その他原子炉注水系主要弁 弁分検査 | その他原子炉注水系主要弁弁分検査は、15回施設定検から設定 |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) |
|--------------------------|-----------------------------------|---|----------|---------------------------------|-------------|---|---|-------------------------|
| 原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] | 蓄圧注入系主要弁駆動部 | 1. 分解点検 2. 簡易点検 (特性点検) | 高 | 182M 13M~182M | — ○ | 15回 17回 | | |
| | A 蓄圧タンク | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 14回 | | |
| | B 蓄圧タンク | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 15回 | | |
| | C 蓄圧タンク | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 16回 | | |
| | D 蓄圧タンク | 1. 開放点検 | 高 | 130M | ○ | 10回 | | |
| | 燃料取替用水ピット | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | |
| | A, B格納容器再循環サン | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | |
| | A, B格納容器再循環サン | 1. 外観点検 2. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | 13回施設定検にて設置 |
| | 原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] その他の弁 | 1. 機能・性能試験 2. 分解点検 | 高・低 | B 78M~260M | ○ ○ | 17回 17回 | 原子炉格納容器再循環サン プスクリーン検査 1次系弁検査 1次系安全弁検査 1次系弁検査 1次系逆止弁検査 | 有効性評価 No.9の反映 一部BMあり |
| | 原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] その他の弁駆動部 | 3. 分解点検 4. 簡易点検 (クランパッドパッキン取替) | 低 高・低 | 78M~260M 78M~130M | ○ ○ | 17回 17回 | | |
| | 原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] その他機器 | 1. 機能・性能試験 2. 分解点検 | 高・低 | B 65M~182M | ○ ○ | 17回 17回 | 1次系弁検査 | |
| | 原子炉冷却系統施設 [非常用炉心冷却設備] 充てんポンプ | 3. 簡易点検 (特性点検) 1. 分解点検他 2. 分解点検他 | 高 低 | 13M~182M 13M~91M 13M~130M | ○ ○ ○ | 17回 17回 | | |
| | 原子炉冷却系統施設 [化学体積制御設備] | 1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機等含む) 3台 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 充てんポンプ冷却材補給系 機能検査 | |
| A 充てんポンプ・電動機 | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 78M | — | 17回 | その他原子炉注水系ポンプ 分解検査 化学体積制御系充てんポン プ分解検査 | (振動診断: 6M) その他原子炉注水系ポンプ 分解検査は、15回施設定検 から設定 有効性評価 No.14の反映 | |
| | 2. 分解点検 (電動機) | | 130M | ○ | 16回 | | | |
| | 3. 簡易点検 (メカニカルシール取替) (ポンプ) | | 26M | — | 17回 | | | |
| | 4. 簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ) | | 26M | — | 17回 | | | |
| | 5. 簡易点検 (潤滑油入替) (電動機) | | 13M | ○ | 17回 | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | | | | | | | | | | |
|-------------------------|--------------|--|-----------------------|----------|---------|------------------------|---------------------------------------|---|-------------------------------|-------------------------------|----------------------------|---|------|------|-----|----------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 原子炉冷却系統施設 〔化学体積制御設備〕 | B 充てんポンプ・電動機 | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 78M | — | 16回 | その他原子炉注水系ポンプ分解検査 化学体積制御系充てんポンプ分解検査 | (振動診断: 6M) その他原子炉注水系ポンプ分解検査は、15回施設定検から設定 有効性評価 No.14の反映 | | | | | | | | | | |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 130M | — | 15回 | | | | | | | | | | | | |
| | | 3. 簡易点検 (メカニカルシール取替 (ポンプ)) | | 26M | ○ | 16回 | | | | | | | | | | | | |
| | | 4. 簡易点検 (潤滑油入替 (ポンプ)) | | 26M | ○ | 16回 | | | | | | | | | | | | |
| | | 5. 簡易点検 (潤滑油入替 (電動機)) | | 13M | ○ | 17回 | | | | | | | | | | | | |
| | C 充てんポンプ・電動機 | | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 65M | ○ | 14回 | その他原子炉注水系ポンプ分解検査 | (電動機 振動診断: 6M) | | | | | | | | | |
| | | | 2. 分解点検 (電動機) | | CBM | — | 13回 | | | | | | | | | | | |
| | | | 3. 簡易点検 (潤滑油入替 (ポンプ)) | | 26M | — | 17回 | | | | | | | | | | | |
| | | | 1. 分解点検 | | 高 | 130M | — | | | 14回 | その他原子炉注水系主要弁分解検査 1次系弁検査 | 有効性評価 No.25の反映 その他原子炉注水系ポンプ分解検査は、15回施設定検から設定 | | | | | | |
| | 1. 分解点検 | 130M | — | 15回 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1. 分解点検 | 130M | — | 10回 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1. 分解点検 | 130M | — | 13回 | | | | | | | | | | | | | | |
| | その他原子炉注水系主要弁 | 4V-CS-155 | | 高 | 130M | — | 10回 | その他原子炉注水系主要弁分解検査 1次系弁検査 | その他原子炉注水系主要弁分解検査は、15回施設定検から設定 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 4V-CS-157 | | 高 | 130M | — | 15回 | その他原子炉注水系主要弁分解検査 1次系弁検査 | その他原子炉注水系主要弁分解検査は、15回施設定検から設定 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4V-CS-164 |
| | | | | | | | | | | 4V-CS-166 | | 高 | 130M | — | 10回 | その他原子炉注水系主要弁分解検査 1次系弁検査 | その他原子炉注水系主要弁分解検査は、15回施設定検から設定 | |
| | | 体積制御タンク 冷却材フィルタ A 冷却材脱塩塔入口フィルタ B 冷却材脱塩塔入口フィルタ A 封水注入フィルタ B 封水注入フィルタ 非再生冷却器 | | | 高 | 130M | — | 10回 | 1次系熱交換器検査 1次系熱交換器検査 | その他原子炉注水系主要弁分解検査は、15回施設定検から設定 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 封水冷却器 | | 高 | 130M | — | 11回 | 1次系熱交換器検査 1次系熱交換器検査 | その他原子炉注水系主要弁分解検査は、15回施設定検から設定 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 封水冷却器 | | 高 | 130M | — | 12回 | 1次系熱交換器検査 1次系熱交換器検査 | その他原子炉注水系主要弁分解検査は、15回施設定検から設定 |
| 封水冷却器 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 封水冷却器 | | 高 | 130M | — | 16回 | 1次系熱交換器検査 1次系熱交換器検査 | その他原子炉注水系主要弁分解検査は、15回施設定検から設定 |
| 封水冷却器 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 封水冷却器 | | 高 | 130M | — | 16回 | 1次系熱交換器検査 1次系熱交換器検査 | その他原子炉注水系主要弁分解検査は、15回施設定検から設定 |
| 封水冷却器 | | 高 | 130M | — | 16回 | 1次系熱交換器検査 1次系熱交換器検査 | その他原子炉注水系主要弁分解検査は、15回施設定検から設定 | | | | | | | | | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) |
|-------------------------------------|---------------------------------|----------------------------|--------|----------|---------|--------------|--------------------|--|
| 原子炉冷却系統施設 〔化学体積制御設備〕 | 原子炉冷却系統施設〔化学体積制御設備〕 その他の弁 | 1.機能・性能試験 | 高・低 | B | ○ | 17回 | 1次系弁検査 | 一部BMあり 有効性評価 No.2の反映 |
| | | 2.分解点検 | 高 | 13M~260M | ○ | 17回 | 1次系安全弁検査 | |
| | | 3.分解点検 | 低 | 78M~260M | ○ | 17回 | 1次系弁検査 1次系逆止弁検査 | |
| | | 4.簡易点検 (グラウンドバッドキックン取替) | 高・低 | 65M~130M | ○ | 17回 | 1次系逆止弁検査 | |
| 原子炉冷却系統施設 〔化学体積制御設備〕 その他の弁駆動部 | 原子炉冷却系統施設〔化学体積制御設備〕 その他の弁駆動部 | 1.機能・性能試験 | 高・低 | B | ○ | 17回 | 1次系弁検査 | 一部BMあり |
| | | 2.分解点検 | | 52M~182M | ○ | 17回 | | |
| | | 3.簡易点検 (特性点検) | | 13M~182M | ○ | 17回 | | |
| | | 1.分解点検他 | 高 | 13M~130M | ○ | 17回 | | |
| 原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却設備〕 | 原子炉補機冷却系(冷却水系) | 2.分解点検他 | 低 | 13M~130M | ○ | 17回 | | 一部BMあり |
| | | 1.機能・性能試験 (弁、弁駆動部等含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 原子炉補機冷却系機能検査 | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却設備〕 | A原子炉補機冷却水ポンプ・電動機 | 1.機能・性能試験 | 高 | B* | — | 15回 | 1次系ポンプ機能検査 | B*：ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施(振動診断：6M) 有効性評価 No.15の反映 有効性評価 No.16の反映 B*：ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施(振動診断：6M) 有効性評価 No.15の反映 |
| | | 2.分解点検 (ポンプ) | | 52M | — | 17回 | | |
| | | 3.分解点検 (電動機) | | 130M | — | 15回 | | |
| | | 4.簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ) | | 26M | — | 17回 | | |
| | | 5.簡易点検 (潤滑油入替) (電動機) | | 52M | — | 16回 | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| 原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却設備〕 | B原子炉補機冷却水ポンプ・電動機 | 1.機能・性能試験 | 高 | B* | — | 15回 | 1次系ポンプ機能検査 | B*：ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施(振動診断：6M) 有効性評価 No.15の反映 |
| | | 2.分解点検 (ポンプ) | | 52M | — | 15回 | | |
| | | 3.分解点検 (電動機) | | 130M | — | 16回 | | |
| | | 4.簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ) | | 26M | ○ | 16回 | | |
| | | 5.簡易点検 (潤滑油入替) (電動機) | | 52M | — | 16回 | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) |
|--|---|----------------------|----------------------|----------|---------|-------------------------|------------------------------|---|
| 原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却設備] | C原子炉補機冷却水ポンプ・電動機 | 1.機能・性能試験 | 高 | B* | ○ | 16回 | 1次系ポンプ機能検査 | B* : ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 (振動診断 : 6 M) 有効性評価 No.15の反映 |
| | | 2.分解点検 (ポンプ) | | 52M | — | 16回 | | |
| | | 3.分解点検 (電動機) | | 130M | ○ | 13回 | | |
| | | 4.簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ) | | 26M | ○ | 16回 | | |
| | | 5.簡易点検 (潤滑油入替) (電動機) | | 52M | ○ | 16回 | | |
| | D原子炉補機冷却水ポンプ・電動機 | 1.機能・性能試験 | 高 | B* | ○ | 15回 | 1次系ポンプ機能検査 | B* : ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 (振動診断 : 6 M) 有効性評価 No.15の反映 |
| | | 2.分解点検 (ポンプ) | | 52M | ○ | 15回 | | |
| | | 3.分解点検 (電動機) | | 130M | — | 15回 | | |
| | | 4.簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ) | | 26M | ○ | 17回 | | |
| | | 5.簡易点検 (潤滑油入替) (電動機) | | 52M | ○ | 16回 | | |
| | 格納容器水素ガス試験冷却器用可搬型冷却水ポンプ 原子炉補機冷却水サージタンク 原子炉補機冷却水サージタンク真空逃がし弁 A原子炉補機冷却水冷却器 B原子炉補機冷却水冷却器 | 1.開放点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 可搬型重大事故等対応設備機能検査 | 15回施設定検時に設置 |
| | | 1.開放点検 | | 130M | ○ | 10回 | | |
| | | 1.開放点検 | | 130M | ○ | 10回 | | |
| | | 2.非破壊試験 | | 13M | ○ | 17回 | | |
| | | 3.漏えい試験 | | 13M | ○ | 17回 | | |
| 原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却水設備] 其他の弁 | 1.開放点検 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 1次系熱交換器検査 | 1次系熱交換器検査 | |
| | 2.非破壊試験 | | 26M | ○ | 16回 | | | |
| | 3.漏えい試験 | | 13M | ○ | 17回 | | | |
| | 1.機能・性能試験 | | B | ○ | 17回 | | | |
| | 2.分解点検 | | 130M | ○ | 17回 | | | |
| 原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却水設備] 其他の弁駆動部 | 1.機能・性能試験 | 高・低 | 130M~195M | ○ | 17回 | 一部先行実施 有効性評価 No.7の反映 | 1次系弁検査 1次系安全弁検査 1次系弁検査 | |
| | 2.分解点検 | | B | ○ | 17回 | | | |
| | 3.簡易点検 (グランドバッキング取替) | | 65M~182M 13M~182M | ○ | 17回 | | | |
| | 1.開放点検 | | 13M~130M | ○ | 17回 | | | |
| | 2.分解点検他 | | 13M~65M | ○ | 17回 | | | |
| 原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却水設備] 其他AM (代替補機冷却、格納容器自然対流冷却) 機器 | 1.分解点検他 | 高 | 13M~130M | ○ | 17回 | 1次系弁検査 | | |
| | 2.分解点検他 | | 13M~65M | ○ | 17回 | | | |
| | 1.分解点検他 | 高 | 13M~130M | ○ | 17回 | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|--------------------------------------|--|---|---|---------------------|---------|---------------|---|---|--------------|
| 原子炉冷却系統施設 〔原子炉補機冷却海水設備〕 | 原子炉補機冷却系 (海水系) | 1. 機能・性能試験 (弁、弁駆動部等含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 原子炉補機冷却系統機能検査 | | |
| | A 海水ポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 高 | B* | — | 16回 | 2次系ポンプ機能検査 | B* : ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 先行実施 | |
| | | 2. 分解点検 (ポンプ) | | 52M | — | 16回 | 2次系ポンプ分解検査 | | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | | 104M | — | 16回 | | | |
| | | 4. 簡易点検 (グラウンドバッキング取替) (ポンプ) | | 13M | ○ | 17回 | | | |
| | B 海水ポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 高 | B* | ○ | 15回 | 2次系ポンプ機能検査 | B* : ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 先行実施 | |
| | | 2. 分解点検 (ポンプ) | | 52M | ○ | 15回 | 2次系ポンプ分解検査 | | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | | 104M | ○ | 15回 | | | |
| | | 4. 簡易点検 (グラウンドバッキング取替) (ポンプ) | | 13M | ○ | 17回 | | | |
| | C 海水ポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 高 | B* | — | 17回 | 2次系ポンプ機能検査 | B* : ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 先行実施 | |
| | | 2. 分解点検 (ポンプ) | | 52M | — | 17回 | 2次系ポンプ分解検査 | | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | | 104M | — | 15回 | | | |
| | | 4. 簡易点検 (グラウンドバッキング取替) (ポンプ) | | 13M | ○ | 17回 | | | |
| | 原子炉冷却系統施設 〔原子炉格納容器内の一次冷却材の漏えいを監視する装置〕 | 原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却海 水設備] その他の弁 | 1. 機能・性能試験 2. 分解点検 | 高・低 | B | ○ | 17回 | 2次系弁検査 | |
| | | 原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却海 水設備] その他の弁駆動部 | 1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (特性点検) | 高 | B | — | 16回 | 2次系弁検査 | |
| 原子炉冷却系統施設 [原子炉補機冷却海 水設備] その他機器 | | 1. 分解点検他 2. 分解点検他 | 高 低 | 13M~104M 13M~52M | ○ ○ | 17回 17回 | | 一部BMあり | |
| 格納容器内凝縮液量測定装置及び 格納容器内凝縮液量測定装置 | | 1. 特性試験 | 低 | 13M | ○ | 17回 | 格納容器ポンプ水位上昇率 測定装置及び格納容器内凝 縮液量測定装置漏えい検出 器機能検査 | | |
| 設定器 2個 | | 設定器 5個 | 2. 機能・性能試験 | 低 | 1F | ○ | 17回 | 格納容器ポンプ水位上昇率 測定装置及び格納容器内凝 縮液量測定装置漏えい検出 器機能検査 | |
| | | | 検出器 2個 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 格納容器ポンプ水位上昇率 測定装置及び格納容器内凝 縮液量測定装置漏えい検出 器機能検査 | 15回施設設定検時に改造 |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|----------------------------|-------------------|---------------------------------------|-------------------------|----------------------|------------------|---------------|--------------|------------------------|------------|
| 原子炉冷却系統施設 [蒸気タービンの附属設備] | 補助給水系 | 1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機、原動機、弁、弁駆動部等含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 補助給水系機能検査 | | |
| | A 電動補助給水ポンプ・電動機 | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 52M | ○ | 15回 | 補助給水系ポンプ分解検査 | (振動診断: 3M) | |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 130M | — | 15回 | | 有効性評価 No.17の反映 | |
| | | 3. 簡易点検 (潤滑油入替他) (ポンプ) | | 26M | ○ | 17回 | | | |
| | | 4. 簡易点検 (潤滑油入替他) (電動機) | | 26M | — | 17回 | | | |
| | B 電動補助給水ポンプ・電動機 | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 52M | — | 15回 | 補助給水系ポンプ分解検査 | (振動診断: 3M) | |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 130M | ○ | 14回 | | 有効性評価 No.17の反映 | |
| | | 3. 簡易点検 (潤滑油入替他) (ポンプ) | | 26M | — | 17回 | | | |
| | | 4. 簡易点検 (潤滑油入替他) (電動機) | | 26M | ○ | 16回 | | | |
| | タービン動補助給水ポンプ・タービン | 4 復水ビット | 1. 機能・性能試験 (タービン) | 高 | B | ○ | 15回 | 2次系ポンプ機能検査 | (振動診断: 3M) |
| | | | 2. 分解点検 | | 52M | ○ | 15回 | 補助給水系ポンプ分解検査 | |
| | | | 3. 簡易点検 (ストレーナ清掃) | | 26M | ○ | 17回 | | |
| | | 原子炉冷却系統施設 [蒸気タービンの附属設備] その他の弁 | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | |
| | | | 2. 機能・性能試験 | 高 | B | ○ | 17回 | 2次系弁検査 | |
| | | | 3. 簡易点検 (フランジパッキン取替) | 高・低 | 78M~260M 130M | ○ | 17回 | 2次系弁検査 | |
| | | 原子炉冷却系統施設 [蒸気タービンの附属設備] その他の機器 | 1. 機能・性能試験 | 高 | B | ○ | 17回 | 2次系弁検査 | |
| 2. 分解点検 | | | | 78M~182M 13M~182M | ○ | 17回 | | | |
| 3. 簡易点検 (特性点検) | | | | 13M~182M | ○ | 17回 | | | |
| 計測制御系統施設 [制御材] | | 原子炉冷却系統施設 [蒸気タービンの附属設備] その他機器 | 1. 分解点検他 | 高 | 13M~130M | ○ | 17回 | | |
| | 制御棒クラスタ | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 制御棒クラスタ検査 | ※: 炉心設計による | |
| | バーナブルボイズン | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 制御棒クラスタ検査 | ※: 炉心設計による | |
| | 2次中性子源 | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 制御棒クラスタ検査 | ※: 炉心設計による | |
| シンブルアラームアセンブリ | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 制御棒クラスタ検査 | ※: 炉心設計による | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|-----------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------|------------|---------|--------------|-----------------|---|--|
| 計測制御系統施設 [制御棒駆動装置] | 制御棒クラスタ | 1.機能・性能試験 2.機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 制御棒駆動系機能検査 | | |
| | A 制御棒駆動装置MGセット | 1.分解点検 2.簡易点検 (潤滑油入替) (発電機) | 高 | 52M 13M | ○ ○ | 15回 17回 | 制御棒クラスタ動作検査 | (振動診断: 6M) | |
| 計測制御系統施設 [ほう酸注入機能を有する設備] | B 制御棒駆動装置MGセット | 1.分解点検 2.簡易点検 (潤滑油入替) (発電機) | 高 | 52M 13M | - ○ | 15回 17回 | | (振動診断: 6M) | |
| | 計測制御系統施設 [制御棒駆動装置] その他機器 | 1.分解点検他 | 高・低 | 13M~39M | ○ | 17回 | | | |
| 計測制御系統施設 [ほう酸注入機能を有する設備] | A ほう酸ポンプ・電動機 | 1.機能・性能試験 2.分解点検 (ポンプ) | 高 | B* | - | 15回 | ほう酸ポンプ機能検査 | B*: ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 (振動診断: 6M) | |
| | | 3.分解点検 (電動機) | | 78M | - | 15回 | ほう酸ポンプ分解検査 | | |
| | | 4.簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ) | | 52M | - | 15回 | | | |
| | | | | 26M | ○ | 16回 | | | |
| | B ほう酸ポンプ・電動機 | 1.機能・性能試験 2.分解点検 (ポンプ) | 高 | B* | - | 17回 | ほう酸ポンプ機能検査 | B*: ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 (振動診断: 6M) | |
| | | 3.分解点検 (電動機) | | 78M | - | 15回 | ほう酸ポンプ分解検査 | | |
| | | 4.簡易点検 (潤滑油入替) (ポンプ) | | 52M | - | 17回 | | | |
| | | | | 26M | - | 17回 | | | |
| | 計測制御系統施設 [ほう酸注入機能を有する設備] その他の弁 | A ほう酸タンク | 1.開放点検 | 高 | 130M | - | 14回 | | |
| | | A ほう酸タンク真空逃がし弁 | 1.分解点検 | 高 | 130M | - | 14回 | 1次系真空破壊弁検査 | |
| B ほう酸タンク | | 1.開放点検 | 高 | 130M | - | 13回 | | | |
| B ほう酸タンク真空逃がし弁 | | 1.分解点検 | 高 | 130M | - | 13回 | 1次系真空破壊弁検査 | | |
| ほう酸ファイルタ | | 1.開放点検 | 高 | 130M | - | 15回 | | | |
| 計測制御系統施設 [ほう酸注入機能を有する設備] その他の弁 | | 1.機能・性能試験 2.分解点検 | 高・低 | B 130M | - - | 15回 15回 | | | |
| 計測制御系統施設 [工学的安全施設等の作動信号] | A TWS緩和設備 | 1.特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 重大事故時安全停止回路機能検査 | 15回施設設定検時に設置 | |
| | | 2.機能・性能試験 | | 1F | ○ | 17回 | 重大事故時安全停止回路機能検査 | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 () 内は適用する設備診断技術) | |
|---|---|---------------------------------------|----------|----------|---------|----------------|--------------|-------------------------------|--|
| 計測制御系統施設 [制御用空気設備] | 制御用空気圧縮機 | 2台 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 制御用空気圧縮系機能検査 | | |
| | A 制御用空気圧縮機・電動機 | | 高 | 13M | ○ | 17回 | | (電動機 振動診断: 6M) | |
| | | | | 78M | — | 16回 | | 有効性評価 No.18の反映 (電動機 振動診断: 6M) | |
| | B 制御用空気圧縮機・電動機 | | 高 | 13M | ○ | 17回 | | | |
| | | | | 78M | — | 17回 | | | |
| | 代替制御用空気供給設備 | 1式 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | 有効性評価 No.18の反映 15回施設定検時に設置 | |
| | 計測制御系統施設 [制御用空気設備] その他の弁 | 一式 | 高・低 | B | ○ | 17回 | 1次系弁検査 | | |
| | | | | 13M~195M | ○ | 17回 | 1次系弁検査 | | |
| | | | | 130M | ○ | 17回 | | | |
| | 計測制御系統施設 [制御用空気設備] その他の機器 | 一式 | 高 | B | ○ | 17回 | 1次系弁検査 | | |
| | | | 13M~182M | ○ | 17回 | | | | |
| | | | 13M~182M | ○ | 17回 | | | | |
| 計測制御系統施設 [その他設備] | ・原子炉保護系ロジック回路 ・安全防護系ロジック回路 ・パネミツジブロジック回路 原子炉トランプ、工学的安全施設の始動、原子炉格納容器隔離等を行うためのすべての伝送器、設定器及び保護継電器 ・1次冷却材等計測装置 保護継電器 伝送器 設定器 ・核計測装置 設定器 重要な指示計器 ・1次冷却材等計測装置 指示計 核計測装置 指示計 | 28回路 25回路 6回路 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 安全保護系機能検査 | | |
| | | 6個 76個 117個 20個 31個 8個 | 高・低 | 13M | ○ | 17回 | 安全保護系設定値確認検査 | | |
| | | 1. 機能・性能試験 (空気圧縮機、電動機等含む) | 高 | | | | | | |
| | | 1. 分解点検 (圧縮機) | | | | | | | |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | | | | | | |
| | | 1. 分解点検 (圧縮機) | | | | | | | |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | | | | | | |
| | | 1. 機能・性能試験 | 高 | | | | | | |
| | | 2. 分解点検 | 高・低 | | | | | | |
| | | 3. 簡易点検 (特性試験) | | | | | | | |
| 1. 分解点検他 | 高 | | | | | | | | |
| 2. 分解点検他 | 低 | | | | | | | | |
| 1. 機能・性能試験 | 高 | | | | | | | | |
| 1. 特性試験 | 高・低 | | | | | | | | |
| 事故時監視計器 ・圧力監視計器 ・水位監視計器 ・流量監視計器 ・温度監視計器 | 2個 16個 8個 10個 | 高 | 13M | ○ | 17回 | プラント状態監視設備機能検査 | | | |
| 事故時試料採取設備 格納容器雰囲気ガス試料採取設備 | 1台 | 高 | 1F | ○ | 17回 | プラント状態監視設備機能検査 | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|---------------------|---|-----------------------|------------|----------|---------|--------------|-------------------|------------------------|-----------------------------|
| 計測制御系統施設 [その他設備] | ・制御棒制御系 ・加圧器水位制御系 ・加圧器圧力制御系 ・蒸気発生器水位制御系 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 計測制御系機能検査 | 一部定期事業者検査起動後 | |
| | 1式 | | | | | | | | |
| | 1次系及び2次系計測制御装置 | 1. 特性試験 | 高・低 | 13M~26M | ○ | 17回 | 計測制御系監視機能検査 | 有効性評価 No.8の反映 | |
| | 炉外核計測装置 | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 核計装設備検査 | 一部定期事業者検査起動後 | |
| | ・中性子源領域検出器 ・中間領域検出器 ・出力領域検出器 | | | | | | | | |
| | 炉内核計測装置 | 1. 機能・性能試験 2. 分解点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 核計装設備検査 | | |
| | 駆動装置 | | | | | | | | |
| | 4台 | | | | | | | | |
| | 制御棒位置指示装置 | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 制御棒位置指示装置設定値検査 | | |
| | 炉内計装用シンブルチューブ | 1. 非破壊試験 | 高 | 78M | ○ | 12回 | 炉内計装用シンブルチューブ体積検査 | | |
| | 総合インターロック信号 ・原子炉トリップ信号 (タービン、発電機トリップ) ・タービントリップ信号 (原子炉、発電機トリップ) ・発電機トリップ信号 (原子炉、タービントリップ) | 1式 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 総合インターロック検査 | |
| | 中央制御室外の原子炉の停止制御回路 | 24回路 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 原子炉の停止制御回路健全性確認検査 | |
| | 恒設代替低圧注水積算流量 | 1個 | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | フラント状態監視設備機能検査 | 15回施設定検時に設置 |
| | 原子炉水位 | 1個 | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | フラント状態監視設備機能検査 | 15回施設定検時に設置 |
| | AM用格納容器圧力 | 1個 | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | フラント状態監視設備機能検査 | フラント状態監視設備機能検査は、16回施設定検から実施 |
| | 可搬型格納容器水素ガス濃度 | 2個 | 2. 特性試験 | | 26M | ○ | 16回 | | |
| | 原子炉補機冷却水サージタンク加圧ライン圧力 | 2個 | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 計測制御系監視機能検査 | 15回施設定検時に設置 |
| | 格納容器スプレイ積算流量 | 1個 | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 計測制御系監視機能検査 | 15回施設定検時に設置 |
| | 原子炉格納容器水位 | 1対 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | フラント状態監視設備機能検査 | 15回施設定検時に設置 |
| | 原子炉下部キャビティ水位 | 1対 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | フラント状態監視設備機能検査 | 15回施設定検時に設置 |
| アニユラス水素濃度 | 2個 | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | フラント状態監視設備機能検査 | 15回施設定検時に設置 | |
| 可搬型格納容器水素ガス試料圧縮装置 | 2台 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 可搬型重大事故等対応設備機能検査 | 15回施設定検時に設置 | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | | | | |
|---------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------|---------------------|------------------|------------------|--------------|---------------------------------------|-------------------------------------|--------------|-------------------------------------|--------------|----------------------------|
| 計測制御系統施設 [その他設備] | 計測制御系統施設 [その他設備] その他の弁 | 1. 機能・性能試験 | 高・低 | B | ○ | 17回 | 1次系安全弁検査 | 一部BMあり | | | | |
| | | 2. 分解点検 | 高 | 78M~260M | ○ | 17回 | 1次系弁検査 | | | | | |
| | | 3. 分解点検 | 低 | 104M~130M | ○ | 15回 | 1次系逆止弁検査 | | | | | |
| | | 4. 簡易点検 (グラウンドバッキング取替) | 高・低 | 65M~130M | ○ | 17回 | | | | | | |
| | 放射線廃棄物の廃棄施設 [気体、液体又は固体廃棄物処理設備] | 計測制御系統施設 [その他機器] 1式 | 1. 特性試験他 | 高 | 13M~52M | ○ | 17回 | | 一部BMあり | | | |
| | | | 2. 特性試験他 | 低 | 13M~78M | ○ | 17回 | | | | | |
| | | A 格納容器冷却材ドレンポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 1. 機能・性能試験 | 低 | B* | ○ | 16回 | 液体廃棄物処理系設備検査 | B* : ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 | | |
| | | | | 2. 分解点検 (ポンプ) | | 26M | ○ | 16回 | | | | |
| | | | | 3. 分解点検 (電動機) | | 52M | — | 15回 | | | | |
| | | | B 格納容器冷却材ドレンポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 1. 機能・性能試験 | 低 | B* | — | 17回 | | 液体廃棄物処理系設備検査 | B* : ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 |
| | | | | | 2. 分解点検 (ポンプ) | | 26M | — | 17回 | | | |
| | | | | | 3. 分解点検 (電動機) | | 52M | — | 17回 | | | |
| A 格納容器サンポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 1. 機能・性能試験 | 低 | B* | — | 16回 | 液体廃棄物処理系設備検査 | B* : ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 水中ポンプ | | | | |
| | | 2. 分解点検 (ポンプ) | | 78M | — | 16回 | | | | | | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | | 78M | — | 16回 | | | | | | |
| | B 格納容器サンポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 1. 機能・性能試験 | 低 | B* | — | 15回 | | 液体廃棄物処理系設備検査 | B* : ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 水中ポンプ | | |
| | | | 2. 分解点検 (ポンプ) | | 78M | — | 15回 | | | | | |
| | | | 3. 分解点検 (電動機) | | 78M | — | 15回 | | | | | |
| A 原子炉周辺建屋サンポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 1. 機能・性能試験 | 低 | B* | — | 14回 | 液体廃棄物処理系設備検査 | B* : ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 先行実施 | | | | |
| | | 2. 分解点検 (ポンプ) | | 195M | — | 14回 | | | | | | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | | 156M | — | 13回 | | | | | | |
| | B 原子炉周辺建屋サンポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 1. 機能・性能試験 | 低 | B* | — | 15回 | | 液体廃棄物処理系設備検査 | B* : ポンプまたは電動機の分解点検にあわせて実施 先行実施 | | |
| | | | 2. 分解点検 (ポンプ) | | 195M | — | 15回 | | | | | |
| | | | 3. 分解点検 (電動機) | | 156M | — | 13回 | | | | | |
| 流体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び警報装置機能検査(最終の流入サン | 1式 | 1. 機能・性能試験 | 低 | 1F | ○ | 17回 | 流体状の放射性廃棄物の漏えいの検出装置及び警報装置機能検査(最終の流入サン | | | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数（機器名） | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期（定検回次） | 検査名 | 備考（（）内は適用する設備診断技術） | |
|---|--|--------------------------|--------|-----------|-------------|--------------|-------------|--------------------|--------|
| 放射性廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕 | 放射性廃棄物の廃棄施設〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕 その他の弁 | 1. 機能・性能試験 | 低 | B | ○ | 17回 | 1次系安全弁検査 | 一部BMあり | |
| | | 2. 分解点検 | 高・低 | 104M~130M | ○ | 17回 | 1次系弁検査 | | |
| | | 3. 簡易点検 (グラウンドパッキン取替) | 低 | 130M | - | 16回 | 1次系逆止弁検査 | | |
| 放射性廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕 その他の機器 | 放射性廃棄物の廃棄施設〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕 その他の機器 | 1. 機能・性能試験 | 低 | B | ○ | 17回 | | 一部先行実施 | |
| | | 2. 分解点検 | | 65M~130M | ○ | 17回 | | | |
| | | 3. 簡易点検 (特性点検) | | 13M~130M | ○ | 17回 | | | |
| 放射性廃棄物の廃棄施設 〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕 その他の機器 | 放射性廃棄物の廃棄施設〔気体、液体又は固体廃棄物処理設備〕 その他の機器 | 1. 分解点検他 | 低 | 13M~130M | ○ | 17回 | | 一部先行実施 一部BMあり | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 放射線管理施設 〔放射線管理用計測装置〕 | A 格納容器内高レンジエアモニタ（低レンジ） A 格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ） B 格納容器内高レンジエアモニタ（低レンジ） B 格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ） A 排気筒ガスモニタ B 排気筒ガスモニタ 格納容器じんあいモニタ 格納容器ガスモニタ 格納容器ガスモニタ 復水器空気抽出器ガスモニタ 蒸気発生器プロタウン水モニタ 原子炉補機冷却水モニタ タービン建屋床ドレン集水モニタ A 高感度型主蒸気管モニタ B 高感度型主蒸気管モニタ C 高感度型主蒸気管モニタ D 高感度型主蒸気管モニタ 冷却材連続モニタ 排気筒高レンジガスモニタ（低レンジ） 排気筒高レンジガスモニタ（高レンジ） | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | エアモニタ機能検査 | 一部先行実施 | |
| | | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | エアモニタ機能検査 | | |
| | | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | エアモニタ機能検査 | | |
| | | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | エアモニタ機能検査 | | |
| | | 1. 機能・性能試験 | 低 | 1F | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | | 2. 特性試験 | 低 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | 一部先行実施 |
| | | 1. 機能・性能試験 | 低 | 1F | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | | 2. 特性試験 | 低 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | 一部先行実施 |
| | | 1. 機能・性能試験 | 低 | 1F | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | | 2. 特性試験 | 低 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | 一部先行実施 |
| | | 1. 機能・性能試験 | 低 | 1F | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | | 2. 特性試験 | 低 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | 一部先行実施 |
| | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | | 2. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | 一部先行実施 |
| | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | | 2. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | 一部先行実施 |
| | | 1. 機能・性能試験 | 低 | 1F | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | | 2. 特性試験 | 低 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | 一部先行実施 |
| | | 1. 機能・性能試験 | 低 | 1F | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | | 2. 特性試験 | 低 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | 一部先行実施 |
| 1. 機能・性能試験 | 低 | 1F | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | | | |
| 2. 特性試験 | 低 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | 一部先行実施 | | | |
| 1. 機能・性能試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | | | |
| 2. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | 一部先行実施 | | | |
| 1. 機能・性能試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | | | |
| 2. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | 一部先行実施 | | | |
| 1. 機能・性能試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | | | |
| 2. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | 一部先行実施 | | | |
| 1. 機能・性能試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | | | |
| 2. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | 一部先行実施 | | | |
| 1. 機能・性能試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | | | |
| 2. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | 一部先行実施 | | | |
| 1. 機能・性能試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | | | |
| 2. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | 一部先行実施 | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 () 内は適用する設備診断技術) | |
|-------------------------|-----------------------|--|---|----------|---------|---------------|-------------|----------------------|--------------------------------|
| 放射線管理施設 [放射線管理用計測装置] | A主蒸気管モニタ | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | B主蒸気管モニタ | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | C主蒸気管モニタ | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | D主蒸気管モニタ | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | 格納容器エアロック区域エリアモニタ | 1. 特性試験 | 低 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | A充てんポンプ室エリアモニタ | 1. 特性試験 | 低 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | B充てんポンプ室エリアモニタ | 1. 特性試験 | 低 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | C充てんポンプ室エリアモニタ | 1. 特性試験 | 低 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | 使用済燃料ピット区域エリアモニタ | 1. 特性試験 | 低 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | 炉内計装区域エリアモニタ | 1. 特性試験 | 低 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | | |
| | 可搬式使用済燃料ピット区域周辺エリアモニタ | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 放射線監視装置機能検査 | 15回施設定検時に設置 | |
| | 放射線管理施設 [放射線管理用計測装置] | 1式 | 1. 分解点検他 2. 分解点検他 | 高 | 13M | ○ | 17回 | | |
| | 放射線管理施設 [換気設備] | 放射線管理施設 [放射線管理用計測装置] その他機器 中央制御室非常用循環系 | 1. 機能・性能試験 (ファン、電動機、ダンパ、ダンパ駆動部等含む) 2. 分解点検 (ファン) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 中央制御室非常用循環系機能検査 | |
| | 放射線管理施設 [換気設備] | A中央制御室非常用循環ファン・電動機 | 1. 分解点検 (ファン) 2. 分解点検 (電動機) 3. 電動機取替 (電動機) | 高 | 91M | — | 15回 | | (振動診断: 6M) |
| | | B中央制御室非常用循環ファン・電動機 | 1. 分解点検 (ファン) 2. 分解点検 (電動機) 3. 電動機取替 (電動機) | 高 | 78M | ○ | 12回 | | X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施 (振動診断: 6M) |
| 中央制御室非常用循環ファンユニット I系列 | | 1. 機能・性能試験 (よう素フィルタ) | 高 | 91M | ○ | 12回 | | | X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施 |
| | | 2. 開放点検 (ファン) | 高 | 78M | — | 17回 | | | X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施 |
| | | 3. 電動機取替 (電動機) | 高 | X* | — | — | | | X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施 |
| 中央制御室非常用循環ファンユニット I系列 | | 1. 機能・性能試験 (よう素フィルタ) | 高 | 1F | ○ | 17回 | | 中央制御室非常用循環系 | |
| | | 2. 開放点検 (ファン) | 高 | X* | ○ | 17回 | | ファン性能検査 | X*: 機能・性能試験結果により適宜実施 |
| | | 3. 機能・性能試験 (差圧確認) | 高 | 1F | ○ | 17回 | | I 次系換気空調設備検査 | X*: 機能・性能試験結果により適宜実施 |
| 中央制御室非常用循環ファンユニット I系列 | | 4. 開放点検 | 高 | 260M | — | 16回 | | | X*: ファイルタ差圧により適 |
| | | 5. 微粒子フィルタ取替 | 高 | X* | — | — | | | 時実施 |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) |
|-------------------|------------------|---------------|--------|----------|-------------|----------------|-----------------------|---------------------------|
| 放射線管理施設 [換気設備] | A 格納容器排気ファン・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 低 | 1F | ○ | 17回 | 1次系換気空調設備検査 | 先行実施 |
| | | 2. 分解点検 (ファン) | | B | — | 17回 | | 電動機分解時に分解点検を実施 先行実施 |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | | CBM | — | 17回 | | (電動機 振動診断: 1 2 M) 先行実施 |
| | | 1. 機能・性能試験 | | 1F | ○ | 17回 | 1次系換気空調設備検査 | 先行実施 |
| | | 2. 分解点検 (ファン) | | B | — | 7回 | | 電動機分解時に分解点検を実施 先行実施 |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | | CBM | — | 16回 | | (電動機 振動診断: 1 2 M) 先行実施 |
| | A 格納容器排気ファン・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 1F | ○ | 17回 | 1次系換気空調設備検査 | 先行実施 | |
| | | 2. 分解点検 (ファン) | 130M | — | 17回 | | (振動診断: 1 2 M) 先行実施 | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | CBM | — | 17回 | | | |
| | | 1. 機能・性能試験 | 1F | ○ | 17回 | 1次系換気空調設備検査 | 先行実施 | |
| | | 2. 分解点検 (ファン) | 130M | — | 11回 | | (振動診断: 1 2 M) 先行実施 | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | CBM | — | 16回 | | | |
| | A 格納容器再循環ファン・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 1F | ○ | 17回 | 1次系換気空調設備検査 | | |
| | | 2. 分解点検 (ファン) | 130M | — | 11回 | | | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | CBM | — | 16回 | | | |
| | | 1. 機能・性能試験 | 1F | ○ | 17回 | 1次系換気空調設備検査 | | |
| | | 2. 分解点検 (ファン) | 130M | — | 11回 | | | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | 78M | — | 16回 | | 有効性評価 No.19の反映 | |
| | B 格納容器再循環ファン・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 1F | ○ | 17回 | 1次系換気空調設備検査 | | |
| | | 2. 分解点検 (ファン) | 130M | — | 15回 | | | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | 78M | — | 15回 | | | |
| | | 1. 機能・性能試験 | 1F | ○ | 17回 | 1次系換気空調設備検査 | | |
| | | 2. 分解点検 (ファン) | 130M | — | 15回 | | | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | 78M | — | 15回 | | 有効性評価 No.19の反映 | |
| C 格納容器再循環ファン・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 1F | ○ | 17回 | 1次系換気空調設備検査 | | | |
| | 2. 分解点検 (ファン) | 130M | — | 12回 | | | | |
| | 3. 分解点検 (電動機) | 78M | — | 17回 | | | | |
| | 1. 機能・性能試験 | 1F | ○ | 17回 | 1次系換気空調設備検査 | | | |
| | 2. 分解点検 (ファン) | 130M | — | 14回 | | | | |
| | 3. 分解点検 (電動機) | 78M | — | 14回 | | 有効性評価 No.19の反映 | | |
| D 格納容器再循環ファン・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 1F | ○ | 17回 | 1次系換気空調設備検査 | | | |
| | 2. 分解点検 (ファン) | 130M | — | 14回 | | | | |
| | 3. 分解点検 (電動機) | 78M | — | 14回 | | | | |
| | 1. 機能・性能試験 | 1F | ○ | 17回 | 1次系換気空調設備検査 | | | |
| | 2. 分解点検 (ファン) | 130M | — | 14回 | | | | |
| | 3. 分解点検 (電動機) | 78M | — | 14回 | | 有効性評価 No.19の反映 | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|-------------------|-------------------|---------------|---------------|----------|---------|--------------|--------------|--|---------------------|
| 放射線管理施設 [換気設備] | A 格納容器空気浄化ファン・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 低 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | | |
| | | 2. 分解点検(ファン) | | 130M | — | 14回 | | | |
| | | 3. 分解点検(電動機) | | 65M | — | 14回 | | | |
| | B 格納容器空気浄化ファン・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 低 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | | |
| | | 2. 分解点検(ファン) | | 130M | — | 12回 | | | |
| | | 3. 分解点検(電動機) | | 65M | — | 17回 | | | |
| | A 中央制御室循環ファン・電動機 | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | |
| | | | 2. 分解点検(ファン) | | 78M | ○ | 15回 | | |
| | | | 3. 分解点検(電動機) | | 78M | ○ | 15回 | | |
| | | | 4. 電動機取替(電動機) | | X* | — | — | | |
| | B 中央制御室循環ファン・電動機 | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施 |
| | | | 2. 分解点検(ファン) | | 78M | — | 17回 | | |
| 3. 分解点検(電動機) | | | 78M | | — | 17回 | | | |
| 4. 電動機取替(電動機) | | | X* | | — | — | | | |
| A 中央制御室空調ファン・電動機 | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施 (振動診断: 4 M) | |
| | | 2. 分解点検(ファン) | | 91M | — | 15回 | | | |
| | | 3. 分解点検(電動機) | | CBM | — | 5回 | | | |
| | | 4. 電動機取替(電動機) | | X* | — | — | | | |
| B 中央制御室空調ファン・電動機 | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施 (振動診断: 4 M) | |
| | | 2. 分解点検(ファン) | | 91M | ○ | 15回 | | | |
| | | 3. 分解点検(電動機) | | CBM | — | 16回 | | | |
| | | 4. 電動機取替(電動機) | | X* | — | — | | | |
| A 補助建屋給気ファン・電動機 | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施 (振動診断: 1 2 M) 先行実施 | |
| | | 2. 分解点検(ファン) | | 130M | — | 12回 | | | |
| | | 3. 分解点検(電動機) | | CBM | — | 13回 | | | |
| B 補助建屋給気ファン・電動機 | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | (振動診断: 1 2 M) 先行実施 | |
| | | 2. 分解点検(ファン) | | 130M | — | 16回 | | | |
| | | 3. 分解点検(電動機) | | CBM | — | 16回 | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回数) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|--------------------|--------------------|-------------------|-------------------|----------|---------|--------------|--------------|------------------------|---------------------------------------|
| 放射線管理施設 [換気設備] | A 補助建屋排気ファン・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | (振動診断: 1 2M) 先行実施 | |
| | | 2. 分解点検 (ファン) | | 130M | ○ | 12回 | | | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | | CBM | ○ | 8回 | | | |
| | B 補助建屋排気ファン・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | (振動診断: 1 2M) 先行実施 | |
| | | 2. 分解点検 (ファン) | | 130M | — | 17回 | | | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | | CBM | — | 17回 | | | |
| | C 補助建屋排気ファン・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | (振動診断: 1 2M) 先行実施 | |
| | | 2. 分解点検 (ファン) | | 130M | — | 16回 | | | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | | CBM | — | 16回 | | | |
| | A 安全補機室冷却ファン・電動機 | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | (電動機 振動診断: 6M) |
| | | | 2. 分解点検 (ファン) | | 104M | ○ | 10回 | | |
| | | | 3. 分解点検 (電動機) | | 104M | ○ | 10回 | | |
| | | | 4. 電動機取替 (電動機) | | X* | — | — | | |
| | B 安全補機室冷却ファン・電動機 | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施 (電動機 振動診断: 6M) |
| | | | 2. 分解点検 (ファン) | | 104M | — | 16回 | | |
| | | | 3. 分解点検 (電動機) | | 104M | — | 16回 | | |
| | | | 4. 電動機取替 (電動機) | | X* | — | — | | |
| | A ほう酸ポンプ室空調ファン・電動機 | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施 |
| | | | 2. 分解点検 (ファン) | | 78M | — | 17回 | | |
| | | | 3. 分解点検 (電動機) | | 78M | — | 17回 | | |
| 4. 電動機取替 (電動機) | | | X* | | — | — | | | |
| B ほう酸ポンプ室空調ファン・電動機 | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施 | |
| | | 2. 分解点検 (ファン) | | 78M | — | 16回 | | | |
| | | 3. 分解点検 (電動機) | | 78M | — | 16回 | | | |
| | | 4. 電動機取替 (電動機) | | X* | — | — | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 () 内は適用する設備診断技術) |
|-------------------|-------------------|-------------------|--------|----------|---------|---------------|--------------|----------------------|
| 放射線管理施設 [換気設備] | A 格納容器排気フィルタユニット | 1. 機能・性能試験 (差圧確認) | 低 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | 先行実施 |
| | | 2. 開放点検 | | BM | - | 17回 | | |
| | | 3. 微粒子フィルタ取替 | | X* | - | - | | |
| | B 格納容器排気フィルタユニット | 1. 機能・性能試験 (差圧確認) | 低 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | 先行実施 |
| | | 2. 開放点検 | | BM | - | 17回 | | |
| | | 3. 微粒子フィルタ取替 | | X* | - | - | | |
| | 格納容器空気浄化フィルタユニット | 1. 機能・性能試験 (差圧確認) | 低 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | 先行実施 |
| | | 2. 開放点検 | | BM | - | 17回 | | |
| | | 3. 微粒子フィルタ取替 | | X* | - | - | | |
| | A 補助建屋排気フィルタユニット | 1. 機能・性能試験 (差圧確認) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | 先行実施 |
| | | 2. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | |
| | | 3. 微粒子フィルタ取替 | | X* | - | - | | |
| | B 補助建屋排気フィルタユニット | 1. 機能・性能試験 (差圧確認) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1 次系換気空調設備検査 | 先行実施 |
| | | 2. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | |
| | | 3. 微粒子フィルタ取替 | | X* | - | - | | |
| | A 格納容器給気ユニット | 1. 機能・性能試験 (差圧確認) | 低 | 1F | ○ | 17回 | 先行実施 | 先行実施 |
| | | 2. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | |
| | | 3. 微粒子フィルタ取替 | | X* | - | - | | |
| | B 格納容器給気ユニット | 1. 機能・性能試験 (差圧確認) | 低 | 1F | ○ | 17回 | 先行実施 | 先行実施 |
| | | 2. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | |
| | | 3. 微粒子フィルタ取替 | | X* | - | - | | |
| | A 中央制御室空調ユニット | 1. 機能・性能試験 (差圧確認) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 先行実施 | 先行実施 |
| | | 2. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | |
| | | 3. 微粒子フィルタ取替 | | X* | - | - | | |
| B 中央制御室空調ユニット | 1. 機能・性能試験 (差圧確認) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 先行実施 | 先行実施 | |
| | 2. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | | |
| | 3. 微粒子フィルタ取替 | | X* | - | - | | | X*: フィルタ差圧により適時実施 |
| A 補助建屋給気ユニット | 1. 機能・性能試験 (差圧確認) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 先行実施 | 先行実施 | |
| | 2. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | | |
| | 3. 微粒子フィルタ取替 | | X* | - | - | | | X*: フィルタ差圧により適時実施 |
| B 補助建屋給気ユニット | 1. 機能・性能試験 (差圧確認) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 先行実施 | 先行実施 | |
| | 2. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | | |
| | 3. 微粒子フィルタ取替 | | X* | - | - | | | X*: フィルタ差圧により適時実施 |
| A 安全補機室冷却ユニット | 1. 開放点検 | 高 | 52M | - | 16回 | 先行実施 | 先行実施 | |
| | 2. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | | |
| | 3. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | | |
| B 安全補機室冷却ユニット | 1. 開放点検 | 高 | 52M | - | 16回 | 先行実施 | 先行実施 | |
| | 2. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | | |
| | 3. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | | |
| A 格納容器冷却ユニット | 1. 開放点検 | 高 | 52M | - | 16回 | 先行実施 | 先行実施 | |
| | 2. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | | |
| | 3. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | | |
| B 格納容器冷却ユニット | 1. 開放点検 | 高 | 52M | - | 16回 | 先行実施 | 先行実施 | |
| | 2. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | | |
| | 3. 開放点検 | | 52M | - | 16回 | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) 一部先行実施 | |
|-------------------|----------------------------|---|---|--------------------------------|--------------------|-------------------|--|--------------------------------------|------------------------|
| 放射線管理施設 [換気設備] | 自動ダンバ | 1. 機能・性能試験 (駆動部を含む) 2. 分解点検他 | 高・低 | 1F | ○ | 17回 | 1次系換気空調設備検査 | 一部先行実施 | |
| | 自動ダンバ駆動部 | 1. 分解点検 2. 簡易点検 (特性点検) | 高・低 | 39M~65M 52M~156M 13M~65M | ○ | 17回 16回 17回 | | 一部先行実施 | |
| | 放射線管理施設 [換気設備] その他の弁 | 1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (グラウンドバッキン取替) | 高・低 | B 130M 130M | — ○ ○ | 17回 17回 17回 | 1次系安全弁検査 1次系弁検査 | 一部先行実施 | |
| | 放射線管理施設 [換気設備] その他の弁駆動部 | 1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (潤滑油入替) | 高・低 | B 52M~130M 13M~130M | ○ ○ ○ | 17回 17回 17回 | 1次系弁検査 | 一部先行実施 | |
| | 放射線管理施設 [換気設備] その他機器 | 1. 分解点検他 2. 簡易点検 (潤滑油入替) | 高・低 | 13M~130M 13M | ○ ○ | 17回 17回 | | 一部先行実施 | |
| | 原子炉格納容器 | 1. 漏えい率試験 | 高 | 3F | ○ | 15回 | 原子炉格納容器全体漏えい率検査 | 10年に1回は設計圧力にて実施 (15回定検において設計圧力により実施) | |
| | プレストレストコンクリート格納容器 | 1. 機能・性能試験 2. 外観点検 | 高 | 5Y 5Y | — — | 17回 17回 | プレストレストコンクリート格納容器供用期間中検査 プレストレストコンクリート格納容器供用期間中検査 | | |
| | エアロック | 通常用 1個 非常用 1個 | 1. 漏えい率試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (潤滑油補給他) | 高 | 2/3F 52M 26M | — — — | 17回 17回 17回 | 原子炉格納容器局部漏えい率検査 | |
| | 機器搬入口 | 1個 | 1. 漏えい率試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (潤滑油補給他) | 高 | 2/3F 52M 26M | — ○ ○ | 17回 14回 16回 | 原子炉格納容器局部漏えい率検査 | |
| | | | 1. 開放点検 3. 非破壊試験 | | 13M 10Y | ○ — | 17回 14回 | 原子炉格納容器供用期間中検査 | ISIプログラムによる。 [別表-6] |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) |
|----------------------|---|------------------------|--------|----------|---------|----------------|-----------------|------------------------|
| 原子炉格納施設 [原子炉格納容器] | 配管貫通部(貫通配管閉止フランジ部) | 1. 漏えい率試験 | 高 | 2/3F | — | 17回 | 原子炉格納容器局部漏えい率検査 | |
| | | 2. 開放点検 | | 開放の頻度 | ○ | 17回 | | |
| | 電線貫通部 | 1. 漏えい率試験 | 高 | 2/3F | — | 16回 | 原子炉格納容器局部漏えい率検査 | |
| | | 1. 漏えい率試験 | 高 | 2/3F | — | 17回 | 原子炉格納容器局部漏えい率検査 | |
| | 原子炉格納容器隔離弁 | 1. 機能・性能試験 (駆動部等含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 原子炉格納容器隔離弁機能検査 | |
| | | 1. 機能・性能試験 (駆動部等含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 原子炉格納容器隔離弁機能検査 | |
| | 原子炉格納容器隔離(T・V(信号)及びびT+UV(信号)により隔離される弁) 原子炉格納容器隔離(P・V(信号)により隔離される弁) 原子炉格納容器隔離弁 | 1. 分解点検 | 高 | 52M | — | 15回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 52M | — | 16回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 52M | — | 17回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 104M | — | 17回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 104M | — | 17回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 104M | — | 17回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 17回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 130M | ○ | 8回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 130M | ○ | 15回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 130M | ○ | 15回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 17回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 15回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 14回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| 1. 分解点検 | | 高 | 130M | — | 15回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | | |
| 1. 分解点検 | | 高 | 130M | — | 15回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) |
|-----------------------------|----------------------|-----------------------------------|--------|----------------------|---------|--------------|--------------------|--|
| 原子炉格納施設 [原子炉格納容器] | 原子炉格納容器隔離弁 | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 17回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 9回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 130M | ○ | 9回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 130M | ○ | 8回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 130M | ○ | 9回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 130M | ○ | 10回 | 原子炉格納容器隔離弁分解検査 | |
| | | 1. 分解点検 | 高 | 52M～182M 13M～182M | ○ | 17回 | | |
| | | 2. 簡易点検 (特性能点検) | 高・低 | B | — | 17回 | 1次系弁検査 1次系安全弁検査 | |
| | | 1. 機能・性能試験 | 高 | 78M～260M | ○ | 17回 | 1次系弁検査 | |
| | | 2. 分解点検 | 高 | 26/39M* | — | 17回 | 1次系弁検査 | *：原子炉格納容器局部漏えい率検査の実施時期にあわせて実施 |
| 原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備] | 原子炉格納施設 [原子炉格納容器] | 4. 簡易点検 (グラントパッキン取替) | 高・低 | 52M～130M | ○ | 17回 | | |
| | | 1. 機能・性能試験 | 高 | B | ○ | 17回 | 1次系弁検査 | |
| | | 2. 分解点検 | 高 | 65M～182M 13M～182M | ○ | 17回 | | |
| | | 3. 簡易点検 (特性能点検) | 高・低 | 13M～104M | ○ | 17回 | | |
| | | 1. 分解点検他 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 原子炉格納容器安全系機能検査 | |
| | | 1. 機能・性能試験 (ポンプ、電動機、弁、弁駆動部等含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | | |
| | | 2. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | その他原子炉注水系統機能検査 | [対象設備] ・A格納容器スプレイポンプによる代替炉心注入系 15回施設定検から設定 |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) |
|-----------------------------|-------------------|----------------------------|--------|----------|---------|---------------|---------------------------------------|--|
| 原子炉格納施設 【圧力低減設備その他の安全設備】 | A 格納容器スプレイポンプ・電動機 | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 130M | — | 12回 | その他原子炉注水系ポンプ分解検査 原子炉格納容器安全系ポンプ分解検査 | (振動診断：3M) 12回は、格納容器スプレイ系ポンプ分解検査として実施 その他原子炉注水系ポンプ分解検査は、15回施設定検から設定 有効性評価 No.20の反映 |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 130M | — | 16回 | | |
| | | 3. 簡易点検 (メカニカルシール取替 (ポンプ)) | | 130M | — | 12回 | | |
| | | 4. 簡易点検 (潤滑油入替 (ポンプ)) | | 26M | ○ | 16回 | | |
| | | 5. 簡易点検 (潤滑油入替 (電動機)) | | 26M | ○ | 16回 | | |
| | B 格納容器スプレイポンプ・電動機 | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 130M | — | 11回 | 原子炉格納容器安全系ポンプ分解検査 | (振動診断：3M) 11回は、格納容器スプレイ系ポンプ分解検査として実施 有効性評価 No.20の反映 |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 130M | — | 17回 | | |
| | | 3. 簡易点検 (メカニカルシール取替 (ポンプ)) | | 130M | — | 11回 | | |
| | | 4. 簡易点検 (潤滑油入替 (ポンプ)) | | 26M | — | 17回 | | |
| | | 5. 簡易点検 (潤滑油入替 (電動機)) | | 26M | — | 17回 | | |
| | A 格納容器スプレイ冷却器 | 1. 開放点検 | 高 | 130M | ○ | 10回 | 1次系熱交換器検査 | |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | ○ | 10回 | 1次系熱交換器検査 | |
| | | 3. 漏えい試験 | | 130M | ○ | 10回 | | |
| | B 格納容器スプレイ冷却器 | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 17回 | 1次系熱交換器検査 | |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 17回 | 1次系熱交換器検査 | |
| 3. 漏えい試験 | | | 130M | — | 17回 | | | |
| 原子炉格納容器スプレイ系主要弁 | 4V-CP-024A | 1. 分解点検 | 高 | 78M | — | 16回 | 原子炉格納容器安全系主要弁分解検査 | 11回は、原子炉格納容器スプレイ系主要弁分解検査として実施 |
| | 4V-CP-024B | 1. 分解点検 | 高 | 78M | ○ | 15回 | 原子炉格納容器安全系主要弁分解検査 | |
| | 4V-CP-054A | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 13回 | 原子炉格納容器安全系主要弁分解検査 | 13回は、原子炉格納容器スプレイ系主要弁分解検査として実施 |
| | 4V-CP-054B | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 14回 | 原子炉格納容器安全系主要弁分解検査 | 14回は、原子炉格納容器スプレイ系主要弁分解検査として実施 |
| 原子炉格納容器スプレイ系主要弁駆動部 | 一式 | 1. 分解点検 | 高 | 182M | — | 16回 | | |
| | | 2. 簡易点検 (特性点検) | | 13M～182M | ○ | 17回 | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|-----------------------------|------------------------|--|-------------------------|----------|---------|--------------|-----------------|------------------------|--|
| 原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備] | よう素除去薬品タンク | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 17回 | 1次系真空破膜弁検査 | | |
| | よう素除去薬品タンク真空逃がし弁 | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 17回 | 1次系真空破膜弁検査 | | |
| | アニュウラス空気浄化系 | 1. 機能・性能試験 (ファン、電動機、弁、弁駆動部、タンクバ、タンクバ駆動部等含む) | 高 | 1F | ○ | 17回 | アニュウラス循環排気系機能検査 | | |
| | Aアニュウラス空気浄化ファン・電動機 | | 1. 分解点検 (ファン) | 高 | B | — | 4回 | 電動機分解時に実施 | |
| | | | 2. 分解点検 (電動機) | | CBM | — | 8回 | (電動機 振動診断: 3M) | |
| | | | 3. 電動機取替 (電動機) | | X* | — | — | X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施 | |
| | Bアニュウラス空気浄化ファン・電動機 | | 1. 分解点検 (ファン) | 高 | B | — | 16回 | 電動機分解時に実施 | |
| | | | 2. 分解点検 (電動機) | | CBM | — | 16回 | (電動機 振動診断: 3M) | |
| | | | 3. 電動機取替 (電動機) | | X* | — | — | X*: 絶縁等の劣化兆候により適宜実施 | |
| | A, Bアニュウラス空気浄化フィルタユニット | | 1. 機能・性能試験 (よう素フィルタ) | 高 | 1F | ○ | 17回 | アニュウラス循環排気系フィルタ-性能検査 | |
| | | | 2. 開放点検 (フィルタ取替) | | X* | — | 17回 | X*: 機能・性能試験結果により適宜実施 | |
| | Aアニュウラス空気浄化フィルタユニット | | 1. 機能・性能試験 (差圧確認) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1次系換気空調設備検査 | |
| | | | 2. 開放点検 | | 260M | — | 14回 | | |
| | | | 3. 微粒子フィルタ取替 | | X* | — | — | X*: フィルタ差圧により適時実施 | |
| | Bアニュウラス空気浄化フィルタユニット | | 1. 機能・性能試験 (差圧確認) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 1次系換気空調設備検査 | |
| | | | 2. 開放点検 | | 260M | — | 15回 | | |
| | | | 3. 微粒子フィルタ取替 | | X* | — | — | X*: フィルタ差圧により適時実施 | |
| | 可燃性ガス濃度制御系主要弁 | 4V-VS-102A | 1. 分解点検 | 高 | 65M | — | 17回 | 可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査 | |
| | | | | | 65M | ○ | 15回 | 可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査 | |
| | | 4V-VS-102B | 1. 分解点検 | 高 | 65M | ○ | 15回 | 可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査 | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|-----------------------------|-----------------------------------|------------|-----------------------|----------|-----------|---------------|-------------------|--------------------------------|----------------|
| 原子炉格納施設 〔圧力低減設備その他の安全設備〕 | 可燃性ガス濃度制御系主要弁 | 4V-VS-103A | 高 | 65M | — | 15回 | 可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査 | 可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査は、15回施設定検から設定 | |
| | 静的触媒式水素再結合装置 | 4V-VS-103B | 高 | 65M | — | 15回 | 可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査 | 可燃性ガス濃度制御系主要弁分解検査は、15回施設定検から設定 | |
| | 原子炉格納容器水素燃焼装置 | 5個 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 5F | — | — | 原子炉格納容器水素再結合装置機能検査 | 15回施設定検時に設置 |
| | | | 2. 外観点検 (触媒プレート) | | 5F | — | — | | |
| | | | 3. 外観点検 (本体) | | 1F | ○ | 17回 | | |
| | 原子炉格納容器水素燃焼装置 | 14個 | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | 15回施設定検時に設置 |
| | | | 2. 絶縁抵抗測定 | | 1F | ○ | 17回 | | |
| | | | 3. 抵抗測定 | | 1F | ○ | 17回 | | |
| | | | 4. 機能・性能試験 (シーケンス試験) | | 1F | ○ | 17回 | 原子炉格納容器水素再結合装置機能検査 | |
| | 静的触媒式水素再結合装置 温度監視装置 | 温度監視装置 | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 計測制御系監視機能検査 | 15回施設定検時に設置 |
| | 原子炉格納容器水素燃焼装置 温度監視装置 | 温度監視装置 | 1. 特性試験 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 計測制御系監視機能検査 | 15回施設定検時に設置 |
| | 原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備] その他の弁 | 1式 | 1. 機能・性能試験 | 高・低 | B | — | 17回 | 1次系弁検査 | |
| | | | 2. 分解点検 | | 104M~130M | ○ | 17回 | 1次系安全弁検査 1次系弁検査 | |
| | | | 3. 簡易点検 (グラウンドパッキン取替) | | 78M~130M | ○ | 17回 | 1次系逆止弁検査 | |
| | 原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備] その他の弁駆動部 | 1式 | 1. 機能・性能試験 | 高 | B | — | 17回 | 1次系弁検査 | |
| | | | 2. 分解点検 | | 78M~182M | — | 17回 | | |
| | | | 3. 簡易点検 (特性点検) | | 13M~182M | ○ | 17回 | | |
| | 原子炉格納施設 [圧力低減設備その他の安全設備] その他の機器 | 1式 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 10F | — | 14回 | | 有効性評価 No.21の反映 |
| | | | 2. 分解点検他 | | 130M | — | 17回 | | |
| | その他AM (格納容器内注水) 機器 | 1式 | 1. 分解点検他 | 高 | 130M | — | 14回 | 1次系逆止弁検査 | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) [別表-1] |
|--|--|-----------|----------|----------|---------|---------------|---|--|
| 原子力設備 [その他設備] | クラス1 機器 (供用期間中検査対象) (重大事故等クラス2 機器供用期間中検査対象含む) | 1. 非破壊試験 | 高 | 10Y | ○ | 17回 | クラス1 機器供用期間中検査 | ISIプログラムによる。 [別表-1] |
| | | 2. 漏えい試験 | | 1F | ○ | 17回 | クラス1 機器供用期間中検査 | |
| | クラス2 機器 (供用期間中検査対象) (重大事故等クラス2 機器供用期間中検査対象含む) | 1. 非破壊試験 | 高 | 10Y | ○ | 17回 | クラス2 機器供用期間中検査 | ISIプログラムによる。 [別表-2] |
| | | 2. 漏えい試験 | | 10Y | ○ | 17回 | クラス2 機器供用期間中検査 | |
| | クラス3 機器 (供用期間中検査対象) | 1. 非破壊試験 | 高 | 10Y | ○ | 17回 | クラス3 機器供用期間中検査 | ISIプログラムによる。 [別表-3] |
| | | 2. 漏えい試験 | | 10Y | ○ | 17回 | クラス3 機器供用期間中検査 | |
| | クラス1 機器Ni基合金使用部位 (重大事故等クラス2 機器供用期間中検査対象含む) | 1. 非破壊試験 | 高 | 5Y | — | 16回 | 供用期間中特別検査のうち クラス1 機器Ni基合金使用 部位特別検査 | ISIプログラムによる。 [別表-4] |
| | | 1. 非破壊試験 | | 25%/10Y | ○ | 16回 | 供用期間中特別検査のうち クラス2管 (原子炉格納容 器内) 特別検査 | |
| | クラス2管 (原子炉格納容器内) (重大事故等クラス2 機器供用期間中検査対象含む) | 1. 非破壊試験 | 高 | 5~10Y | ○ | 17回 | 重大事故等クラス2 機器供 用期間中検査 | ISIプログラムによる。 [別表-7] |
| | | 2. 漏えい試験 | | 10Y | ○ | 17回 | 重大事故等クラス2 機器供 用期間中検査 | |
| | 重大事故等クラス3 機器 | 1. 漏えい試験 | 高 | 10Y | ○ | — | 重大事故等クラス3 機器供 用期間中検査 | ISIプログラムによる。 [別表-8] |
| | | 1. 非破壊試験 | | 10Y | — | 17回 | 重大事故等クラス3 機器供 用期間中検査 | |
| | 蒸気発生器管台溶接部 (重大事故等クラ ス2 機器供用期間中検査対象含む) | 1. 非破壊試験 | 高 | 10Y | — | 17回 | 供用期間中特別検査のうち 蒸気発生器管台溶接部の健全 性確認検査 | ISIプログラムによる。 15回施設定検時から設定 [別表-1] |
| | | 1. 非破壊試験 | | 100%/1F | ○ | — | 供用期間中特別検査のうち クラス1 配管特別検査 | |
| | クラス3・クラス4 の配管等 | 1. 外観点検 | 高 | 100%/10Y | ○ | 17回 | 構造健全性検査 | 排気筒については5 Fで実 施 |
| 1. 漏えい試験 | | 13M | | ○ | 17回 | 構造健全性検査 | | |
| RCPBのベント・ドレン弁シート部 1 次冷却材管ホップレストレイント | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | レストレイント検査 | | |
| | 1. 外観点検 | | 1F | ○ | 17回 | レストレイント検査 | | |
| 主蒸気配管ホップレストレイント 主給水配管ホップレストレイント | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | レストレイント検査 | | |
| | 1. 外観点検 | | 1F | ○ | 17回 | レストレイント検査 | | |
| 原子力設備 [その他設備] その他の弁 | 1. 機能・性能試験 | 高・低 | B | — | 17回 | 1 次系弁検査 | 一部先行実施 有効性評価 No.10の反映 | |
| | 2. 分解点検 | | 78M~260M | ○ | 17回 | | | |
| 原子力設備 [その他設備] その他の弁駆動部 | 3. 簡易点検 (グラントパッキン取 り) | 高・低 | 78M~130M | ○ | 17回 | | | |
| | 1. 機能・性能試験 | | B | — | 17回 | | | |
| 原子力設備 [その他設備] その他の弁駆動部 | 2. 分解点検 | 高・低 | 65M~130M | — | 17回 | | | |
| | 3. 簡易点検 (特定点検) | | 13M~130M | ○ | 17回 | | | |
| 原子力設備 [その他設備] その他機器 | 1. 分解点検他 | 高 | 13M~130M | ○ | 17回 | | | |
| | 2. 分解点検他 | | 13M~130M | ○ | 17回 | | | |
| 耐震クラスS, B の支持構造物 | 1. 外観点検 | 高 | 100%/10Y | ○ | 17回 | 耐震健全性検査 | 一部BMあり クラス1, 2, 3 供用期間 中検査対象機器を除く | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) |
|--|---------------------------|-----------------------|--------|----------|---------|---------------|----------------|---|
| 蒸気タービン [車室、円板、隔板、噴口、翼、車軸] | 高圧タービン | 1. 開放点検 | 高 | 39M | ○ | 16回 | 蒸気タービン開放検査 | 14回定検時に蒸気タービン取替実施 有効性評価 No.26の反映 X*: 高圧タービン、低圧タービン点検対象の組み合わせにより適宜実施 有効性評価 No.26の反映 |
| | | 2. 組立状況点検 | | X* | ○ | 16回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| | | 3. 簡易点検 (軸受箱内部清掃他) | | 13M | ○ | 17回 | | |
| | 第1 低圧タービン | 1. 開放点検 | 高 | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 14回定検時に蒸気タービン取替実施 有効性評価 No.26の反映 X*: 点検対象の組み合わせにより適宜実施 有効性評価 No.26の反映 |
| | | 2. 外観点検 | | X* | ○ | 16回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| | | 3. 簡易点検 (軸受箱内部清掃他) | | 13M | ○ | 17回 | | |
| | 第2 低圧タービン | 1. 開放点検 | 高 | 39M | ○ | 16回 | 蒸気タービン開放検査 | 14回定検時に蒸気タービン取替実施 有効性評価 No.26の反映 X*: 点検対象の組み合わせにより適宜実施 有効性評価 No.26の反映 |
| | | 2. 外観点検 | | X* | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| | | 3. 簡易点検 (軸受箱内部清掃他) | | 13M | ○ | 17回 | | |
| | 第3 低圧タービン | 1. 開放点検 | 高 | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 14回定検時に蒸気タービン取替実施 有効性評価 No.26の反映 X*: 点検対象の組み合わせにより適宜実施 有効性評価 No.26の反映 |
| | | 2. 外観点検 | | X* | ○ | 16回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| | | 3. 簡易点検 (軸受箱内部清掃他) | | 13M | ○ | 17回 | | |
| 蒸気タービン [調速装置及び非常調速装置並びに調速装置で制御される主要弁] | ロータライメント 調速装置および非常調速装置 | 1. 組立状況点検 | 高 | B | ○ | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| | | 1. 開放点検 | | IF | ○ | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| | | 2. 組立状況点検 | | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| | 1 主蒸気止め弁 | 1. 開放点検 | 高 | B | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 |
| | | 2. 組立状況点検 | | 39M | ○ | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| | | 1. 開放点検 | | B | ○ | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| | 2 主蒸気止め弁 | 1. 開放点検 | 高 | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 |
| | | 2. 組立状況点検 | | B | ○ | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| | | 1. 開放点検 | | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| | 3 主蒸気止め弁 | 1. 開放点検 | 高 | B | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 |
| | | 2. 組立状況点検 | | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| | | 1. 開放点検 | | B | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| | 4 主蒸気止め弁 | 1. 開放点検 | 高 | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 |
| | | 2. 組立状況点検 | | B | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| | | 1. 開放点検 | | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| 1 蒸気加減弁 | 1. 開放点検 | 高 | B | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | 2. 組立状況点検 | | 39M | ○ | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | | |
| | 1. 開放点検 | | B | ○ | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | | |
| 2 蒸気加減弁 | 1. 開放点検 | 高 | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | 2. 組立状況点検 | | B | ○ | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | | |
| | 1. 開放点検 | | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | | |
| 3 蒸気加減弁 | 1. 開放点検 | 高 | B | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | 2. 組立状況点検 | | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | | |
| | 1. 開放点検 | | B | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 () 内は適用する設備診断技術 | |
|--|-----------------|--------------------------|-----------------|----------|---------|---------------|------------|---------------------|--|
| 蒸気タービン [調速装置及び非常調速装置並びに調速装置で制御される主要弁] | 4 蒸気加減弁 | 1. 開放点検 2. 組立状況点検 | 高 | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | A 1 再熱蒸気止め弁 | 1. 開放点検 | 高 | B | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | A 2 再熱蒸気止め弁 | 1. 開放点検 | 高 | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | A 3 再熱蒸気止め弁 | 1. 開放点検 | 高 | 39M | ○ | 16回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | B 1 再熱蒸気止め弁 | 1. 開放点検 | 高 | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | B 2 再熱蒸気止め弁 | 1. 開放点検 | 高 | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | B 3 再熱蒸気止め弁 | 1. 開放点検 | 高 | 39M | ○ | 16回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | A 1 インターセプト弁 | 1. 開放点検 | 高 | 39M | — | 16回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | A 2 インターセプト弁 | 1. 開放点検 | 高 | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | A 3 インターセプト弁 | 1. 開放点検 | 高 | 39M | ○ | 16回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | B 1 インターセプト弁 | 1. 開放点検 | 高 | 39M | — | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | B 2 インターセプト弁 | 1. 開放点検 | 高 | 39M | ○ | 16回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | B 3 インターセプト弁 | 1. 開放点検 | 高 | 39M | — | 16回 | 蒸気タービン開放検査 | 有効性評価 No.27の反映 | |
| | 蒸気タービン [復水器] | 復水・循環水系 | | 高 | 1F | — | 17回 | 蒸気タービン附属設備機能検査 | |
| | | 復水器 | 1. 開放点検 | 高 | 13M | ○ | 17回 | 蒸気タービン開放検査 | |
| | | 復水器 1 A | 1. 開放点検 (非破壊試験) | 高 | 78M | — | 14回 | | |
| | | | 2. 開放点検 (漏えい試験) | | 78M | — | 14回 | | |
| | | 復水器 2 A | 1. 開放点検 (非破壊試験) | 高 | 78M | — | 13回 | | |
| | | 2. 開放点検 (漏えい試験) | | 78M | — | 13回 | | | |
| 復水器 3 A | | 1. 開放点検 (非破壊試験) | 高 | 78M | — | 17回 | | | |
| | | 2. 開放点検 (漏えい試験) | | 78M | — | 17回 | | | |
| 復水器 1 B | | 1. 開放点検 (非破壊試験) | 高 | 78M | — | 16回 | | | |
| | | 2. 開放点検 (漏えい試験) | | 78M | — | 16回 | | | |
| 復水器 2 B | | 1. 開放点検 (非破壊試験) | 高 | 78M | ○ | 13回 | | | |
| | | 2. 開放点検 (漏えい試験) | | 78M | ○ | 14回 | | | |
| 復水器 3 B | | 1. 開放点検 (非破壊試験) | 高 | 78M | — | 15回 | | | |
| | | 2. 開放点検 (漏えい試験) | | 78M | — | 15回 | | | |
| A 循環水ポンプ・電動機 | | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 52M | — | 17回 | | | |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 104M | — | 17回 | | | |
| | | 3. 簡易点検 (翼油導入装置点検 (ポンプ)) | | 26M | — | 17回 | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) |
|--------------------|--------------|--------------------------|--------|----------|---------|---------------|-----|------------------------|
| 蒸気タービン [復水器] | B 循環水ポンプ・電動機 | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 52M | — | 16回 | | |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 104M | ○ | 16回 | | |
| | | 3. 簡易点検 (薫油導入装置点検) (ポンプ) | | 26M | ○ | 16回 | | |
| A 復水器真空ポンプ・電動機 | | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 52M | — | 17回 | | (振動診断: 6 M) |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 78M | — | 15回 | | |
| B 復水器真空ポンプ・電動機 | | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 52M | — | 16回 | | (振動診断: 6 M) |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 78M | — | 14回 | | |
| A 復水ポンプ・電動機 | | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 78M | — | 17回 | | 有効性評価 No.22の反映 |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 78M | ○ | 17回 | | |
| B 復水ポンプ・電動機 | | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 78M | — | 16回 | | 有効性評価 No.22の反映 |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 78M | — | 14回 | | |
| C 復水ポンプ・電動機 | | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 78M | ○ | 15回 | | 有効性評価 No.22の反映 |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 78M | ○ | 15回 | | |
| 蒸気タービン [復水器] その他機器 | 1式 | 1. 分解点検他 | 高 | 13M~260M | ○ | 17回 | | |
| | | 2. 分解点検他 | | 13M~130M | ○ | 17回 | | |
| | | 1. 開放点検 | | 26M | — | 17回 | | |
| A 湿分離加熱器 (胴側) | A 湿分離加熱器 | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 13回 | | |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 13回 | | |
| | | 3. 漏えい試験 | | 130M | — | 13回 | | |
| B 湿分離加熱器 (胴側) | B 湿分離加熱器 | 1. 開放点検 | 高 | 26M | ○ | 16回 | | |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 14回 | | |
| | | 3. 漏えい試験 | | 130M | — | 14回 | | |
| A 第1 低圧給水加熱器 | | 1. 開放点検 | 高 | 65M | — | 14回 | | 2次系熱交換器検査 |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 9回 | | |
| | | 3. 漏えい試験 | | 65M | — | 14回 | | |
| B 第1 低圧給水加熱器 | | 1. 開放点検 | 高 | 65M | — | 15回 | | 2次系熱交換器検査 |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 10回 | | |
| | | 3. 漏えい試験 | | 65M | — | 15回 | | |
| C 第1 低圧給水加熱器 | | 1. 開放点検 | 高 | 65M | — | 16回 | | 2次系熱交換器検査 |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 11回 | | |
| | | 3. 漏えい試験 | | 65M | — | 16回 | | |
| A 第2 低圧給水加熱器 | | 1. 開放点検 | 高 | 65M | — | 14回 | | 2次系熱交換器検査 |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 14回 | | |
| | | 3. 漏えい試験 | | 65M | — | 14回 | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回数) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) |
|-----------------------------|------------|-----------|--------|----------|---------|--------------|-----------|------------------------|
| 蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する熱交換器〕 | B第2低圧給水加熱器 | 1. 開放点検 | 高 | 65M | — | 15回 | 2次系熱交換器検査 | |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 15回 | | |
| | | 3. 漏えい試験 | | 65M | — | 15回 | | |
| | C第2低圧給水加熱器 | 1. 開放点検 | 高 | 65M | — | 16回 | 2次系熱交換器検査 | |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 16回 | | |
| | | 3. 漏えい試験 | | 65M | — | 16回 | | |
| | A第3低圧給水加熱器 | 1. 開放点検 | 高 | 65M | — | 17回 | 2次系熱交換器検査 | |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 12回 | | |
| | | 3. 漏えい試験 | | 65M | — | 17回 | | |
| | B第3低圧給水加熱器 | 1. 開放点検 | 高 | 65M | ○ | 13回 | 2次系熱交換器検査 | |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 13回 | | |
| | | 3. 漏えい試験 | | 65M | ○ | 13回 | | |
| | A第4低圧給水加熱器 | 1. 開放点検 | 高 | 65M | — | 17回 | 2次系熱交換器検査 | |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 17回 | | |
| | | 3. 漏えい試験 | | 65M | — | 17回 | | |
| | B第4低圧給水加熱器 | 1. 開放点検 | 高 | 65M | ○ | 13回 | 2次系熱交換器検査 | |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | ○ | 9回 | | |
| | | 3. 漏えい試験 | | 65M | ○ | 13回 | | |
| | A第5低圧給水加熱器 | 1. 開放点検 | 高 | 65M | — | 14回 | 2次系熱交換器検査 | |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 9回 | | |
| | | 3. 漏えい試験 | | 65M | — | 14回 | | |
| | B第5低圧給水加熱器 | 1. 開放点検 | 高 | 65M | — | 15回 | 2次系熱交換器検査 | |
| | | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 10回 | | |
| | | 3. 漏えい試験 | | 65M | — | 15回 | | |
| 脱気器タンク | 1. 開放点検 | 高 | 39M | — | 17回 | 2次系容器検査 | | |
| | 2. 非破壊試験 | | 39M | — | 16回 | | | |
| | 3. 漏えい試験 | | 39M | — | 17回 | | | |
| A脱気器 | 1. 開放点検 | 高 | 39M | — | 17回 | 2次系容器検査 | | |
| | 2. 非破壊試験 | | 39M | — | 17回 | | | |
| | 3. 漏えい試験 | | 130M | — | 14回 | | | |
| B第7高圧給水加熱器 | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 14回 | 2次系熱交換器検査 | | |
| | 2. 非破壊試験 | | 130M | — | 14回 | | | |
| | 3. 漏えい試験 | | 130M | — | 14回 | | | |
| グラウンド蒸気復水器 | 1. 開放点検 | 高 | 65M | ○ | 13回 | 2次系熱交換器検査 | | |
| | 2. 非破壊試験 | | 130M | ○ | 9回 | | | |
| | 3. 漏えい試験 | | 65M | ○ | 13回 | | | |

| 機器又はシステム名 | 実施数（機器名） | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期（定検回次） | 検査名 | 備考 （ ）内は適用する設備診断技術 | |
|---|-------------------|----------------------|------------------|----------|---------|--------------|----------------|-----------------------|--|
| 蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理設備〕 | 給水、復水系 | 1. 機能・性能試験 (タービン) | 高 | 1F | ○ | 17回 | 蒸気タービン附属設備機能検査 | | |
| | Aタービン動主給水ポンプ・タービン | 1. 機能・性能試験 (タービン) | 高 | B | - | 16回 | 2次系ポンプ機能検査 | | |
| | | 2. 分解点検 (ポンプ) | | 52M | - | 16回 | | | |
| | | 3. 分解点検 (タービン) | | 52M | - | 16回 | 2次系ポンプ分解検査 | | |
| | Aタービン動主給水ポンプ・電動機 | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 78M | - | 17回 | | 有効性評価 No.24の反映 | |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 78M | - | 14回 | | | |
| | | 3. 簡易点検 (ポンプ) | | 13M | ○ | 17回 | | | |
| | Bタービン動主給水ポンプ・タービン | 1. 機能・性能試験 (タービン) | 高 | B | - | 17回 | 2次系ポンプ機能検査 | | |
| | | 2. 分解点検 (ポンプ) | | 52M | - | 17回 | | | |
| | | 3. 分解点検 (タービン) | | 52M | - | 17回 | 2次系ポンプ分解検査 | | |
| | Bタービン動主給水ポンプ・電動機 | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 78M | - | 15回 | | 有効性評価 No.24の反映 | |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 78M | - | 15回 | | | |
| | | 3. 簡易点検 (ポンプ) | | 13M | ○ | 17回 | | | |
| | 電動主給水ポンプ・電動機 | | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 130M | - | 15回 | 2次系ポンプ分解検査 | |
| | | | 2. 分解点検 (電動機) | | 52M | ○ | 15回 | | |
| | 電動主給水ポンプ・電動機 | | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 78M | - | 16回 | 2次系ポンプ分解検査 | |
| | | | 2. 分解点検 (電動機) | | 78M | - | 15回 | | |
| | | | 3. 簡易点検 (ポンプ) | | 13M | ○ | 17回 | | |
| A復水ブースタポンプ・電動機 | | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 104M | - | 16回 | | 有効性評価 No.23の反映 | |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 104M | - | 13回 | | | |
| B復水ブースタポンプ・電動機 | | 3. 簡易点検 (ポンプ) | | 13M | ○ | 17回 | | | |
| | | 1. 分解点検 (ポンプ) | 高 | 104M | - | 16回 | | 有効性評価 No.23の反映 | |
| | | 2. 分解点検 (電動機) | | 104M | ○ | 15回 | | | |
| | | 3. 簡易点検 (ポンプ) | | 13M | ○ | 17回 | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|---|--|---|---|---------------------------|---|--------------|---|--------------------------|--------------|
| 蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理設備〕 | C 復水ブースタポンプ・電動機 | 1. 分解点検 (ポンプ) 2. 分解点検 (電動機) 3. 簡易点検 (ポンプ) | 高 | 104M | — | 17回 | | 有効性評価 No.23の反映 | |
| | 4 A 復水ろ過器 | 1. 開放点検 | 高 | 65M | — | 15回 | 2次系容器検査 | | |
| | 4 B 復水ろ過器 | 1. 開放点検 | 高 | 65M | — | 15回 | 2次系容器検査 | | |
| | 4 A 復水脱塩塔 | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 12回 | 2次系容器検査 | | |
| | 4 B 復水脱塩塔 | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 13回 | 2次系容器検査 | | |
| | 4 C 復水脱塩塔 | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 14回 | 2次系容器検査 | | |
| | 4 D 復水脱塩塔 | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 17回 | 2次系容器検査 | | |
| | 4 E 復水脱塩塔 | 1. 開放点検 | 高 | 130M | ○ | 10回 | 2次系容器検査 | | |
| | 4 F 復水脱塩塔 | 1. 開放点検 | 高 | 130M | — | 11回 | 2次系容器検査 | | |
| | 蒸気タービン〔蒸気タービンに附属する給水ポンプ及び貯水設備並びに給水処理設備〕その他機器 | 1式 | 1. 分解点検他 2. 分解点検他 | 高 | 13M~156M 13M~130M | ○ | 17回 | | 一部BMあり |
| | 蒸気タービン 〔蒸気タービンに附属する管等〕 | 主な配管(主蒸気系統・抽気系統・ドレン系統) | 1. 開放点検 2. 非破壊試験 | 高 | 13M 肉厚管理指針による | ○ | 17回 | 蒸気タービン開放検査 蒸気タービン開放検査 | |
| | 蒸気タービン 〔その他設備〕 | 2次系配管等*(上記「蒸気タービン主な配管」以外の主蒸気系統・給水系統・抽気系統・ドレン系統・復水系統・その他の系統) *: 配管のほか、タービン、ポンプ、熱交換器、弁等を含む | 1. 外観点検* 2. 非破壊試験 | 高・低 | 10Y 肉厚管理指針による | ○ | 17回 | 2次系配管検査 2次系配管検査 | 定期事業者検査起動後 |
| | 蒸気タービン 〔その他設備〕 | 蒸気タービン及び附属設備 | 1. 保安装置点検 2. 負荷点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 蒸気タービン性能検査 | 一部定期事業者検査起動後 |
| | 蒸気タービン 〔その他設備〕 | 蒸気タービン〔その他設備〕 その他の弁 | 1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 分解点検 4. 簡易点検 (グラウンドバッドキックン取替) | 高・低 高 低 高・低 | 1F B 13M~260M 13M~260M 52M~130M | ○ | 17回 | 総合負荷性能検査 2次系安全弁検査 | 定期事業者検査起動後 |
| 蒸気タービン 〔その他設備〕 | 蒸気タービン〔その他設備〕 その他の弁駆動部 | 1. 機能・性能試験 2. 分解点検 3. 簡易点検 (特性点検) | 高・低 | B 52M~182M 13M~182M | ○ | 17回 | | | |
| 蒸気タービン 〔その他設備〕 | 蒸気タービン〔その他設備〕 その他機器 | 1. 分解点検他 2. 分解点検他 | 高 | 13M~130M | ○ | 17回 | | | |
| その他AM(格納容器内注水) 機器 | 1式 | 1. 分解点検他 | 低 | 13M~260M | ○ | 17回 | | 一部BMあり | |
| その他発電用原子炉の附属施設 〔非常用発電装置〕 | 非常用ディーゼル発電機 2台 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 182M 1F | — ○ | 14回 17回 | 1次系弁検査 非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機定格容量検査) 非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機の作動検査) | 有効性評価 No.3の反映 | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 () 内は適用する設備診断技術) | |
|-----------------------------|---|----------------|----------|----------|----------|---------------|-------------------------------|----------------------|--|
| その他発電用原子炉の附属施設 〔非常用発電装置〕 | 非常用炉心冷却設備作動信号及び原子炉格納容器スプレイ作動信号発信時にディーゼル発電機に電源を求める機器 | 46台 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 非常用予備発電装置機能検査 (ディーゼル発電機の作動検査) | | |
| | Aディーゼル発電機 | 1. 分解点検他 | 高 | 13M~104M | ○ | 17回 | | | |
| | Aディーゼル機関 | 1. 分解点検他 | 高 | 13M~156M | ○ | 17回 | | | |
| | Aディーゼル機関のピストン、ピストン連接棒、クランク軸 | No. 1, 9 | 高 | 130M | — | 17回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | | |
| | | No. 2, 10 | 高 | 130M | ○ | 12回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | | |
| | | No. 3, 11 | 高 | 130M | — | 14回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | | |
| | | No. 4, 12 | 高 | 130M | — | 15回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | | |
| | | No. 5, 13 | 高 | 130M | — | 16回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | | |
| | | No. 6, 14 | 高 | 130M | — | 16回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | | |
| | | No. 7, 15 | 高 | 130M | ○ | 11回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | | |
| | | No. 8, 16 | 高 | 130M | ○ | 13回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | | |
| | Aディーゼル機関のシリンダカバー | No. 1-4, 9-12 | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 15回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | |
| | | No. 5-8, 13-16 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 17回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | |
| | Aディーゼル機関の吸気弁 | No. 1-4, 9-12 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 16回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | |
| | | No. 5-8, 13-16 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 17回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | |
| | Aディーゼル機関の排気弁 | No. 1-4, 9-12 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 16回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | |
| | | No. 5-8, 13-16 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 17回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | |
| | Aディーゼル機関の燃料噴射弁 | No. 1-4, 9-12 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 16回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | |
| | | No. 5-8, 13-16 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 17回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | |
| | Bディーゼル発電機 | | 1. 分解点検他 | 高 | 13M~104M | ○ | 17回 | | |
| | Bディーゼル機関 | | 1. 分解点検他 | 高 | 13M~156M | ○ | 17回 | | |
| | Bディーゼル機関のピストン、ピストン連接棒、クランク軸 | No. 1, 9 | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 17回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | |
| | | No. 2, 10 | 1. 分解点検 | 高 | 130M | ○ | 12回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | |
| | | No. 3, 11 | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 14回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | |
| | | No. 4, 12 | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 15回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | |
| | | No. 5, 13 | 1. 分解点検 | 高 | 130M | — | 16回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | |
| | No. 6, 14 | 1. 分解点検 | 高 | 130M | ○ | 11回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | | |

| 機器又は系統名 | 実施数(機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期(定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) | |
|----------------------------------|-----------------------------|----------------|------------|----------|----------|--------------|-----------------|------------------------|--------------------------------------|
| その他発電用原子炉の附属施設 [非常用発電装置] | Bディーゼル機関のピストン、ピストン連接棒、クランク軸 | No. 7, 15 | 高 | 130M | — | 13回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | | |
| | | No. 8, 16 | 高 | 130M | — | 15回 | 非常用ディーゼル発電機分解検査 | | |
| | Bディーゼル機関のシリンダカバー | No. 1-4, 9-12 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 17回 | | 非常用ディーゼル発電機分解検査 |
| | | No. 5-8, 13-16 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 16回 | | 非常用ディーゼル発電機分解検査 |
| | Bディーゼル機関の吸気弁 | No. 1-4, 9-12 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 17回 | | 非常用ディーゼル発電機分解検査 |
| | | No. 5-8, 13-16 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 16回 | | 非常用ディーゼル発電機分解検査 |
| | Bディーゼル機関の排気弁 | No. 1-4, 9-12 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 17回 | | 非常用ディーゼル発電機分解検査 |
| | | No. 5-8, 13-16 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 16回 | | 非常用ディーゼル発電機分解検査 |
| | Bディーゼル機関の燃料噴射弁 | No. 1-4, 9-12 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 17回 | | 非常用ディーゼル発電機分解検査 |
| | | No. 5-8, 13-16 | 1. 分解点検 | 高 | 26M | ○ | 16回 | | 非常用ディーゼル発電機分解検査 |
| | ディーゼル発電機付属設備 | 1式 | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | 非常用予備発電機付属設備検査 |
| | | | 2. 分解点検 | | 26M~130M | ○ | 17回 | | |
| | | | 3. 開放点検 | | 26M~130M | ○ | 17回 | | |
| | | | 4. 非破壊試験 | | 13M | ○ | 17回 | | 非常用予備発電機付属設備検査 |
| | | | 5. 漏えい試験 | | 13M | ○ | 17回 | | |
| | | | 6. 機能・性能試験 | | 1F | ○ | 17回 | | 非常用予備発電機付属設備検査 |
| | | | 7. 特性試験 | | 26M | ○ | 17回 | | 非常用予備発電機付属設備検査 |
| | 空冷式非常用発電装置 | 2台 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | その他非常用発電装置の機能検査 その他非常用発電装置の付属設備検査 |
| | | | 2. 取替他 | | 120M | — | — | | |
| | 電源車(可搬式代替低圧注水ポンプ用) | 2台 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | 可搬式代替電源設備検査 |
| 2. 取替他 | | | | 120M | — | — | | | |
| 電源車 | 2台 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 可搬式代替電源設備検査 | | |
| | | 1. 開放点検 | 高 | 10V | — | — | | | |
| 重油タンク | 2台 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 可搬式代替電源設備検査 | | |
| | | 2. 取替他 | | 120M | — | — | | | |
| その他発電用原子炉の附属施設[非常用発電装置] その他の弁 | 1式 | 1. 機能・性能試験 | 高・低 | B | ○ | 17回 | 非常用予備発電機付属設備検査 | | |
| | | 2. 分解点検 | | 26M~130M | ○ | 17回 | | | |
| その他発電用原子炉の附属施設[非常用発電装置] その他機器 | 1式 | 1. 分解点検他 | 高 | 13M~130M | ○ | 17回 | | | |
| | | 2. 分解点検他 | 低 | 13M~130M | ○ | 17回 | 一部BMあり | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式 又は頻度 | 今回の実施 計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する 設備診断技術) | |
|------------------------------|-------------------------------------|------------|------------|--------------|-------------|------------------|------------------------|--|---------------------------|
| その他発電用原子炉の附属施設 [その他の電源装置] | 直流電源装置蓄電池 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 直流電源系機能検査 直流電源系作動検査 | 15回施設定検時に設置 15回施設定検時に設置 | |
| | 計器用電源 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | インバータ機能検査 | | |
| | 可搬型整流器 | 1式 | 1. 分解点検他 | 高 | 26M | ○ | 17回 | | |
| | | 1個 | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | |
| | 可搬型バッテリー(加圧器逃がし弁用) | 1個 | 2. 電圧測定 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | |
| | その他発電用原子炉の附属施設 [その他の電源装置] その他機器 | 1式 | 2. 電圧測定 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | |
| | | 1式 | 1. 分解点検他 | 高 | 13M~26M | ○ | 17回 | | |
| | | 1式 | 2. 分解点検他 | 低 | 26M | ○ | 17回 | | |
| | | 1式 | 1. 分解点検他 | 高 | 13M~104M | ○ | 17回 | | |
| | その他発電用原子炉の附属施設 [常用電源設備] | 1式 | 1. 分解点検他 | 高・低 | 13M~78M | ○ | 17回 | | |
| 1式 | | 1. 分解点検他 | 高・低 | 52M~156M | ○ | 17回 | | | |
| 1式 | | 1. 分解点検他 | 高 | 13M~156M | ○ | 17回 | | | |
| 1式 | | 2. 分解点検他 | 低 | 13M~130M | ○ | 17回 | | | |
| 1式 | | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | | |
| 1式 | | 1. 特性試験他 | 低 | 13M | ○ | 17回 | | | |
| その他発電用原子炉の附属施設 [火災防護設備] | 1式 | 1. 外観点検 | 高 | 10V | — | — | | プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 15回施設定検時に設置 プラント運転中又は定期事 業者検査停止中 15回施設定検時に設置 計測制御系監視機能検査 は、16回施設定検から実施 | |
| | 1式 | 1. 外観点検 | 高 | 1Y | ○ | 17回 | | | |
| | 1台 | 1. 機能・性能試験 | 高 | 4F | ○ | 16回 | 計測制御系監視機能検査 | | |
| | A湧水ポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 低 | B* | — | — | 浸水防護設備検査 | | |
| | | 2. 取替 | | 5Y | — | — | | | |
| | B湧水ポンプ・電動機 | 1. 機能・性能試験 | 低 | B* | — | — | 浸水防護設備検査 | | |
| | | 2. 取替 | | 5Y | — | — | | | |
| | その他発電用原子炉の附属施設 [浸水防護施設] その他の弁 | 1式 | 1. 機能・性能試験 | 高・低 | B | — | — | | 浸水防護設備検査は、16回 施設定検から設定 |
| | | 1式 | 2. 分解点検 | 高・低 | 130M | — | — | | |
| | | 1式 | 1. 外観点検他 | 高・低 | 1F~10F | ○ | 17回 | | |
| 1式 | | 1. 外観点検他 | 高・低 | 1F~10F | ○ | 17回 | | | |

| 機器又は系統名 | 実施数 (機器名) | 点検及び試験の項目 | 保全の重要度 | 保全方式又は頻度 | 今回の実施計画 | 前回実施時期 (定検回次) | 検査名 | 備考 ()内は適用する設備診断技術) |
|---------|------------------------------------|-----------|--------|----------|---------|---------------|----------|------------------------|
| 土木建築設備 | 原子炉建屋 (格納容器内壁) | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | |
| | 原子炉建屋 (格納容器外) | 1. 外観点検 | 高・低 | 1Y | ○ | 17回 | | プラント運転中又は定期事業者検査停止中 |
| | 取水口設備 | 1. 外観点検 | 高 | 1F | ○ | 17回 | | プラント運転中又は定期事業者検査停止中 |
| プラント総合 | 原子炉及びその附属設備 (補助ボイラー及び非常用予備発電装置を除く) | 1. 総合性能試験 | 高 | 1F | ○ | 17回 | 総合負荷性能検査 | 定期事業者検査起動後 |
| 全般機器 | 諸機器 | 1. 分解点検他 | 低 | 6M~72M | ○ | 17回 | | プラント運転中又は定期事業者検査停止中 |

クラス1機器供用期間中検査10年計画

1. 原子炉容器(1/2)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NAI-2008 ※1 | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | |
|---------|-------|-------------------------|---------------------------|--------|---------|-------------|----------|-----------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|----------------------------------|--|--|
| | | | | | | | | 検査範囲 | 2018年 第一回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第二回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第一回 | 2026年 第21回 | | 2027年 第22回 | |
| B2. 111 | B-B | 体積 | 上部胴と下部胴との周溶接継手 | 体積 | 全長の5% | 1箇所 | 水中UT(内面) | 100% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 維持規格JSME S NAI-2008(重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | 上部胴と下部胴との周溶接継手 | 体積 | 全長の100% | 1箇所 | 水中UT(内面) | 100% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 維持規格JSME S NAI-2012/2013/2014(重大事故等クラス2機器) | |
| | | | 下部胴とトランジヨンジョンリングとの周溶接継手 | 体積 | 全長の5% | 1箇所 | 水中UT(内面) | 100% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 維持規格JSME S NAI-2008(重大事故等クラス2機器) |
| | | | 下部胴とトランジヨンジョンリングとの周溶接継手 | 体積 | 全長の100% | 1箇所 | 水中UT(内面) | 100% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 維持規格JSME S NAI-2012/2013/2014(重大事故等クラス2機器) |
| B3. 105 | B-C | 体積 | トランジヨンジョンリングと下部鉄板との周溶接継手 | 体積 | 全長の5% | 1箇所 | 水中UT(内面) | 100% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 維持規格JSME S NAI-2008(重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | トランジヨンジョンリングと下部鉄板との周溶接継手 | 体積 | 全長の100% | 1箇所 | 水中UT(内面) | 100% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 維持規格JSME S NAI-2012/2013/2014(重大事故等クラス2機器) | |
| B3. 10 | B-D | 体積 | 上部胴と上部胴フランジとの溶接継手 | 体積 | 全長の100% | 1箇所 | 水中UT(内面) | 100% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | 冷却材入口管台と胴との溶接継手 | 体積 | 全数の100% | 4箇所 | 水中UT(内面) | 各100% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| B3. 20 | B-D | 体積 | 冷却材出口管台と胴との溶接継手 | 体積 | 全数の100% | 4箇所 | 水中UT(内面) | 各100% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | 冷却材入口管台内面の丸みの部分 | 体積 | 全数の100% | 4箇所 | 水中UT(内面) | 各100% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| B5. 10 | B-F | 体積及び表面 | 冷却材入口管台とセーフエンドとの溶接継手 | 体積及び表面 | 全数の100% | 4箇所 | UT及びPT | 各100% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | 冷却材出口管台とセーフエンドとの溶接継手 | 体積及び表面 | 全数の100% | 4箇所 | UT及びPT | 各100% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| B6. 10 | B-G-1 | VT-1 | ナット | VT-1 | 全数の100% | 54個 | VT-1 | 100% | - | 7 | 7 | - | - | 12 | 7 | 7 | 7 | (重大事故等クラス2機器) | | |
| B6. 30 | B-G-1 | 体積 | スタッドボルト | 体積 | 全数の100% | 54本 | UT | 100% | - | 7 | 7 | - | - | 12 | 7 | 7 | 7 | (重大事故等クラス2機器) | | |
| B6. 40 | B-G-1 | 体積 | 胴フランジネジ穴のネジ部 | 体積 | 全数の100% | 54箇所 | UT | 可能範囲100% | - | 18 | 18 | - | - | 18 | 18 | - | - | 18 | ガイドナット近傍は検査不可 (重大事故等クラス2機器) | |
| B6. 50 | B-G-1 | VT-1 | 上蓋用ワッシャー | VT-1 | 全数の100% | 54個 | VT-1 | 100% | - | 7 | 7 | - | - | 12 | 7 | 7 | 7 | (重大事故等クラス2機器) | | |
| B7. 10 | B-G-2 | VT-1 | T/Cハウジングのマーマンクランプ用ボルト・ナット | VT-1 | 全数の25% | 3箇所/1組 x 4組 | VT-1 | 25%(1組) | - | 1組 #66 | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |

※1: NRA文書「原子炉容器及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の発見(令和元年6月5日厚労省令第1906051号)の改正版(以下「亀裂発見NRA文書改正」という。)の施行及び公開会(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年版/2014年版)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間(以下)の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

1. 原子炉容器(2/2)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | | | | | | | | | 備考 | | | | |
|---------|-------|-------------------------|------------|------------------------|------------------------|--------------------|------------------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|--|
| | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2018年 第一回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第一回 | | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第一回 |
| G1. 10 | G-P-1 | 原子炉容器内部 | VT-3 | 全範囲の 7.5% 各検査時期毎 | 1基 | VT-3 (水中T V) | 可能範囲 100% 約3年毎 | - | - | - | - | 可能範囲 100% | - | - | 可能範囲 100% | 維持規格JSME S NA1-2008 (重大事故等クラス2機器) |
| G1. 10 | G-P-1 | 原子炉容器内部 | VT-3 | 全範囲の 7.5% | 1基 | VT-3 (水中T V) | 可能範囲 100% 約3年毎 | - | - | - | - | 可能範囲 100% | - | - | - | 維持規格JSME S NA1- 2012/2013/2014 (重大事故等クラス2機器) |
| G1. 40 | G-P-1 | 内部取付け物 | VT-3 | 全範囲の 7.5% | 6箇所 | VT-3 (水中T V) | 可能範囲 100% | - | - | - | - | 可能範囲 100% | - | - | - | 下部炉心構造物取出し時に 実施 (重大事故等クラス2機器) |
| G1. 40 | G-P-1 | 上部炉心支持構造物 | VT-3 | 全範囲の 7.5% | 1基 | VT-3 (水中T V) | 可能範囲 100% | - | - | - | - | 可能範囲 100% | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| G1. 50 | G-P-2 | 下部炉心支持構造物 | VT-3 | 全範囲の 7.5% | 1基 | VT-3 (水中T V) | 可能範囲 100% | - | - | - | - | 可能範囲 100% | - | - | - | 下部炉心構造物取出し時に 実施 (重大事故等クラス2機器) |
| B14. 10 | B-O | 制御棒駆動ハウジングの溶 接継手(上部) | 体積又は 表面 | 最外周 25% | 最外周 20箇所 (全62箇所) | PT | 最外周 可能範囲 25% (11箇所) | - | 1 | 2 | - | 2 | 2 | - | 2 | 1.構造上UTは不可 2.上部は構造的に実施困難 (重大事故等クラス2機器) |
| B15. 10 | B-P | 圧力保持範囲 | VT-2 | 漏えい 検査時 100% | 1式 | VT-2 | 100% | - | ● | - | - | ○ | ○ | - | ○ | (重大事故等クラス2機器) |
| F1. 41 | F-A | 支持構造物 | VT-3 | 全数の 25% | 8箇所 | VT-3 | 25% (2箇所) | - | - | - | - | D 出口側 | - | - | - | 但し、目視可能な範囲のみと する。 (重大事故等クラス2機器) |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技案第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等」新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年版)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り
 ・維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

2. 加圧器(1/2)

別表一(3/11)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10万年) | | | | | | | | | | 備考 | | | |
|--------|------|-------------------------|------|--------|-----|------|-------------|-----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----|---------------|---------------|---------------|
| | | | | | | | | 2018年 第1回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第18回 | 2022年 第19回 | 2023年 第20回 | 2024年 第21回 | 2025年 第22回 | 2026年 第23回 | 2027年 第24回 | | | | |
| B2. 11 | B-B | 上部鏡板と上部胴との周継手 | 体積 | 全長の5% | 1箇所 | UT | 5% | - | 5% | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| B2. 12 | B-B | 下部胴と下部鏡板との周継手 | 体積 | 全長の5% | 1箇所 | UT | 5% | - | - | - | - | - | 5% | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| B2. 13 | B-B | 上部胴の長手継手 | 体積 | 全長の10% | 2箇所 | UT | 各10% | - | B5% | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| B2. 13 | B-B | 中間胴の長手継手 | 体積 | 全長の10% | 2箇所 | UT | 各10% | - | - | A10% | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| B3. 30 | B-D | 下部胴の長手継手 | 体積 | 全長の10% | 2箇所 | UT | 各10% | - | - | - | - | A10% | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| B3. 40 | B-D | 上部胴と中間胴との周継手 | 体積 | 全長の5% | 1箇所 | UT | 5% | - | - | 5% | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| B3. 30 | B-D | 中間胴と下部胴との周継手 | 体積 | 全長の5% | 1箇所 | UT | 5% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| B3. 30 | B-D | 安全弁用管台と容器との溶接継手 | 体積 | 全長の25% | 3箇所 | UT | 全数の33%(2箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| B3. 40 | B-D | 逃げし弁用管台と容器との溶接継手 | 体積 | 全数の25% | 3箇所 | UT | 全数の33%(2箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| B3. 40 | B-D | スプレイ用管台と容器との溶接継手 | 体積 | 全数の25% | 3箇所 | UT | 全数の33%(2箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| B3. 40 | B-D | サージ用管台と容器との溶接継手 | 体積 | 全数の25% | 3箇所 | UT | 全数の33%(2箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | | | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験標準等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

*維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

2. 加圧器(2/2)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 |
|---------|-------|------------------------------------|--------|------------|--------------------|--------|--------------|-----------------------|---------------|---------------|------------------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|
| | | | | | | | | 2018年 第一回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第一回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第一回 | 2026年 第21回 | 2027年 第22回 | |
| B5. 40 | B-F | 安全弁用管台とセーフエントとの溶接継手 | 体積及び表面 | 全数の25% | 3箇所 | UT及びPT | 33% (2箇所) | - | - | - | サージ用管台 (UT・PT) | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | 逃がし弁用管台とセーフエントとの溶接継手 | | | 1箇所 | | | - | - | - | 安全弁用管台 A (UT・PT) | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | スプレイ用管台とセーフエントとの溶接継手 | | | 1箇所 | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| | | サージ用管台とセーフエントとの溶接継手 | | | 1箇所 | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| B7. 20 | B-G-2 | マンホール取付ボルト | VT-1 | 全数の25% | 16本/ 1箇所× 1基 | VT-1 | 25% (4本) | - | 1 | 1 | 1 | - | - | 1 | - | (重大事故等クラス2機器) | | |
| B8. 20 | B-H | 支持部材の容器への取付け溶接継手 (スカート溶接継手) | 表面又は体積 | 全数の7.5% | 1箇所 | UT | 7.5% | - | - | 7.5% | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | |
| B15. 20 | B-P | 圧力保持範囲 | VT-2 | 漏えい検査時100% | 1式 | VT-2 | 100% | - | ● | - | ○ | - | - | - | ○ | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| F1. 41 | F-A | 支持構造物(スカート、基礎ボルト含む) | VT-3 | 全数の25% | 1箇所/ 1基 | VT-3 | 100% | - | - | - | 100% | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |

※1 : NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす破損に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

3. 蒸気発生器(1/1)

| 項目番号 | カテゴリ | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 1箇所/ 1基×4 基 | 検査方法 | 検査範囲 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | |
|---------|-------|----------------------|------------|---------------------|--------------------------|------------|------------------------------|-----------------------|-----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----|---|---|---------------|---------------------|
| | | | | | | | | 2018年 第一回 | 2019年 第一回 | 2020年 第一回 | 2021年 第一回 | 2022年 第一回 | 2023年 第一回 | 2024年 第一回 | 2025年 第一回 | 2026年 第一回 | 2027年 第一回 | | | | | |
| B2. 40 | B-B | 管板と水室鑄板との溶接継手 | 体積 | 代表1基 全長の 25% | 1箇所/ 1基×4 基 | UT | 代表1基 の25% | - | A 9% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| B3. 60 | B-D | 冷却材入口管台の内面の丸みの部分 | 体積 | 代表1基 全長の 25% | 1箇所/ 1基×4 基 | UT | 代表1基 の50% (1箇所/ 1基) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| | | 冷却材出口管台の内面の丸みの部分 | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| B5. 70 | B-F | 冷却材入口管台とセーフエンドとの溶接継手 | 体積及び 表面 | 代表1基 全長の 25% | 1箇所/ 1基×4 基 | UT及び PT | 代表1基の 50% (1箇所/ 1基) | - | B入口側 (UT,PT) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | *1 (重大事故等クラス2機器) |
| | | 冷却材出口管台とセーフエンドとの溶接継手 | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| B7. 30 | B-G-2 | 1次側マンホールボルト(入口側) | VT-1 | 代表1基 全長の 25% | 16本/ 1基×4 基 | VT-1 | 代表1基 の50% (16本/ 1基) | - | A 入口側 4本 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| | | 1次側マンホールボルト(出口側) | | | | | | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| B8. 30 | B-H | 水室鑄とサポートハットとの溶接継手 | 表面 | 代表1基 全長の 7.5% | 4箇所/ 1基×4 基 | PT | 代表1基 の25% (1箇所/ 1基) | - | A1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| B15. 30 | B-P | 圧力保持範囲 | VT-2 | 漏えい 検査時 100% | 1式 | VT-2 | 100% | - | ● | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| F1. 41 | F-A | 支持構造物 | VT-3 | 代表1基 の25% | 4箇所/ 1基×4 基 | VT-3 | 代表1基の 100% (4箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |

*1: 検査方法のうちUTについては、NISA文書「定期事業者検査における超音波探傷試験の代替措置計画策定について」の検査対象

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電線その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原簿技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

4. 配管(2/3)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 | JSMES NA1-2008 ※1 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | |
|---------|------|------------------------------------|-------------------|----------------------|--------------------|------|------|---------------|------|--------------|--------------|--------------|--------------|----|--------------|--------------|--------------|---------------|
| | | | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2018年 第一回 | 2019年 第一回 | 2020年 第一回 | 2021年 第一回 | | 2022年 第一回 | 2023年 第一回 | 2024年 第一回 | 2025年 第一回 |
| B9. 31 | B-J | 母管と管台との 溶接継手(呼び 径100A以上) | 1次冷却材管 | 体積 | 全数の 25% | 9箇所 | UT | 33% (3箇所) | - | 1 | - | 1 | - | - | 1 | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | 1次冷却材管 | 表面 | 全数の 25% | 32箇所 | PT | 25% (8箇所) | - | 1 | 3 | - | 1 | - | - | 1 | - | 1 |
| B9. 32 | B-J | 母管と管台との 溶接継手 (呼び径100A未 滿) | 余熱除去ポンプ入口ライン | 表面 | 全数の 25% | 2箇所 | PT | 50% (1箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | SIS蓄圧注入ライン | 表面 | 全数の 25% | 2箇所 | PT | 50% (1箇所) | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | | | SIS高温側低圧注入ライン | 表面 | 全数の 25% | 2箇所 | PT | 50% (1箇所) | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | |
| | | | SIS低温側低圧注入ライン | 表面 | 全数の 25% | 2箇所 | PT | 50% (1箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| B9. 40 | B-J | ソケット溶接 継手 | 1次冷却材管 | 表面 | 全数の 25% | 24箇所 | PT | 25% (6箇所) | - | 1 | 2 | - | 1 | - | - | - | 1 | |
| | | | 加圧器補助スプレイライン | 表面 | 全数の 25% | 6箇所 | PT | 33% (2箇所) | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | | | 抽出及びドレンライン | 表面 | 全数の 25% | 6箇所 | PT | 33% (2箇所) | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | |
| | | | 1次冷却材ポンプ封水注入ライン | 表面 | 全数の 25% | 62箇所 | PT | 25% (16箇所) | - | - | 2 | 4 | - | 3 | 1 | - | 2 | 2 |
| B10. 20 | B-K | 耐圧部分へ の支持部材 取付け溶接 継手 | SIS高温側高圧補助注入ライン | 表面 | 全数の 25% | 30箇所 | PT | 26% (8箇所) | - | 2 | 2 | - | 1 | - | - | - | 1 | |
| | | | SIS低温側高圧補助注入ライン | 表面 | 全数の 25% | 16箇所 | PT | 25% (4箇所) | - | - | 1 | - | - | 1 | 1 | - | - | 1 |
| B15. 50 | B-P | | 余熱除去ポンプ入口ライン | 表面 | 全数の 25% | 2箇所 | PT | 50% (1箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | 圧力保持範囲 | VT-2 | 漏えい 検査時 100% | 1式 | VT-2 | 100% | - | ● | ● | - | - | - | - | - | ○ | (重大事故等クラス2機器) |

※1 : NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破断を引き起こす亀裂その他の脆軟」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂脆軟NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版:2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

4. 配管(3/3)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | | | | | | | | | 大阪発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 |
|-----------|-------|-------------------------|------|--------|------|------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------|---------------|--|--|----|
| | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2018年 第一回 | 2019年 第一回 | 2020年 第一回 | 2021年 第一回 | 2022年 第一回 | 2023年 第一回 | 2024年 第一回 | 2025年 第一回 | 2026年 第一回 | 2027年 第一回 | | | | | |
| F1.10 F-A | 支持構造物 | 加圧器サージライン | VT-3 | 全数の25% | 7箇所 | VT-3 | 28% (2箇所) | - | 1 | - | - | 1 | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | | | |
| | | 加圧器逃がし弁ライン | VT-3 | 全数の25% | 10箇所 | VT-3 | 30% (3箇所) | - | 1 | - | - | 1 | - | - | 1 | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | | | |
| | | 加圧器スプレイレイン | VT-3 | 全数の25% | 61箇所 | VT-3 | 26% (16箇所) | - | 2 | 3 | - | 2 | 3 | 2 | - | - | 4 | | | | | |
| | | 加圧器補助スプレイレイン | VT-3 | 全数の25% | 30箇所 | VT-3 | 26% (8箇所) | - | 2 | 2 | - | 1 | - | 1 | - | 1 | 1 | | | | | |
| | | 抽出及びドレインライン | VT-3 | 全数の25% | 23箇所 | VT-3 | 26% (6箇所) | - | 1 | 1 | - | 1 | - | - | - | 2 | 1 | | | | | |
| | | CVCS充てんライン | VT-3 | 全数の25% | 5箇所 | VT-3 | 40% (2箇所) | - | - | 1 | - | - | 1 | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | | | |
| | | 1次冷却材ポンプ封水注入ライン | VT-3 | 全数の25% | 27箇所 | VT-3 | 25% (7箇所) | - | 1 | 2 | - | - | 1 | - | 1 | - | 1 | 1 | | | | |
| | | 余熱除去ポンプ入ロライン | VT-3 | 全数の25% | 24箇所 | VT-3 | 25% (6箇所) | - | - | 2 | - | - | 1 | 1 | - | - | 1 | 1 | (重大事故等クラス2機器) | | | |
| | | SIS蓄圧注入ライン | VT-3 | 全数の25% | 30箇所 | VT-3 | 26% (8箇所) | - | - | 1 | - | - | 2 | 1 | - | - | 1 | 2 | (重大事故等クラス2機器) | | | |
| | | SIS高温側低圧注入ライン | VT-3 | 全数の25% | 12箇所 | VT-3 | 25% (3箇所) | - | - | 1 | - | - | - | 1 | - | - | 1 | - | | | | |
| | | SIS低温側低圧注入ライン | VT-3 | 全数の25% | 10箇所 | VT-3 | 30% (3箇所) | - | - | 1 | - | - | 1 | - | - | - | 1 | - | (重大事故等クラス2機器) | | | |
| | | SIS高温側高圧補助注入ライン | VT-3 | 全数の25% | 46箇所 | VT-3 | 26% (12箇所) | - | - | 1 | 5 | - | 1 | 1 | - | - | 2 | 2 | | | | |
| | | SIS低温側高圧補助注入ライン | VT-3 | 全数の25% | 12箇所 | VT-3 | 25% (3箇所) | - | - | - | 1 | - | - | 1 | - | - | 1 | 1 | (重大事故等クラス2機器) | | | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規格要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

5. 1次冷却材ポンプ(1/1)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | 大阪発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | | | 備考 | |
|---------|-------|-------------------------|------|-----------------------------|----------------|------|---------------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|--------------|----|------------------------------|
| | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2018年 第一回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第一回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第一回 | | 2026年 第21回 |
| B6. 180 | | 主フランジボルト | 体積 | 代表1台の 25% | 24本/ 1台×4台 | UT | 代表1台の 25% (6本/1台) | - | B 6 | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| B6. 190 | B-G-1 | 主フランジ表面 | VT-1 | 代表1台の 25% | 24箇所/ 1台×4台 | VT-1 | 代表1台の 25% (6箇所/1台) | - | B 6 | - | - | - | - | - | - | - | ポンプ分解点検時に実施 (重大事故等クラス2機器) |
| B6. 200 | | 主フランジナット・ワッシャ | VT-1 | 代表1台の 25% | 24組/ 1台×4台 | VT-1 | 代表1台の 25% (6組/1台) | - | B 6 | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |
| B12. 20 | B-L-2 | ケーシングの内表面 | VT-3 | 代表1台の 100% 漏えい 検査時 | 4台 | VT-3 | 代表1台の 100% (1台) | - | B 可能範囲 | - | - | - | - | - | - | - | ポンプ分解点検時に実施 (重大事故等クラス2機器) |
| B15. 60 | B-P | 圧力保持範囲 | VT-2 | 100% | 1式 | VT-2 | 100% | - | ● | ● | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | (重大事故等クラス2機器) |
| F1. 41 | F-A | 支持構造物 | VT-3 | 代表1台の 25% | 3箇所/ 1台×4台 | VT-3 | 代表1台の 100% (3箇所/1台) | - | - | A3 | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を可及的に防止するための検査その他の規範」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検出NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「原子炉圧力容器の溶接継手の試験手順等」新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

6. 弁(1/2)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 | JSMIE S NA1-2008 ※1 | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 大阪発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | |
|--------------|-----------------------|---------------------------------------|---------------------|--------------|--------------------|--------------|------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---|---|------------------------------|---|
| | | | | | | | | | | 2018年 第一回 | 2019年 第一回 | 2020年 第一回 | 2021年 第一回 | 2022年 第一回 | 2023年 第一回 | 2024年 第一回 | 2025年 第一回 | 2026年 第一回 | 2027年 第一回 | | |
| B7. 70 B-G-2 | 呼び径 100Aを超 える弁類 | 直径50mm 以下の圧 力保特用弁 ルト締付け 部 | CVCS充てんライン | 加圧器安全弁ライン | VT-1 | 代表1台 の25% | 3台 | VT-1 | 代表1台 の100% (1台) | 4V-RC-055 | - | - | - | - | - | - | - | 4V-RC-056 4V-RC-057 (重大事故等クラス2機器) | | | |
| | | | | 加圧器逃がし弁ライン | VT-1 | 代表1台 の25% | 2台 | VT-1 | 代表1台 の100% (1台) | 4V-RC-054B | - | - | - | - | - | - | - | - | 4V-RC-054A・B (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | | 加圧器スプレイレイン | VT-1 | 代表1台 の25% | 2台 | VT-1 | 代表1台 の100% (1台) | 4PCV-451A | - | 4PCV-452B | - | - | - | - | - | - | - | 4PCV-452A・B (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | | 加圧器補助スプレイレイン | VT-1 | 代表1台 の25% | 1台 | VT-1 | 代表1台 の100% (1台) | 4V-CS-169 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4V-CS-169 |
| | | | | 抽出及びドレンライン | VT-1 | 代表1台 の25% | 1台 | VT-1 | 代表1台 の100% (1台) | 4V-RC-017 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4V-RC-017 |
| | | | | | VT-1 | 代表1台 の25% | 2台 | VT-1 | 代表1台 の100% (1台) | - | - | - | 4LCV-451 | - | - | - | - | - | - | - | 4LCV-451 4LCV-452 |
| | | | | | VT-1 | 代表1台 の25% | 2台 | VT-1 | 代表1台 の100% (1台) | - | - | - | 4V-CS-164 | - | - | - | - | - | - | - | 4V-CS-164, 4V-CS-166 (重大事故等クラス2機器) |
| | | | | | VT-1 | 代表1台 の25% | 2台 | VT-1 | 代表1台 の100% (1台) | - | - | - | 4PCV-420 | - | - | - | - | - | - | - | 4PCV-420, 4PCV-430 4V-RH-002A・B (重大事故等クラス2機器) |
| | | | | | VT-1 | 代表1台 の25% | 8台 | VT-1 | 代表1台 の100% (1台) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4V-SI-134A・B・C・D 4V-SI-136A・B・C・D (重大事故等クラス2機器) |
| | | | | | VT-1 | 代表1台 の25% | 4台 | VT-1 | 代表1台 の100% (1台) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4V-RH-051A・B 4V-SI-082B・C |
| B12. 50B-M-2 | 呼び径 100Aを超 える弁類 | | SIS低温側低圧注入ライン | VT-1 | 代表1台 の25% | 4台 | VT-1 | 代表1台 の100% (1台) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4V-RH-050A・B・C・D (重大事故等クラス2機器) | | | |
| | | | SIS高温側低圧注入ライン | VT-1 | 代表1台 の25% | 4台 | VT-1 | 代表1台 の100% (1台) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4V-RH-050D | | | |
| | | | 加圧器安全弁ライン | VT-3 | 代表1台 の100% | 3台 | VT-3 | 代表1台 の100% (1台) | 4V-RC-055 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4V-RC-055, 4V-RC-056 4V-RC-057 (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | 余熱除去ポンプ入ロライン | VT-3 | 代表1台 の100% | 2台 | VT-3 | 代表1台 の100% (1台) | - | - | - | 4PCV-420 | - | - | - | - | - | - | 4PCV-420, 4PCV-430 4V-RH-002A・B (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | SIS蓄圧注入ライン | VT-3 | 代表1台 の100% | 8台 | VT-3 | 代表1台 の100% (1台) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4V-SI-134A・B・C・D 4V-SI-136A・B・C・D (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | SIS高温側低圧注入ライン | VT-3 | 代表1台 の100% | 4台 | VT-3 | 代表1台 の100% (1台) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4V-RH-051A・B 4V-SI-082B・C | | |
| | | | SIS低温側低圧注入ライン | VT-3 | 代表1台 の100% | 4台 | VT-3 | 代表1台 の100% (1台) | 4V-RH-050D | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4V-RH-050A・B・C・D (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | | VT-2 | 漏えい 検査時 100% | 1式 | VT-2 | 100% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | | VT-2 | 漏えい 検査時 100% | 1式 | VT-2 | 100% | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | B15. 70 B-P | | | 圧力保持範囲 | VT-2 | 漏えい 検査時 100% | 1式 | VT-2 | 100% | - | - | - | - | - | - | - | - | (重大事故等クラス2機器) | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破綻を引き起こす亀裂その他の欠陥の検知」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検知NRA文書改正という。)、の施行及び公開会合「原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等 新規補修要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年版)を2020年4月1日より適用する。
*維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

クラス1機器供用期間中検査10年計画

6. 弁(2./2.)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NAT-2008 ※1 | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 大阪発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | |
|-------|------|-------------------------|--------------|------|--------------|-------------------|------|------------------------|-----------------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---|-------------------------------|---|
| | | | | | | | | | 2018年 第一回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第一回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第一回 | 2026年 第21回 | 2027年 第22回 | | |
| F1.41 | F-A | 支持構造物 | 加圧器安全弁ライン | VT-3 | 代表1台 の25% | 1箇所/ 1台 x3台 | VT-3 | 代表1台 の100% (1箇所) | 4V-RC- 055 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | 4V-RC-055 4V-RC-057 (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | | | 代表1台 の25% | 2箇所/ 1台 x2台 | VT-3 | 代表1台 の100% (2箇所) | 4V-RC- 054B 2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4V-RC-054A-B (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | | | 代表1台 の25% | 2箇所/ 1台 x2台 | VT-3 | 代表1台 の100% (2箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4PCV-452A-B (重大事故等クラス2機器) |
| | | | | | 代表1台 の25% | 2箇所/ 1台 x1台 | VT-3 | 代表1台 の100% (2箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4PCV- 451B 2 |
| | | | 加圧器補助スプレイライン | VT-3 | 代表1台 の25% | 1箇所/ 1台 x1台 | VT-3 | 代表1台 の100% (1箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4V-CS-169 | | |
| | | | | | 代表1台 の25% | 2箇所/ 1台 x2台 | VT-3 | 代表1台 の100% (2箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4LCV-451 4LCV-452 |
| | | | | | 代表1台 の25% | 1箇所/ 1台 x4台 | VT-3 | 代表1台 の100% (1箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 4PCV-420, 4PCV-430 4V-RH-002A-B (重大事故等クラス2機器) |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)」の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる答台」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

1. 余熱除去冷却器

| 項目番号 | カテゴリー | 維持規格 JSME S NAT-2008 ※1 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 |
|--------|-------|------------------------------------|------------|---------------------|---------------|------------|---------------------------|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|-----------|---------------|
| | | | | | | | | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | |
| C1. 10 | C-A | 管側胴と管側フランジとの溶接継手 | 体積 | 代表1基 全長の 7.5% | 1箇所/1 基×2基 | UT | 代表1基の 7.5% | A 7.5% | | | | | | | 第1回 | 第17回 | 第18回 | (重大事故等クラス2機器) |
| C1. 20 | C-A | 管側鏡板と管側胴との溶接継手 | 体積 | 代表1基 全長の 7.5% | 1箇所/1 基×2基 | UT | 代表1基の 7.5% | | | | | | | | 第1回 | | A 7.5% | (重大事故等クラス2機器) |
| C2. 21 | C-B | 管側入口管台と管側胴との溶接継手 | 体積及び 表面 | 代表1基 全長の 7.5% | 1箇所/1 基×2基 | UT及び PT | 代表1基の 50% (1箇所/1基) | | | | | | | | | | | (重大事故等クラス2機器) |
| | | 管側出口管台と管側胴との溶接継手 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C4. 10 | C-D | 全ねじボルト | 体積 | 代表1基 全長の 7.5% | 48本/1基 ×2基 | UT | 代表1基の 100% (48本/1基) | | | | | | | | | A 16本 | A 16本 | (重大事故等クラス2機器) |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

*維持規格2008年版:2013年~2020年3月(本サイクル開始~第16保全サイクルまで)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

2. 配管(1/3)

別表-2(2/10)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | | | | | | | |
|--------|------|---|-----------------------|------------|-------------|------|------------|---------------|------|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | | | 検査の対象箇所 | | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C3. 20 | C-C | 配管支持部 材取付け溶 接継手 | 高圧注入ポンプ出口ライン | 表面 | 全数の 7.5% | 6箇所 | PT | 16% (1箇所) | 1 | | | | | | | | | | | | | (重大事故等クラス2機器) | | | |
| | | | 高圧注入ポンプ出口連絡 ライン | 表面 | 全数の 7.5% | 2箇所 | PT | 50% (1箇所) | | | | | | | | 1 | | | | | | | (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | 余熱除去ポンプ入口ライン | 表面 | 全数の 7.5% | 2箇所 | PT | 50% (1箇所) | | | | | | | | 1 | | | | | | | | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | 余熱除去冷却器出口ライン | 表面 | 全数の 7.5% | 1箇所 | PT | 100% (1箇所) | | | | | | | | | | 1 | | | | | | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | SIS高温側低圧注入ライン | 表面 | 全数の 7.5% | 2箇所 | PT | 50% (1箇所) | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| | | | SIS低温側低圧注入ライン | 表面 | 全数の 7.5% | 2箇所 | PT | 50% (1箇所) | | | | | | | | | | | | | | | | | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | 格納容器循環サブ出口 ライン | 表面 | 全数の 7.5% | 2箇所 | PT | 50% (1箇所) | | | | | | | | | | | | | | | | | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | 充てんポンプ出口ライン | 体積及び 表面 | 全数の 7.5% | 4箇所 | UT及び PT | 25% (1箇所) | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | 余熱除去ポンプ入口ライン | 体積又は 表面 | 全数の 7.5% | 64箇所 | PT | 7.8% (5箇所) | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | 余熱除去ポンプ出口ライン | 体積又は 表面 | 全数の 7.5% | 2箇所 | PT | 50% (1箇所) | | | | | | | | | | | | | | | | | (重大事故等クラス2機器) |
| C5. 11 | C-F | 呼び径100A を超える管 で公称厚さ が9.5mmを 超える溶接 継手 | 余熱除去冷却器出口ライン | 体積及び 表面 | 全数の 7.5% | 44箇所 | UT及び PT | 9% (4箇所) | 1 | | | | | | | | | | | | | | (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | SIS高温側低圧注入ライン | 体積及び 表面 | 全数の 7.5% | 16箇所 | UT及び PT | 12% (2箇所) | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | SIS低温側低圧注入ライン | 体積及び 表面 | 全数の 7.5% | 24箇所 | UT及び PT | 8% (2箇所) | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | 高圧注入ポンプ出口ライン | 体積及び 表面 | 全数の 7.5% | 40箇所 | UT及び PT | 7.5% (3箇所) | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | (重大事故等クラス2機器) |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年版/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 *維持規格2008年版:2013年~2020年3月(本サイクル開始~第16保全サイクルまで)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

2. 配管(2/3)

別表-2(3/10)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | | |
|--------|------|---------------------------------|-----------------------|---------|------|------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------------------------------|---------------|---------------|
| | | | 検査の対象箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | | | |
| | | | 体積又は表面 | 全数の7.5% | 2箇所 | - | - | | | | | | 第1回 | 第16回 | 第17回 | 第18回 | | | | |
| C5. 11 | C-F | 呼び径100Aを超える管で公称厚さが9.5mmを超える溶接継手 | 格納容器再循環サブ出口ライン | 全数の7.5% | 2箇所 | - | - | | | | | | - | | | | | 全箇所、格納容器貫通部のため検査不可(重大事故等クラス2機器) | | |
| C5. 12 | C-F | | 燃料取替用水ピット出口ライン | 全数の7.5% | 6箇所 | PT | 16% (1箇所) | 1 | | | | | - | | | | | (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | 余熱除去ポンプ入口ライン | 全数の7.5% | 6箇所 | PT | 16% (1箇所) | | | | | | | - | 1 | | | | (重大事故等クラス2機器) | |
| C5. 21 | C-F | | 燃料取替用水ピット出口ライン | 全数の7.5% | 4箇所 | PT | 25% (1箇所) | | | | | | - | 1 | | | | (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | 高圧注入ポンプ出口ライン | 全数の7.5% | 44箇所 | PT | 9% (4箇所) | 1 | | | | | | - | 1 | 1 | | | (重大事故等クラス2機器) | |
| C5. 30 | C-F | ソケット溶接継手 | 封水注入ライン | 全数の7.5% | 12箇所 | PT | 8% (1箇所) | 1 | | | | | | - | | | | | | |
| | | | SIS高温側高圧補助注入ライン | 全数の7.5% | 17箇所 | PT | 11% (2箇所) | | | | | | | | - | 1 | | | | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | SIS低温側高圧補助注入ライン | 全数の7.5% | 40箇所 | PT | 10% (4箇所) | | | | | | | | - | 1 | 1 | | | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | 封水注入ライン | 全数の7.5% | 27箇所 | PT | 11% (3箇所) | | | | | | | | - | 1 | | | | |
| C5. 41 | C-F | 呼び径50Aを超える母管と管台及び母管と枝管との溶接継手 | SIS高温側高圧補助注入ライン | 全数の7.5% | 20箇所 | PT | 10% (2箇所) | | | | | | | - | 1 | | | | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | 高圧注入ポンプ出口ライン | 全数の7.5% | 20箇所 | PT | 10% (2箇所) | 1 | | | | | | - | | | | | | (重大事故等クラス2機器) |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年～2020年3月(本サイクル開始～第16保全サイクルまで)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

別表-2(4/10)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | | | | | | | | | 大鏡発電所 第4号機 検査計画(10万年) | | | | | | | | | | 備考 | | | |
|----------------|------|-------------------------|-----------------|------|--------------|------|------|---------------|-------|-------|---------------|-----------------------|-------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | | 検査の対象箇所 | | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2013年 | 2014年 | 2015年 第15回 | 2016年 | 2017年 | 2018年 第一回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第一回 | 2022年 第18回 | | | | | | | |
| F1.21 | F-A | 支持構造物 | 充てんポンプ出口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 1箇所 | VT-3 | 100% (1箇所) | 1 | | | | | | | | | | (重大事故等クラス2機器) | | | | | | |
| | | | 余熱除去ポンプ入口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 47箇所 | VT-3 | 8% (4箇所) | | | 2 | | | | | | | | 1 | (重大事故等クラス2機器) | | | | | |
| | | | 余熱除去ポンプ出口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 15箇所 | VT-3 | 13% (2箇所) | | | | | | | | | | | | 1 | (重大事故等クラス2機器) | | | | |
| | | | 余熱除去冷却器出入口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 20箇所 | VT-3 | 10% (2箇所) | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | (重大事故等クラス2機器) | | | |
| | | | 余熱除去冷却器出口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 43箇所 | VT-3 | 9% (4箇所) | | | 1 | | | | | | 1 | | | | 1 | (重大事故等クラス2機器) | | | |
| | | | 余熱除去冷却器バイパスライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 4箇所 | VT-3 | 25% (1箇所) | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| | | | SIS高温側低圧注入ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 2箇所 | VT-3 | 50% (1箇所) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | SIS低温側低圧注入ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 8箇所 | VT-3 | 12% (1箇所) | | | | | | | | | | | | | 1 | | (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | 高圧注入ポンプ出口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 42箇所 | VT-3 | 9% (4箇所) | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | 1 | (重大事故等クラス2機器) | | |
| | | | 封水注入ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 21箇所 | VT-3 | 9% (2箇所) | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 高圧注入ポンプ出口連絡ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 11箇所 | VT-3 | 9% (1箇所) | | | | | | | | | | | | | | 1 | | (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | SIS高温側高圧補助注入ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 14箇所 | VT-3 | 14% (2箇所) | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| | | | SIS低温側高圧補助注入ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 47箇所 | VT-3 | 8% (4箇所) | | | 1 | | | | | | | | | | | | 2 | | (重大事故等クラス2機器) |
| | | | 格納容器再循環サブ出口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 16箇所 | VT-3 | 12% (2箇所) | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | (重大事故等クラス2機器) |
| 燃料取替用水ピット出口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 8箇所 | VT-3 | 12% (1箇所) | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | (重大事故等クラス2機器) | | | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年~2020年3月(本サイクル開始~第16保全サイクルまで)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

3. 充てんポンプ

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | 大阪発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | |
|--------|------|-------------------------|-----------------------|-----------|------------|------|--------------------|----------|-------|-------|-------|-------|----------|-----------|-------|-----------|---------------|
| | | | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 |
| C3. 30 | C-C | ポンプ支持部材取付け溶接継手 | 表面 | 全数の7.5% | 16箇所/1台×2台 | PT | 全数の9% (3箇所) | A 1箇所 | | | | | A 1箇所 | A 1箇所 | - | | (重大事故等クラス2機器) |
| C4. 30 | C-D | ケーシングボルト | 体積 | 代表1台の7.5% | 16本/1台×2台 | UT | 代表1台の12% (2本/1台) | | | | | | A 1本 | A 1本 | - | | (重大事故等クラス2機器) |
| C6. 10 | C-G | ケーシングの溶接継手 | 表面 | 代表1台の7.5% | 1箇所/1台×2台 | PT | 代表1台の100% (1箇所/1台) | | | | | | | | - | A 100% | (重大事故等クラス2機器) |
| F1. 43 | F-A | ポンプ台板脚 | VT-3 | 代表1台の7.5% | 2箇所/1台×2台 | VT-3 | 代表1台の100% (2箇所/1台) | | | | | | | A 100% | - | | (重大事故等クラス2機器) |

4. 充てんポンプ(往復動式)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | 大阪発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | |
|--------|------|-------------------------|-----------------------|---------|--------|------|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|-------|---------------|
| | | | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 |
| F1. 43 | F-A | ポンプ台板脚 | VT-3 | 全数の7.5% | 1箇所/1台 | VT-3 | 100% (1箇所/1台) | | | | | | | | 100% | - | | (重大事故等クラス2機器) |

5. 余熱除去ポンプ

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | 大阪発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | |
|--------|------|-------------------------|-----------------------|-----------|-----------|------|--------------------|----------|-------|-------|-------|-------|----|-----------|-------|-------|-------|---------------|
| | | | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 |
| C6. 10 | C-G | ケーシングの溶接継手 | 表面 | 代表1台の7.5% | 2箇所/1台×2台 | PT | 代表1台の50% (1箇所/1台) | A 1箇所 | | | | | | | - | | | (重大事故等クラス2機器) |
| F1. 43 | F-A | ポンプ台板脚 | VT-3 | 代表1台の7.5% | 2箇所/1台×2台 | VT-3 | 代表1台の100% (2箇所/1台) | | | | | | | A 100% | - | | | (重大事故等クラス2機器) |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新制要件」に関する事業者意見の聴取にかかる答台」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格2008年版: 2013年~2020年3月(本サイクル開始~第16保安サイクルまで)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

6. クラス2弁

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | |
|-------|------|-------------------------|----------------------|------|---------------|-----------------------|------|---------------------------|-------|-------|-------|-------|---------------------|-------------------|-------------------|----|---------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | | 2021年 | 2022年 | |
| F1.43 | F-A | 支持構造物 | 余熱除去冷却器 出入口ライン | VT-3 | 代表1台 の7.5% | 2箇所/1 台 x 2台 | VT-3 | 代表1台の 100%(2箇 所/1台) | | | | | | 4HCV- 603 2 | | | | 4HCV-603 (重大事故等クラス2機器) | |
| | | | 余熱除去冷却器 出入口ライン | VT-3 | 代表1台 の7.5% | 2箇所/1 台 x 2台 | VT-3 | 代表1台の 100%(2箇 所/1台) | | | | | | | | | | 4V-RH- 043B 2 | 4V-RH-043A・B (重大事故等クラス2機器) |
| | | | 余熱除去冷却器 バイパスライン | VT-3 | 代表1台 の7.5% | 2箇所/1 台 x 2台 | VT-3 | 代表1台の 100%(2箇 所/1台) | | | | | | | 4FCV- 614 2 | | | | 4FCV-604、4FCV-614 |
| | | | 封水注入ライン | VT-3 | 代表1台 の7.5% | 1箇所/1 台 x 2台 | VT-3 | 代表1台の 100%(1箇 所/1台) | | | | | 4V-SI- 026A 1 | | | | 4V-SI-026A・B | | |
| | | | 格納容器再循環 サンブ出入口ライン | VT-3 | 代表1台 の7.5% | 2箇所/1 台 x 2台 | VT-3 | 代表1台の 100%(2箇 所/1台) | | | | | | | | | 4V-SI- 093A 2 | 4V-SI-093A・B (重大事故等クラス2機器) | |

※1: NRA文書「専用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の劣化の監視(令和元年6月5日厚相技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂監視NRA文書改正という。)の施行及び公開会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年版)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版: 2013年~2020年3月(本サイクル開始~第16保全サイクルまで)

別表-2(6/10)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

7. クラス2機器漏えい検査(1/4)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | 運転圧力又は最高使用圧力(MPa) | 検査方法 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | | | | | | | |
|--------|------|-------------------------|-------------------------|-------------------|------|-----------------------|-------|---------------|-------|-------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|-------------|--|
| | | 系統名 | 検査の対象箇所 ライン名 | | | 2013年 | 2014年 | 2015年 第15回 | 2016年 | 2017年 | 2018年 第一回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第一回 | 2022年 第18回 | | | | | | | | | | | | | |
| C7. 30 | C-H | 1次冷却材系統 | 加圧器迷がしタンクPMW供給ライン | 0.98 | VT-2 | | | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C7. 70 | | | 抽出ライン(1) | 15.41 | VT-2 | | | | | | | ● | | | | | | | | | | | | | | | RCS漏えい検査時実施 | |
| | | | 抽出ライン(2) | 2.06 | VT-2 | | | | | | | | ● | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 抽出ライン(3) | 0.34 | VT-2 | | | | | | | | ● | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 体積制御タンク入ロライン | 0.27 | VT-2 | | | | ※1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 体積制御タンク及び出入口ロライン | 0.11 | VT-2 | | | | | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | 一部気圧検査 | |
| | | | A充てんポンプ出入口ロライン及び封水注入ライン | 18.0 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | B充てんポンプ出入口ロライン | 18.0 | VT-2 | | | | ※1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | C充てんポンプ出入口ロライン | 17.36 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ほう酸混合器及び出入口ロライン | 0.11 | VT-2 | | | | | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | ほう酸ポンプ及び充てんポンプ連絡ライン | 0.11 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C7. 10 | | | Aほう酸ポンプ入ロライン | 水張り | VT-2 | | | | ※1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 一部気圧検査 | |
| C7. 30 | | | Bほう酸ポンプ入ロライン | 水張り | VT-2 | | | | ※1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 一部気圧検査 | |
| C7. 50 | | | Aほう酸ポンプ出入口ロライン | 0.87 | VT-2 | | | | ※1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C7. 70 | | | Bほう酸ポンプ出入口ロライン | 0.87 | VT-2 | | | | ※1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 封水戻りライン | 0.20 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | A, B高圧注入ポンプ入ロライン | 0.19 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | |
| C7. 10 | | | A高圧注入ポンプ出入口ライン(1) | 10.01 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | |
| C7. 30 | | | A高圧注入ポンプ出入口ライン(2) | 10.01 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | |
| C7. 50 | | | | 10.01 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | |
| C7. 70 | | | | 10.01 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | |

※1:プラント長期停止に伴い、プラント起動時(H29)に検査を実施
 ※2: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)」の施行及び公開台合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる台合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 *維持規格2008年版:2013年～2020年3月(本サイクル開始～第16保全サイクルまで)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

7. クラス2機器漏えい検査(2/4)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※2 検査の対象箇所 | 系統名 | 運転圧力は最高使用圧力(MPa) | 検査圧力(MPa) | 検査方法 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------------|------|------------------------------------|-----------------------|------------------|-----------|------|-----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----|--|--|--|--|--|--|--|-----------------|--|--|--|
| | | | | | | | 2013年 第15回 | 2014年 第15回 | 2015年 第15回 | 2016年 第15回 | 2017年 第15回 | 2018年 第16回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第17回 | 2022年 第18回 | | | | | | | | | | | | |
| C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70 | C-H | 安全注入系統 | B 高圧注入ポンプ出口ライン(1) | 10. 01 | 10. 01 | VT-2 | ● | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | B 高圧注入ポンプ出口ライン(2) | 10. 01 | 10. 01 | VT-2 | ● ※1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 格納容器再循環サブ出口ライン | 水張り | 水張り | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | RCS漏えい検査時実施 | | | |
| | | | 蓄圧タンク及びび出入ライン | 4. 42 | 4. 42 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ガードパイプ内包部分は検査不可 | | | |
| | | | 燃料取替用水ピット出入ライン | 水張り | 水張り | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 一部気圧検査 | | | |
| C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70 | C-H | 余熱除去系統 | 蓄圧タンク窒素充てんライン | 4. 42 | 4. 42 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 蓄圧タンク注入ライン | 10. 01 | 10. 01 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | A 余熱除去ポンプ入口ライン | 2. 75 | 2. 75 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | B 余熱除去ポンプ入口ライン | 2. 75 | 2. 75 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | A 余熱除去ポンプ出口ライン | 3. 78 | 3. 78 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70 | C-H | 格納容器スプレイ系統 | B 余熱除去ポンプ出口ライン | 3. 78 | 3. 78 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | A 格納容器スプレイポンプ入口ライン | 0. 19 | 0. 19 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | B 格納容器スプレイポンプ入口ライン | 0. 19 | 0. 19 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | A 格納容器スプレイポンプ出口ライン(1) | 1. 97 | 1. 97 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | A 格納容器スプレイポンプ出口ライン(2) | 1. 97 | 1. 97 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70 | C-H | 格納容器スプレイ系統 | B 格納容器スプレイポンプ出口ライン(1) | 1. 97 | 1. 97 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | B 格納容器スプレイポンプ出口ライン(2) | 1. 97 | 1. 97 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | よう素除去薬品タンク及びび出入ライン | 0. 03 | 0. 03 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | A よう素除去薬品タンク出口ライン | 水張り | 水張り | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | B よう素除去薬品タンク出口ライン | 水張り | 水張り | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※1: プラント長期停止に伴い、プラント起動時(H29)に検査を実施
 ※2: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす故障を軽減するための取組」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年版/2014年追補/2017年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 *維持規格2008年版: 2013年~2020年3月(本サイクル開始~第16保全サイクルまで)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

7. クラス2機器漏えい検査(3/4)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | 運転圧力又は最高使用圧力(MPa) | 検査方法 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | |
|--------------------------------------|------|-------------------------|------------------|-------------------|------|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|---|-------------|-------------|--|
| | | 系統名 | 検査の対象箇所 ライン名 | | | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | | | | | |
| C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70 | C-H | 格納容器スプレ系統 | PH調整剤タンク及び出入口ライン | 0. 03 | VT-2 | | | | | | | | | ● | | | | 一部気圧検査 | | |
| C7. 10 C7. 30 C7. 70 | C-H | 主蒸気系統 | A蒸気発生器蒸気出口ライン | 4. 62 | VT-2 | | | | | | | | | ● | | | | RCS漏えい検査時実施 | | |
| | | | B蒸気発生器蒸気出口ライン | 4. 62 | VT-2 | | | | | | | | | ● | | | | RCS漏えい検査時実施 | | |
| | | | C蒸気発生器蒸気出口ライン | 4. 62 | VT-2 | | | | | | | | | | ● | | | | RCS漏えい検査時実施 | |
| | | | D蒸気発生器蒸気出口ライン | 4. 62 | VT-2 | | | | | | | | | | ● | | | | RCS漏えい検査時実施 | |
| C7. 30 C7. 70 | C-H | 主給水系統 | A蒸気発生器給水入口ライン | 4. 62 | VT-2 | | | | | | | | | ● | | | | RCS漏えい検査時実施 | | |
| | | | B蒸気発生器給水入口ライン | 4. 62 | VT-2 | | | | | | | | | ● | | | | RCS漏えい検査時実施 | | |
| | | | C蒸気発生器給水入口ライン | 4. 62 | VT-2 | | | | | | | | | | ● | | | | RCS漏えい検査時実施 | |
| | | | D蒸気発生器給水入口ライン | 4. 62 | VT-2 | | | | | | | | | | ● | | | | RCS漏えい検査時実施 | |
| C7. 30 C7. 70 | C-H | 蒸気発生器ブロウダウンスystem | A蒸気発生器ブロウダウンライン | 4. 62 | VT-2 | | | | | | | | | ● | | | | RCS漏えい検査時実施 | | |
| | | | B蒸気発生器ブロウダウンライン | 4. 62 | VT-2 | | | | | | | | | ● | | | | RCS漏えい検査時実施 | | |
| | | | C蒸気発生器ブロウダウンライン | 4. 62 | VT-2 | | | | | | | | | | ● | | | | RCS漏えい検査時実施 | |
| | | | D蒸気発生器ブロウダウンライン | 4. 62 | VT-2 | | | | | | | | | | ● | | | | RCS漏えい検査時実施 | |
| C7. 30 C7. 70 | C-H | 制御用空気系統 | A制御用空気ライン | 0. 74 | VT-2 | | | | | | | | | | ○ | | | | | |
| | | | B制御用空気ライン | 0. 74 | VT-2 | | | | | | | | | | | ○ | | | | |
| | | | 所内用空気ライン | 0. 7 | VT-2 | | | | | | | | | | | | ○ | | | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新始期要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年版/2014年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版:2013年~2020年3月(本サイクル開始~第16保全サイクルまで)

クラス2機器供用期間中検査10年計画

7. クラス2機器漏えい検査(4/4)

| 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10年) | | | | | | | | | | | | 備考 | | | | |
|-------------------------|------|----------------------|-------------------------------|------|-------------------|-----------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|
| 項目番号 | カテゴリ | 系統名 | 検査の対象箇所 | ライン名 | 運転圧力又は最高使用圧力(MPa) | 検査圧力(MPa) | 検査方法 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 |
| | | | | | | | | 第15回 | | 第15回 | | 第16回 | 第1回 | 第16回 | 第17回 | 第1回 | 第18回 | |
| C7.30 C7.70 | C-H | 試料採取系統 | 加圧器液相部、気相部サンプル及びび1次冷却材サンプルライン | | 15.41 | 15.41 | VT-2 | | | | | | ○ | | ○ | - | | |
| | | | Dループ高温側サンプルライン | | 15.41 | 15.41 | VT-2 | | | | | | - | | ○ | - | | |
| | | | 蓄圧タンクサンプルライン | | 4.42 | 4.42 | VT-2 | | | | | | - | | ○ | - | | |
| C7.30 C7.70 | C-H | 燃料取替用水系統 | 原子炉キャビティ浄化ライン(1) | | 水張り | 水張り | VT-2 | | | | | | - | | ○ | - | | |
| | | | 原子炉キャビティ浄化ライン(2) | | 水張り | 水張り | VT-2 | | | | | | - | | ○ | - | | |
| C7.30 C7.70 | C-H | 廃棄物処理系統 | 格納容器冷却材ドレンポンプ出口ライン | | 0.6 | 0.6 | VT-2 | | | | | | - | | ○ | - | | |
| | | | 格納容器ポンプ出口ライン | | 0.2 | 0.2 | VT-2 | | | | | | - | | ○ | - | | |
| C7.30 C7.70 | C-H | 1次系洗浄水系統 | 1次系洗浄水ライン | | 0.7 | 0.7 | VT-2 | | | | | | - | | | - | ○ | |
| | | | CRDM冷却ユニット他冷却水入口ライン | | 0.7 | 0.7 | VT-2 | | | | | | - | | | - | ○ | |
| C7.30 C7.70 | C-H | 原子炉補機冷却水系統 | CRDM冷却ユニット他冷却水出口ライン | | 0.2 | 0.2 | VT-2 | | | | | | - | | | - | ○ | |
| | | | RCP冷却水入口ライン | | 0.7 | 0.7 | VT-2 | | | | | | - | | | - | ○ | |
| | | | RCP冷却水出口ライン | | 0.2 | 0.2 | VT-2 | | | | | | - | | | - | ○ | |
| C7.30 C7.70 | C-H | 消火水系統 | 消火水ライン | | 0.6 | 0.6 | VT-2 | | | | | | - | | | - | ○ | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第 906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開合会「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかける会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格2008年版: 2013年～2020年3月(本サイトクールの開始～第16保全サイクルまで)

別表-2(10/10)

クラス3機器供用期間中検査10年計画

別表-3(1/7)

1. 余熱除去冷却器(胴側)

| 項目番号 | カテゴリ | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10力年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | |
|--------|------|------------|------|---------------|-------------------|------|------------------------|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|--|--|--|--|--|---------------------------------------|
| | | | | | | | | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | | | | | | | |
| D1. 10 | D-A | 胴と当板との溶接継手 | VT-3 | 代表1基の 7.5% | 2箇所 /1基 ×2基 | VT-3 | 代表1基の 100% (2箇所) | | | | | | | | | | | | | | | | | 維持規格 JSME S NAI-2008 |
| D1. 10 | D-A | 胴と当板との溶接継手 | VT-1 | 代表1基の 7.5% | 2箇所 /1基 ×2基 | VT-1 | 代表1基の 100% (2箇所) | | | | | | | | | | | | | | | | | 維持規格 JSME S NAI- 2012/2013/2014 |
| F1. 44 | F-A | 支持脚 | VT-3 | 代表1基の 7.5% | 2箇所 /1基 ×2基 | VT-3 | 代表1基の 100% (2箇所) | | | | | | | | | | | | | | | | | |

2. 格納容器スプレイ冷却器(胴側)

| 項目番号 | カテゴリ | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10力年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | |
|--------|------|------------|------|---------------|-------------------|------|------------------------|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|--|--|--|--|--|---------------------------------------|
| | | | | | | | | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | | | | | | | |
| D1. 10 | D-A | 胴と当板との溶接継手 | VT-3 | 代表1基の 7.5% | 2箇所 /1基 ×2基 | VT-3 | 代表1基の 100% (2箇所) | | | | | | | | | | | | | | | | | 維持規格 JSME S NAI-2008 |
| D1. 10 | D-A | 胴と当板との溶接継手 | VT-1 | 代表1基の 7.5% | 2箇所 /1基 ×2基 | VT-1 | 代表1基の 100% (2箇所) | | | | | | | | | | | | | | | | | 維持規格 JSME S NAI- 2012/2013/2014 |
| F1. 44 | F-A | 支持脚 | VT-3 | 代表1基の 7.5% | 2箇所 /1基 ×2基 | VT-3 | 代表1基の 100% (2箇所) | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NIRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等) 新規用要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

*維持規格2008年版: 2013年~2020年3月(本サイクル開始~第16保全サイクルまで)

クラス3機器供用期間中検査10年計画

別表-3(2/7)

3. 配管

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NAI-2008 ※1 | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | | | 備考 | | |
|--------|------|-------------------------|------|-----------------------|-------|------|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|-------|---------------------------------------|
| | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | | 2021年 | 2022年 |
| D1. 20 | D-A | 配管の支持部材 取付け溶接継手 | VT-3 | 全数の 7.5% | 63箇所 | VT-3 | 7.9% (5箇所) | 1 | | | | | | 2 | | | | 維持規格 JSME S NAI-2008 |
| D1. 20 | D-A | 配管の支持部材 取付け溶接継手 | VT-1 | 全数の 7.5% | 63箇所 | VT-1 | 7.9% (5箇所) | | | | | | | | 1 | - | 1 | 維持規格 JSME S NAI- 2012/2013/2014 |
| F1. 31 | F-A | 支持構造物 | VT-3 | 全数の 7.5% | 461箇所 | VT-3 | 7.5% (35箇所) | 6 | | 5 | | | | 14 | 5 | - | 5 | |

4. 弁

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NAI-2008 ※1 | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | | | 備考 | | | |
|--------|------|-------------------------|------|-----------------------|--------------------|------|---------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|-------|-------|--|
| | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | | 2021年 | 2022年 | |
| F1. 31 | F-A | 支持構造物 | VT-3 | 全数の 7.5% | 2箇所/ 1台 x 4台 | VT-3 | 代表1台の 100%(2箇 所/1台) | | | | | | | | | | | 2 | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格2008年版: 2013年~2020年3月(本サイクル開始~第16保全サイクルまで)

5. クラス3機器漏えい検査

別表一3(3/7)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | 検査の対象箇所 ライン名 | 運転圧力 又は 最高使用 圧力 (MPa) | 検査圧力 (MPa) | 検査方法 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | | | |
|------------------|------|-------------------------|----------------------------|-----------------|-----------------------------------|---------------|------|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|----|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | 系統名 | 2013年 | | | | | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 第15回 | | | | | | | | | |
| D2. 10 D2. 30 | D-B | 原子炉補機冷却水系 | A, B原子炉補機冷却水ポンプ 入口ライン | 0.34 | 0.34 | VT-2 | ● | | | | | | | ● | | | | | | | | | | | | |
| | | | C, D原子炉補機冷却水ポンプ 入口ライン | 0.34 | 0.34 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 原子炉補機冷却水サージタンク 及び出入りライン | 0.02 | 0.02 | VT-2 | | | | ● | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D2. 10 D2. 30 | D-B | 燃料ピット冷却浄化系 | A, B原子炉補機冷却水ポンプ 出口ライン | 0.96 | 0.96 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | C, D原子炉補機冷却水ポンプ 出口ライン | 0.96 | 0.96 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 使用済燃料ピットポンプ入口ライン | 0.18 | 0.18 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D2. 10 D2. 30 | D-B | 制御用空気系統 | A使用済燃料ピットポンプ出口ライン | 0.76 | 0.76 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | B使用済燃料ピットポンプ出口ライン | 0.76 | 0.76 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | A制御用空気出口ライン | 0.64 | 0.64 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D2. 30 | D-B | 制御用空気系統 | B制御用空気出口ライン | 0.64 | 0.64 | VT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

※1: NRA文書「美用発電用原子炉及びその附属施設における破断を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかるとの報告」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格2008年版: 2013年～2020年3月(本サイクル開始～第16保全サイクルまで)

クラス3機器供用期間中検査10年計画

別表一7(4/7)

| 項目番号 | カテゴリ | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | |
|-------|------|-----------------------|--------------|-----------------------|----------------------|--------------|--------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|
| | | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | | | | | | | |
| D1.10 | D-A | 胴と当板との溶接継手 | 検査方法 VT-3 | 検査範囲 代表1基 の7.5% | 設備数 3箇所/1基 ×2基 | 検査方法 VT-3 | 検査範囲 代表1基 の100% (3箇所) | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 維持規格 JISME S NA1-2008 |
| D1.10 | D-A | 胴と当板との溶接継手 | 検査方法 VT-1 | 検査範囲 代表1基 の7.5% | 設備数 3箇所/1基 ×2基 | 検査方法 VT-1 | 検査範囲 代表1基 の100% (3箇所) | | | | | | | B | | | | 維持規格 JISME S NA1- 2012/2013/2014 |
| F1.44 | F-A | 支持脚 | 検査方法 VT-3 | 検査範囲 代表1基 の7.5% | 設備数 3箇所/1基 ×2基 | 検査方法 VT-3 | 検査範囲 代表1基 の100% (3箇所) | | | | | | | B | | | | |

7. 海水ストレーナー

| 項目番号 | カテゴリ | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | |
|-------|------|-----------------------|--------------|-----------------------|----------------------|--------------|--------------------------------|-------|-------|-------|-------|----|--|---|--|--|--|--|
| | | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | | | | | | | |
| D1.10 | D-A | 鏡板とスカートとの溶接継手 | 検査方法 VT-3 | 検査範囲 代表1基 の7.5% | 設備数 1箇所/1基 ×4基 | 検査方法 VT-3 | 検査範囲 代表1基 の100% (1箇所) | | | | | | | B | | | | 維持規格 JISME S NA1-2008 |
| D1.10 | D-A | 鏡板とスカートとの溶接継手 | 検査方法 VT-1 | 検査範囲 代表1基 の7.5% | 設備数 1箇所/1基 ×4基 | 検査方法 VT-1 | 検査範囲 代表1基 の100% (1箇所) | | | | | | | | | | | 維持規格 JISME S NA1- 2012/2013/2014 |
| F1.44 | F-A | 支持構造物(スカート) | 検査方法 VT-3 | 検査範囲 代表1基 の7.5% | 設備数 1箇所/1基 ×4基 | 検査方法 VT-3 | 検査範囲 代表1基 の100% (1箇所) | | | | | | | B | | | | |

8. 非常用ディーゼル発電機清水冷却器

| 項目番号 | カテゴリ | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | |
|-------|------|-----------------------|--------------|-----------------------|----------------------|--------------|--------------------------------|-------|-------|-------|-------|----|--|--|--|--|--|--|
| | | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | | | | | | | |
| D1.10 | D-A | 胴と当板との溶接継手 | 検査方法 VT-3 | 検査範囲 代表1基 の7.5% | 設備数 2箇所/1基 ×2基 | 検査方法 VT-3 | 検査範囲 代表1基 の100% (2箇所) | | | | | | | | | | | 維持規格 JISME S NA1-2008 |
| D1.10 | D-A | 胴と当板との溶接継手 | 検査方法 VT-1 | 検査範囲 代表1基 の7.5% | 設備数 2箇所/1基 ×2基 | 検査方法 VT-1 | 検査範囲 代表1基 の100% (2箇所) | | | | | | | | | | | 維持規格 JISME S NA1- 2012/2013/2014 |
| F1.44 | F-A | 支持脚 | 検査方法 VT-3 | 検査範囲 代表1基 の7.5% | 設備数 2箇所/1基 ×2基 | 検査方法 VT-3 | 検査範囲 代表1基 の100% (2箇所) | | | | | | | | | | | B |

※1: NRA 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈(令和元年6月5日原簿検査第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。))の施行及び公開会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新附制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版:2013年~2020年3月(本サイクル開始~第16保全サイクルまで)

クラス3機器供用期間中検査10年計画

別表-7(5/7)

9. 非常用ディーゼル発電機潤滑油冷却器

| 項目 番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | | | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 |
|----------|------|-------------------------|------|-----------|---------------|------|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------------------------------------|
| | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | |
| D1.10 | D-A | 胴と当板との溶接継手 | VT-3 | 代表1基の7.5% | 2箇所/1基 ×2基 | VT-3 | 代表1基の100% (2箇所) | | | | | | | | | | 維持規格 JSME S NA1-2008 |
| D1.10 | D-A | 胴と当板との溶接継手 | VT-1 | 代表1基の7.5% | 2箇所/1基 ×2基 | VT-1 | 代表1基の100% (2箇所) | | | | | | | | | | 維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014 |
| F1.44 | F-A | 支持脚 | VT-3 | 代表1基の7.5% | 2箇所/1基 ×2基 | VT-3 | 代表1基の100% (2箇所) | | | | | | | | | | |

10. 配管

| 項目 番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | | | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 |
|----------|------|-------------------------|------|---------|-----------------------------------|------|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------------------------------------|
| | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | |
| D1.20 | D-A | 配管の支持 部材取付け 溶接継手 | VT-3 | 全数の7.5% | 83箇所 | VT-3 | 8.4% (7箇所) | | | 2 | | | | | | | 維持規格 JSME S NA1-2008 |
| D1.20 | D-A | 配管の支持 部材取付け 溶接継手 | VT-1 | 全数の7.5% | 83箇所 | VT-1 | 8.4% (7箇所) | | | | | | | 1 | | | 維持規格 JSME S NA1- 2012/2013/2014 |
| F1.31 | F-A | 支持構造物 | VT-3 | 全数の7.5% | 466箇所 RH: 168 AN: 298 | VT-3 | 7.7% (36箇所) | | | 3 | | | | | 3 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | 10 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 |

※1 : NRA 文書「美用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新編制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 -維持規格2008年版: 2013年~2020年3月(本サイト公開開始~第16保全サイクルまで)

クラス3機器供用期間中検査10年計画

11. 弁

別表-3(6/7)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10か年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | |
|-------|------|-------------------------|-----------------|------|---------|-----|------|--------------|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | | | | | | | |
| F1.31 | F-A | | 原子炉補機 冷却海水系統 | VT-3 | 全数の7.5% | 3箇所 | VT-3 | 33% (1箇所) | | | | | | | | | | | | | | | | | |

12. 原子炉補機冷却水ポンプ

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10か年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | | |
|-------|------|-------------------------|---------|------|-----------|---------------|------|--------------------|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|--|--|--|--|--|--|---|
| | | | | | | | | | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | | | | | | | | |
| F1.31 | F-A | | ポンプ台板脚 | VT-3 | 代表1台の7.5% | 4箇所/1台 ×4台 | VT-3 | 代表1台の100% (4箇所) | | | | | | | | | | | | | | | | | | A |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検出」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検出NRA文書改正という。)の施行及び公開会社「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる套合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版: 2013年～2020年3月(本サイクル開始～第16回全サイクルまで)

クラス3機器供用期間中検査10年計画

13. クラス3機器漏えい検査

別表-3(7/7)

| 項目 番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | 運転圧力又は 最高使用 圧力 (MPa) | 検査圧力 (MPa) | 検査 方法 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10ヵ年) | | | | | | | | | | 備 考 | | | | | | |
|----------------|------|-------------------------|--|-------------------------------|---------------|----------|-----------------------|-------|-------|-------|-------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----|------|---|--|--|---|--|
| | | 系統名 | 検査の対象箇所 ライン名 | | | | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 第1回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第1回 | 2022年 第18回 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | 第15回 | | | | | |
| D2.10 D2.30 | D-B | 原子炉補機 冷却海水系 統 | AB原子炉補機冷却海水ボ ンプ出口ライン C原子炉補機冷却海水ボ ンプ出口ライン | 0.44 | 0.44 | VT-2 | | | | | - | | | | | | | - | | | | ○ | |
| D2.10 D2.30 | D-B | 非常用ディー ゼル発電機 系統 | A-非常用ディーゼル発電機 冷却水ライン B-非常用ディーゼル発電機 冷却水ライン | 0.44 | 0.44 | VT-2 | | | | | - | | ● | | | | | | - | | | | |
| D2.10 D2.30 | D-B | 非常用ディー ゼル発電機 系統 | A-非常用ディーゼル発電機 起動空気ライン B-非常用ディーゼル発電機 起動空気ライン | 2.501 | 2.501 | VT-2 | | | | | | | | | | ● | | | | | | | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規格適用に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
* 維持規格2008年版: 2013年~2020年3月(本サイクル開始~第16保全サイクルまで)

クラス1機器Ni基金使用部位特別検査10年計画表

別表-4(1/1)

| NRA文書(原規技発第1408063号)※1 | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | |
|------------------------|------------|-----------------------|------|---------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|----|--------------|---------------|
| 機器名 | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 検査頻度 | 2018年 第1回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第1回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | | 2025年 第1回 | 2026年 第21回 |
| 原子炉容器 | 原子炉容器底部の表面 | - | - | 100%/5年 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 計装用貫通部溶接継手 | BMV | 58箇所 | | - | ● | - | - | - | ○ | - | - | - | - |

※1：NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、亀裂解釈NRA文書改正を2020年4月1日より適用する。

・亀裂解釈NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び 原規技発第1906051号(改正 令和元年6月5日)：2020年4月～(第17保全サイクルから)

クラス2管(原子炉格納容器内)特別検査10年計画

別表-5(1/1)

| 項目 番号 | カテゴリ | NRA文書 原規技発第1408063号※1 | | | | | | | | | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | |
|----------|------|-----------------------|------|------|------|------|------|--------------|---------------|---------------|-------|-----------------------|-------|---------------|-------|-------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|----|---------------|---|---------------|---------------|
| | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2009年 第一回 | 2010年 第13回 | 2011年 第14回 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 第15回 | 2016年 | 2017年 | 2018年 第一回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第一回 | 2022年 第18回 | | 2023年 第19回 | | | |
| - | - | 配管 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | |
| | | 抽出水ライン(3B) | 体積 | 25% | 19箇所 | UT | 5 | 2 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | |
| | | 充てんライン(3B) | 体積 | 25% | 35箇所 | UT | 9 | 4 | | | | | 2 | | | | | | | | | 2 | | | | (重大事故等クラス2機器) |
| | | 再生熱交換器連絡管 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | 抽出水ライン連絡管(3B) | 体積 | 25% | 12箇所 | UT | 3 | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | |
| | | 充てんライン連絡管(3B) | 体積 | 25% | 12箇所 | UT | 3 | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | (重大事故等クラス2機器) | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解明(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解明NRA文書改正という。)」の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、亀裂解明NRA文書改正を2020年4月1日より適用する。
 ・亀裂解明NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び「原規技発第1906051号(改正 令和元年6月5日)」、2020年4月～(第17保全サイクルから)

原子炉格納容器供用期間中検査10年計画

1. 原子炉格納容器

| 維持規格 JSME S NAI-2008 ※1 | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | | | |
|-------------------------|------|---|------|------|-----|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 項目番号 | カテゴリ | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年 | 2026年 | 2027年 |
| E8. 10 | E-G | 圧力保持用バルブ 締付ワ部 機器搬入口 (PEN #540) | VT-4 | 25% | 1箇所 | VT-4 | 25% | | | | | | | | | | | | | | | | |

※1: NRA 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における事故を引き起こす亀裂その他の欠陥の検出」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検出NRA文書改正という。)の施行及び公開会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する
 事業者等の議取にかかる会合(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年~2020年3月(本サイクル開始~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表

1. 格納容器スプレイ冷却器(管側)

別表-7(1/32)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 | JSMIE S-NA1-2008※1 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | |
|-------|------|-------------------|--------------------|-----------------------|---------------|------|---------------------------|------|----------|---------------|--------------|---------------|---------------|----|--------------|---------------|---------------|---------------|
| | | | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2017年 第15回 | 2018年 第1回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | | 2021年 第2回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 |
| C1.10 | C-A | 管側胴と管側フランジとの周溶接継手 | 体積 | 代表1基 全長の 7.5% | 1箇所/ 1基×2基 | UT | 代表1基の 7.5% (1箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | A 7.5% |
| C1.20 | C-A | 管側鉄板と管側胴との溶接継手 | 体積 | 代表1基 全長の 7.5% | 1箇所/ 1基×2基 | UT | 代表1基の 7.5% (1箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | A 7.5% |
| C4.10 | C-D | 全ねじボルト | 体積 | 代表1基 全数の 7.5% | 48本/1基 ×2基 | UT | 代表1基の 100% (48本/1基) | - | A 16本 | - | - | - | - | - | - | - | - | A 16本 |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電線その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会社「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

*維持規格2008年版:2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表

別表-7(2/32)

2. 配管(1/2)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S_NA1-2008 ※1 | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 |
|--------|------|---|----------------------|------------|-------------|------|------------|---------------|-----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----|
| | | | | | | | | | 2017年 第15回 | 2018年 第16回 | 2019年 第17回 | 2020年 第18回 | 2021年 第19回 | 2022年 第20回 | 2023年 第21回 | 2024年 第22回 | 2025年 第23回 | 2026年 第24回 | |
| C3. 20 | C-C | 配管支持部 材取付け溶 接継手 | 原子炉補機冷却水ポンプ 入ロライン | 表面 | 全数の 7.5% | 3箇所 | PT | 33% (1箇所) | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | | 原子炉補機冷却水ポンプ 出ロライン | 表面 | 全数の 7.5% | 1箇所 | PT | 100% (1箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | | | 主蒸気大気放出ライン | 表面 | 全数の 7.5% | 4箇所 | PT | 25% (1箇所) | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - |
| C5. 11 | C-F | 呼び径100A を超える管 で公称厚さ が9.5mmを 超える溶接 継手 | 原子炉補機冷却水冷却器 入ロライン | 体積又は 表面 | 全数の 7.5% | 11箇所 | PT | 9% (1箇所) | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | | 原子炉補機冷却水戻り母管 | 体積又は 表面 | 全数の 7.5% | 36箇所 | PT | 8% (3箇所) | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - |
| | | | 主蒸気大気放出ライン | 体積及び 表面 | 全数の 7.5% | 8箇所 | UT及び PT | 12% (1箇所) | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - |
| C5. 12 | C-F | 継手 | 原子炉補機冷却水冷却器 入ロライン | 体積又は 表面 | 全数の 7.5% | 11箇所 | PT | 9% (1箇所) | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | | 原子炉補機冷却水戻り母管 | 体積又は 表面 | 全数の 7.5% | 46箇所 | PT | 8% (4箇所) | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | 1 |
| | | | 原子炉補機冷却水ポンプ 入ロライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 33箇所 | VT-3 | 9% (3箇所) | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | 1 |
| F1. 21 | F-A | 支持構造物 | 原子炉補機冷却水ポンプ 出ロライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 11箇所 | VT-3 | 9% (1箇所) | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | | 格納容器再循環ユニット 入ロライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 54箇所 | VT-3 | 9% (5箇所) | - | - | - | 2 | - | - | - | - | - | - | 1 |
| | | | 格納容器再循環ユニット 出ロライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 97箇所 | VT-3 | 8% (8箇所) | - | - | - | 3 | - | - | - | - | - | - | - |
| | | | 格納容器スプレイポンプ 入ロライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 12箇所 | VT-3 | 8% (1箇所) | - | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | | 格納容器スプレイポンプ 出ロライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 6箇所 | VT-3 | 16% (1箇所) | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第166保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | 大飯発電所 第4号機 検査計画 (10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | |
|-------|------|-------------------------|----------------------|------------------------|-------------|------|------|---------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|----|---------------|---------------|--------------|---------------|---|
| | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2017年 第15回 | 2018年 第1回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第1回 | 2022年 第18回 | | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第1回 | 2026年 第21回 | |
| F1.21 | F-A | 支持構造物 | 格納容器スプレイ冷却器 出口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 13箇所 | VT-3 | 7.6% (1箇所) | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | | |
| | | | RHR-CSSS連絡ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 8箇所 | VT-3 | 12% (1箇所) | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | - | |
| | | | 恒設代替低圧注水ポンプ 出口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 42箇所 | VT-3 | 9% (4箇所) | - | 1 | 1 | - | - | 1 | - | - | - | - | 1 |
| | | | 可搬式代替低圧海水注入 ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 1箇所 | VT-3 | 100% (1箇所) | - | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - |
| | | | 主蒸気大気放出口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | 4箇所 | VT-3 | 25% (1箇所) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |

※1: NRA文書「美用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

*維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表

別表-7(4/32)

3. 格納容器スプレイポンプ

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | |
|--------|------|-------------------------|------|---------------|---------------|------|---------------------------|-----------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|--|
| | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 2017年 第15回 | 2018年 第1回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第1回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第1回 | 2026年 第21回 | |
| C6. 10 | C-G | ケーシングの溶接継手 | 表面 | 代表1台 の7.5% | 2箇所/ 1台×2台 | PT | 代表1台の 50% (1箇所/1台) | | - | | | - | | A 50% | | - | | |
| F1. 43 | F-A | ポンプ台板脚 | VT-3 | 代表1台 の7.5% | 2箇所/ 1台×2台 | VT-3 | 代表1台の 100% (2箇所/1台) | | - | | | - | | | A 100% | | - | |

4. 恒設代替低圧注水ポンプ

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | |
|--------|------|-------------------------|------|---------------|---------------|------|---------------------------|-----------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|--|
| | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | 2017年 第15回 | 2018年 第1回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第1回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第1回 | 2026年 第21回 | |
| F1. 43 | F-A | ポンプ台板脚 | VT-3 | 代表1台 の7.5% | 2箇所/ 1台×1台 | VT-3 | 代表1台の 100% (2箇所/1台) | | - | | | - | | | | 100% | - | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表

別表-7(5/32)

5. 弁

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10九年) | | | | | | | | | | 備考 | |
|-------|------|-------------------------|-----------------------|---------------|---------------|--------------------------------|---------------------------|---------------------------|-----------------------|--------------|---------------|---------------|---------------------|---------------|---------------|---------------|--------------|----------------------------------|------------------|----------------------------|
| | | | | | | | | | 2017年 第15回 | 2018年 第一回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第一回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第一回 | 2026年 第21回 | | |
| F1.43 | F-A | | 格納容器再循環ユニット ト出ロライン | VT-3 | 代表1台 の7.5% | 2箇所/ 1台×1台 1箇所/ 1台×1台 | VT-3 | 代表1台の 100% (2箇所/1台) | | | | | 4TCV- 2392A 2 | | | | | 4TCV- 2392A 4TCV- 2393D | | |
| | | | | VT-3 | 代表1台 の7.5% | 1箇所/ 1台×2台 | VT-3 | 代表1台の 100% (1箇所/1台) | | | | | | | | | | | 4V-CP- 024A-B | |
| | | | VT-3 | 代表1台 の7.5% | 1箇所/ 1台×1台 | VT-3 | 代表1台の 100% (1箇所/1台) | | | | | | | | | | | | | 4V-RH -061 |
| | | | VT-3 | 代表1台 の7.5% | 2箇所/ 1台×4台 | VT-3 | 代表1台の 100% (2箇所/1台) | | | | | | | | | | | | | 4PCV- 3610 3630,3640 |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の弊害」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂弊害NRA文書改正という。)の施行及び公開会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 *維持規格2008年版:2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表

6. 重大事故等クラス2機器漏えい検査(1/4)

別表-7(6/32)

| 項目番号 | カテゴリ | 系統名 | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | 検査の対象箇所 ライン名 | SA時最高使用圧力 (MPa) (工認記載値) | 検査圧力 (MPa) | 検査方法 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | |
|----------------------------------|------|------------|-------------------------|---------------|----------------------------|-------------------------------|---------------|------|-----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---|------|----|------|---|
| | | | 2017年 第15回 | 2018年 第16回 | | | | | 2019年 第17回 | 2020年 第18回 | 2021年 第19回 | 2022年 第20回 | 2023年 第21回 | 2024年 第22回 | 2025年 第23回 | 2026年 第24回 | | | | | |
| C7.30 C7.70 | C-H | 制御用空気系統 | | | A制御用空気ライン | 0.98 | 0.98 | VT-2 | - | - | - | - | - | ○ | - | - | ○ | 気圧検査 | | | |
| | | | | | B制御用空気ライン | 0.98 | 0.98 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | 気圧検査 | |
| C7.30 C7.50 C7.70 | C-H | 低圧注水系統 | | | 恒設代替低圧注水ポンプ入ロライン | 0 | 0 | VT-2 | - | - | ● | - | - | - | - | - | - | - | | | |
| | | | | | 恒設代替低圧注水ポンプ出ロライン | 2.1 | 2.1 | VT-2 | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | | |
| | | | | | 低圧注水ラインとのAMライン | 4.5 | 4.5 | VT-2 | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | |
| | | | | | 可搬式代替低圧注水ポンプ出ロライン | 1.55 | 1.55 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | ● | - | - | - | - | - | |
| | | | | | A, B原子炉補機冷却水ポンプ入ロライン | 1.4 | 1.4 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | |
| C7.10 C7.30 C7.50 C7.70 | C-H | 原子炉補機冷却水系統 | | | C, D原子炉補機冷却水ポンプ入ロライン | 1.4 | 1.4 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | | | |
| | | | | | 原子炉補機冷却水サージタンク及び 出入ロライン | 0.34 | 0.34 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | | |
| | | | | | 原子炉補機冷却水サージタンク壘集供給ライン | 0.34 | 0.34 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | |
| | | | | | A, D格納容器再循環ユニット冷却ライン | 1.4 | 1.4 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | |
| | | | | | 格納容器水素ガス試験冷却ライン | 1.4 | 1.4 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - |
| C7.30 C7.50 C7.70 | C-H | | | | A, B原子炉補機冷却水ポンプ出ロライン | 1.4 | 1.4 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | | | |
| | | | | | C, D原子炉補機冷却水ポンプ出ロライン | 1.4 | 1.4 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | |

※1: NRA文書「費用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解親」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解親NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年版/2014年追補/2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表

6. 重大事故等クラス2機器漏えい検査(2/4)

別表一7(7/32)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※2 | | 検査の対象箇所 | ライン名 | SA時最高使用圧力 (MPa) (工認誌載値) | 検査圧力 (MPa) | 検査方法 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10年) | | | | | | | | | | 備考 |
|----------------------------------|------|-------------------------|---------|---------|---------------------------|-------------------------|------------|------|----------------------|-----------|-----------|------------|-----------|------------|------------|------------|-----------|------------|----|
| | | 系統名 | 検査の対象箇所 | | | | | | 2017年 第15回 | 2018年 第1回 | 2019年 第1回 | 2020年 第17回 | 2021年 第1回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第1回 | 2026年 第21回 | |
| C7.30 C7.70 | C-H | 換気空調系統 | | A | アニュラス空気浄化ファン出口ライン | 0.0048 | 0.0048 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | 気圧検査 | | |
| | | | | B | アニュラス空気浄化ファン出口ライン | 0.0048 | 0.0048 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 気圧検査 | |
| C7.50 C7.70 | C-H | 化学体積制御系統 | | 中央 | 制御室空調設備入口ライン | -0.00392 | - | ※1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | |
| | | | | 中央 | 制御室空調設備出口ライン | 0.00392 | - | ※1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| C7.10 C7.30 C7.50 C7.70 | C-H | 化学体積制御系統 | | 体積 | 制御タンク出口ライン | 0.98 | 0.98 | VT-2 | - | - | ● | - | - | - | - | - | - | | |
| | | | | A | 充てんポンプ出口ライン | 20.0 | 20.0 | VT-2 | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | |
| C7.10 C7.30 C7.50 C7.70 | C-H | 化学体積制御系統 | | B | 充てんポンプ出口ライン | 20.0 | 20.0 | VT-2 | - | - | ● | - | - | - | - | - | - | | |
| | | | | C | 充てんポンプ出口ライン | 20.0 | 20.0 | VT-2 | - | - | ● | - | - | - | - | - | - | - | |
| C7.10 C7.30 C7.50 C7.70 | C-H | 化学体積制御系統 | | 充てん | ポンプ自己冷却ライン (充てんポンプ出口側) | 20.0 | 20.0 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | | |
| | | | | 充てん | ポンプ自己冷却ライン (充てんポンプ入口側) | 0.98 | 0.98 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | |
| C7.10 C7.30 C7.50 C7.70 | C-H | 化学体積制御系統 | | ほう | 酸ポンプ及び充てんポンプ連絡ライン | 0.98 | 0.98 | VT-2 | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | | |
| | | | | A | ほう酸ポンプ入口ライン | 1.4 | 1.4 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 一部気圧検査 | |
| C7.10 C7.30 C7.50 C7.70 | C-H | 化学体積制御系統 | | B | ほう酸ポンプ入口ライン | 1.4 | 1.4 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | 一部気圧検査 | | |
| | | | | A | ほう酸ポンプ出口ライン | 1.4 | 1.4 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| C7.10 C7.30 C7.50 C7.70 | C-H | 化学体積制御系統 | | B | ほう酸ポンプ出口ライン | 1.4 | 1.4 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | |
| | | | | B | ほう酸ポンプ出口ライン | 1.4 | 1.4 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |

※1: 技術基準第58条第2項に記載の「他の方法」により外観点検を実施

※2: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月6日)の結果(2019年度中の計画変更)、維持規格(2012年版)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版:2013年7月~2020年9月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器漏えい検査10年計画表

別表-7(8/32)

6. 重大事故等クラス2機器漏えい検査(3/4)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | SA時帯帯使用圧力 (MPa) (工認記載値) | 検査圧力 (MPa) | 検査方法 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | |
|----------------------------------|------|-------------------------|-------------------|-------------------------------|---------------|------|-----------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|----|---|---|-------------|----------------------|--|
| | | 系統名 | 検査の対象箇所 ライン名 | | | | 2017年 第15回 | 2018年 第1回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第1回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第1回 | 2026年 第21回 | | | | | | |
| C7.10 C7.30 C7.50 C7.70 | C-H | 安全注入系統 | A、B高圧注入ポンプ入口ロライン | 0.39 | 0.39 | VT-2 | | - | | | | ○ | | | | | | | | | | |
| | | | A高圧注入ポンプ出口ロライン(1) | 16.7 | 16.7 | VT-2 | | - | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| | | | A高圧注入ポンプ出口ロライン(2) | 16.7 | 16.7 | VT-2 | | - | | | | | | | ○ | | | | | RCS漏えい検査時実施 | | |
| | | | B高圧注入ポンプ出口ロライン(1) | 16.7 | 16.7 | VT-2 | | - | | | | | | | ○ | | | | | | | |
| | | | B高圧注入ポンプ出口ロライン(2) | 16.7 | 16.7 | VT-2 | | - | | | | | | | | ○ | | | | | RCS漏えい検査時実施 | |
| | | | 格納容器再循環サブ出口ロライン | 0.43 | 0.43 | VT-2 | | - | | | | | | | | ○ | | | | | ガード/パイプ内包部分は 検査不可 | |
| C7.10 C7.30 C7.50 C7.70 | C-H | 余熱除去系統 | 蓄圧タンク及び出口ロライン | 4.9 | 4.9 | VT-2 | | - | | | | | | | ○ | | | | | 一部気圧検査 | | |
| | | | 燃料取替用水ピット出口ロライン | 0 | 0 | VT-2 | | - | | | | | | | | ● | | | | | | |
| | | | A余熱除去ポンプ入口ロライン | 4.5 | 4.5 | VT-2 | | - | | | | | | | | | ● | | | | | |
| | | | B余熱除去ポンプ入口ロライン | 4.5 | 4.5 | VT-2 | | - | | | | | | | | | | ● | | | | |
| | | | A余熱除去ポンプ出口ロライン | 4.5 | 4.5 | VT-2 | | - | | | | | | | | | | | ● | | | |
| | | | B余熱除去ポンプ出口ロライン | 4.5 | 4.5 | VT-2 | | - | | | | | | | | | | | | ● | | |

※1: NRA文書「実用系電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検出」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検出NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表

別表-7(9/32)

6. 重大事故等クラス2機器漏えい検査(4/4)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格-JSME S N41-2008 ※1 検査の対象箇所 | SA時最高使用圧力 (MPa) (工認記載値) | 検査圧力 (MPa) | 検査方法 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | |
|----------------------------------|------|------------------------------------|-------------------------------|---------------|------|-------------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|----|-----------|------|---|---|---|------|
| | | | | | | 2017年 第15回 | 2018年 第1回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第1回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第1回 | 2026年 第21回 | | | | | | | |
| C7.10 C7.30 C7.50 C7.70 | C-H | 格納容器スプレイ 系統 | 2.7 | 2.7 | VT-2 | A格納容器スプレイポンプ入ロライン | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | 気圧検査 | | | | | |
| | | | | | | B格納容器スプレイポンプ入ロライン | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | | |
| | | | | | | A格納容器スプレイポンプ出ロライン(1) | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | | | | | A格納容器スプレイポンプ出ロライン(2) | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | | | | | | B格納容器スプレイポンプ出ロライン(1) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - |
| | | | | | | B格納容器スプレイポンプ出ロライン(2) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - |
| C7.10 C7.30 C7.70 | C-H | 主蒸気系統 | 8.8 | 8.8 | VT-2 | A蒸気発生器蒸気出ロライン | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | プラント起動時実施 | | | | | |
| | | | | | | B蒸気発生器蒸気出ロライン | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | | | |
| | | | | | | C蒸気発生器蒸気出ロライン | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | | | | | D蒸気発生器蒸気出ロライン | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - |
| C7.30 C7.70 | C-H | 主給水系統 | 8.8 | 8.8 | VT-2 | A蒸気発生器給水入ロライン | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | プラント起動時実施 | | | | | |
| | | | | | | B蒸気発生器給水入ロライン | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | | |
| | | | | | | C蒸気発生器給水入ロライン | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | | | | | | D蒸気発生器給水入ロライン | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | - | - | - | - | - |
| C7.10 C7.30 C7.70 | C-H | 試験採取系統 | 0.98 | 0.98 | VT-2 | 格納容器水素ガス試験採取系統 入ロライン | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | 気圧検査 | | | | |
| | | | | | | 格納容器水素ガス試験採取系統 出ロライン | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | 気圧検査 |

※1: NRA文書「実用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかわる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス1機器供用期間中検査範囲)

別表-7(10/32)

1. 原子炉容器(1/2)

| 項目番号 | | カテゴリ | 維持規格 JSME S NAI-2008 ※1 | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 備考 |
|---------|-------|------|-------------------------|--------------------------|--------|--------------------|----|
| B2. 111 | B-B | | | 上部胴と下部胴との周溶接継手 | 体積 | 全長の100% | |
| | | | | 下部胴とトランジションリングとの周溶接継手 | 体積 | 全長の100% | |
| B3. 105 | B-C | | | トランジションリングと下部鉄板との周溶接継手 | 体積 | 全長の100% | |
| | | | | 上部胴と上部胴フランジとの溶接継手 | 体積 | 全長の100% | |
| B3. 10 | B-D | | | 冷却材入口管台と胴との溶接継手 | 体積 | 全長の100% | |
| | | | | 冷却材出口管台と胴との溶接継手 | 体積 | 全長の100% | |
| B3. 20 | B-D | | | 冷却材入口管台内面の丸みの部分 | 体積 | 全長の100% | |
| | | | | 冷却材出口管台内面の丸みの部分 | 体積 | 全長の100% | |
| B5. 10 | B-F | | | 冷却材入口管台とセーフエンドとの溶接継手 | 体積及び表面 | 全長の100% | |
| | | | | 冷却材出口管台とセーフエンドとの溶接継手 | 体積及び表面 | 全長の100% | |
| B6. 10 | B-G-1 | | | ナット | VT-1 | 全長の100% | |
| B6. 30 | B-G-1 | | | スタッドボルト | 体積 | 全長の100% | |
| B6. 40 | B-G-1 | | | 胴フランジネジ穴のネジ部 | 体積 | 全長の100% | |
| B6. 50 | B-G-1 | | | 上蓋用ワッシャ | VT-1 | 全長の100% | |
| B7. 10 | B-G-2 | | | T/Cハウジングのマニマクラング用ボルト・ナット | VT-1 | 全長の25% | |
| G1. 10 | G-P-1 | | | 原子炉容器内部 | VT-3 | 全範囲の7.5% 各検査時期毎 | |
| G1. 40 | G-P-1 | | | 内部取付け物 | VT-3 | 全範囲の7.5% | |

クラス1機器供用期間中検査で管理

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス1機器供用期間中検査範囲)

別表-7(11/32)

1. 原子炉容器(2/2)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 備考 |
|---------|-------|-------------------------|---------------------|--------|-------------------|----|
| G1. 10 | G-P-1 | | 原子炉容器内部 | VT-3 | 全範囲の 7.5% | |
| G1. 40 | G-P-1 | | 内部取付け物 | VT-3 | 全範囲の 7.5% | |
| G1. 40 | G-P-1 | | 上部炉心支持構造物 | VT-3 | 全範囲の 7.5% | |
| G1. 50 | G-P-2 | | 下部炉心支持構造物 | VT-3 | 全範囲の 7.5% | |
| B14. 10 | B-O | | 制御棒駆動ハウジングの溶接継手(上部) | 体構又は表面 | 最外周 25% | |
| B15. 10 | B-P | | 制御棒駆動ハウジングの溶接継手(下部) | VT-2 | 滲え 検査時 100% | |
| F1. 41 | F-A | | 圧力保持範囲 | VT-3 | 全数の 25% | |
| | | | 支持構造物 | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

クラス1機器供用期間中検査で管理

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の検出」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂検出NRA文書改正という。)の施行及び公開会「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16保全サイクルまで)

・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス1機器供用期間中検査範囲)

2. 加圧器(1/2)

別表-7(12/32)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 備考 |
|--------|------|--|------|--------------------------|----|
| B2. 11 | B-B | 上部鏡板と上部胴との周継手 下部胴と下部鏡板との周継手 上部胴の長手継手 | 体積 | 全長の5% 全長の5% 全長の10% | |
| B2. 12 | B-B | 中間胴の長手継手 下部胴の長手継手 | 体積 | 全長の10% 全長の10% | |
| B2. 13 | B-B | 上部胴と中間胴との周継手 中間胴と下部胴との周継手 | 体積 | 全長の5% 全長の5% | |
| B3. 30 | B-D | 安全弁用管台と容器との溶接継手 逃がし弁用管台と容器との溶接継手 スプレイ用管台と容器との溶接継手 サージ用管台と容器との溶接継手 | 体積 | 全数の25% | |
| B3. 40 | B-D | 安全弁用管台内面の丸みの部分 逃がし弁用管台内面の丸みの部分 スプレイ用管台内面の丸みの部分 サージ用管台内面の丸みの部分 | 体積 | 全数の25% | |

※1: NPRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1908051号)の改正版(以下、亀裂解釈NPRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかゝる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス1機器供用期間中検査範囲)

別表-7(13/32)

2. 加圧器(2/2)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 備考 |
|---------|-------|------------------------------------|--------|------------|----|
| B5. 40 | B-F | 安全弁用管台とセーフエンドとの溶接継手 | 体積及び表面 | 全数の25% | |
| | | 逃がし弁用管台とセーフエンドとの溶接継手 | | | |
| | | スプレイ用管台とセーフエンドとの溶接継手 | | | |
| | | サージ用管台とセーフエンドとの溶接継手 | | | |
| B7. 20 | B-G-2 | マンホール取付ボルト | VT-1 | 全数の25% | |
| B8. 20 | B-H | 支持部材の容器への取付け溶接継手 (スカーフト溶接継手) | 表面又は体積 | 全長の7.5% | |
| B15. 20 | B-P | 圧力保持範囲 | VT-2 | 漏えい検査時100% | |
| F1. 41 | F-A | 支持構造物(スカーフ、基礎ボルト含む) | VT-3 | 全数の25% | |

クラス1 機器供用期間中検査で管理

※1: NPRA 文書「専用装置用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす破損その他の脆弱」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂脆弱NRA文書改正という。)の施行及び公開会社(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会社(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16版全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス1機器供用期間中検査範囲)

別表-7(14/32)

3. 蒸気発生器(1/1)

| 項目番号 | | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | 検査対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 備考 |
|---------|-------|----------------------|-------------------------|------------|---------------------|------|----|
| B2. 40 | B-B | 管板と水室鏡板との溶接継手 | 検査の対象箇所 | 体積 | 代表1基 全長の 25% | | |
| B3. 60 | B-D | 冷却材入口管台の内面の丸みの部分 | | 体積 | 代表1基 全長の 25% | | |
| | | 冷却材出口管台の内面の丸みの部分 | | | | | |
| B5. 70 | B-F | 冷却材入口管台とセーフエンドとの溶接継手 | | 体積及び 表面 | 代表1基 全長の 25% | | |
| | | 冷却材出口管台とセーフエンドとの溶接継手 | | | | | |
| B7. 30 | B-G-2 | 1次側マンホールボルト(入口側) | | VT-1 | 代表1基 全長の 25% | | |
| | | 1次側マンホールボルト(出口側) | | | | | |
| B8. 30 | B-H | 水室鏡とサポートバンドとの溶接継手 | | 表面 | 代表1基 全長の 7.5% | | |
| B15. 30 | B-P | 圧力保持範囲 | | VT-2 | 漏えい 検査時 100% | | |
| F1. 41 | F-A | 支持構造物 | | VT-3 | 代表1基 の25% | | |

クラス1機器供用期間中検査で管理

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及びび公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合1」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス1機器供用期間中検査範囲)

別表-7(15/32)

4. 配管(1/3)

| 項目番号 | | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 備考 |
|--------|-----|------|----------------------------|--|----------------------------------|--|----|
| B9. 11 | B-U | | 配管の同種金風溶接継手(呼び径100A以上:周継手) | 1次冷却材管 加圧器サージライン 加圧器安全弁ライン 加圧器逃がし弁ライン 余熱除去ポンプ入口ライン | 体積 体積 体積 体積 体積 | 全数の25% 全数の25% 全数の25% 全数の25% 全数の25% | |
| B9. 21 | B-U | | 配管の同種金風溶接継手(呼び径100A未満:周継手) | SIS蓄圧注入ライン SIS低温側低圧注入ライン 加圧器逃がし弁ライン 余熱除去ポンプ入口ライン CVCS充てんライン SIS低温側高圧補助注入ライン | 体積 体積 表面 表面 表面 表面 | 全数の25% 全数の25% 全数の25% 全数の25% 全数の25% 全数の25% | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会社「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる答申」(令和元年8月5日)の結果(2018年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2013年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス1機器供用期間中検査範囲)

4. 配管(2/3)

別表-7(16/32)

| 項目番号 | | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 備考 |
|---------|-----|------------------------|-------------------------|--|-----------------|------|------------|----|
| | | | 検査の範囲 | | | | | |
| B9. 31 | B-J | 母管と管台との溶接継手(呼び径100A以上) | 1次冷却材管 | | 1次冷却材管 | 体積 | 全数の25% | |
| B9. 32 | B-J | 母管と管台との溶接継手(呼び径100A未満) | 1次冷却材管 | | 1次冷却材管 | 表面 | 全数の25% | |
| | | | 余熱除去ポンプ入口ライン | | 余熱除去ポンプ入口ライン | 表面 | 全数の25% | |
| | | | SIS蓄圧注入ライン | | SIS蓄圧注入ライン | 表面 | 全数の25% | |
| | | | SIS低温側低圧注入ライン | | SIS低温側低圧注入ライン | 表面 | 全数の25% | |
| B9. 40 | B-J | ソケット溶接継手 | SIS低温側高圧補助注入ライン | | SIS低温側高圧補助注入ライン | 表面 | 全数の25% | |
| B10. 20 | B-K | 耐圧部分への支持部材の取付け溶接継手 | 余熱除去ポンプ入口ライン | | 余熱除去ポンプ入口ライン | 表面 | 全数の26% | |
| B15. 50 | B-P | 圧力保持範囲 | | | | VT-2 | 漏えい検査時100% | |

クラス1 機器供用期間中検査で管理

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の脆裂」(令和元年6月5日厚相技術審議1906051号)の改正版(以下、亀裂脆裂NRA文書改正という。)の施行及び公開会「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかるとの報告(2019年度中の計画変更)」を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス1機器供用期間中検査範囲)

別表-7(17/32)

4. 配管(3/3)

| 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | 備考 | |
|-------------------------|------|-----------------------|------|------------------|--------|
| 項目番号 | カテゴリ | 検査の対象箇所 | 検査範囲 | | |
| F1. 10 | F-A | 支持構造物 | 検査方法 | クラス1機器供用期間中検査で管理 | |
| | | 加圧器サージライン | VT-3 | | 全数の25% |
| | | 加圧器迷がし弁ライン | VT-3 | | 全数の25% |
| | | CVCS充てんライン | VT-3 | | 全数の25% |
| | | 余熱除去ポンプ入ロライン | VT-3 | | 全数の25% |
| | | SIS蓄圧注入ライン | VT-3 | | 全数の25% |
| | | SIS低温側低圧注入ライン | VT-3 | | 全数の25% |
| SIS低温側高圧補助注入ライン | VT-3 | 全数の25% | | | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかゝる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス1機器供用期間中検査範囲)

別表-7(18/32)

5. 1次冷却材ポンプ(1/1)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 |
|---------|-------|------------------------------------|------|--------------------|
| B6. 180 | | 主フランジボルト | 体積 | 代表1台の 25% |
| B6. 190 | B-G-1 | 主フランジ表面 | VT-1 | 代表1台の 25% |
| B6. 200 | | 主フランジナット・ワッシャ | VT-1 | 代表1台の 25% |
| B12. 20 | B-L-2 | ケーシングの内表面 | VT-3 | 代表1台の 100% |
| B15. 60 | B-P | 圧力保持範囲 | VT-2 | 漏えい 検査時 100% |
| F1. 41 | F-A | 支持構造物 | VT-3 | 代表1台の 25% |

クラス1機器供用期間中検査で管理

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及びび公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

※2: 過去の維持規格適用期間は以下の通り。
-維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス1機器供用期間中検査範囲)

別表-7(19/32)

6. 弁(1/2)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 備考 | |
|---------|-------|------------------------------------|---------------|------|---------------|---|
| B7. 70 | B-G-2 | 直径50mm 以下の圧力 保持用ボルト に締付け部 | 加圧器安全弁ライン | VT-1 | 代表1台 の25% | 4V-RC-055 4V-RC-056 4V-RC-057 4V-RC-054A・B 4PCV-452A・B 4V-CS-164 4V-CS-166 4PCV-420、4PCV-430 4V-RH-002A・B 4V-SI-134A・B・C・D 4V-SI-136A・B・C・D 4V-RH-050A・B・C・D 4V-RC-055 4V-RC-056 4V-RC-057 4PCV-420、4PCV-430 4V-RH-002A・B 4V-SI-134A・B・C・D 4V-SI-136A・B・C・D 4V-RH-050A・B・C・D |
| | | | 加圧器逃がし弁ライン | VT-1 | 代表1台 の25% | |
| | | | CVC5充てんライン | VT-1 | 代表1台 の25% | |
| B12. 50 | B-M-2 | 呼び径 100Aを超 える弁箱 | 糸熱除去ポンプ入ロライン | VT-1 | 代表1台 の25% | クラス1機器供用期間中検査で管理 |
| | | | SIS蓄圧注入ライン | VT-1 | 代表1台 の25% | |
| | | | SIS低温側低圧注入ライン | VT-1 | 代表1台 の25% | |
| B15. 70 | B-P | 圧力保持範囲 | 加圧器安全弁ライン | VT-3 | 代表1台 の100% | クラス1機器供用期間中検査で管理 |
| | | | 糸熱除去ポンプ入ロライン | VT-3 | 代表1台 の100% | |
| | | | SIS蓄圧注入ライン | VT-3 | 代表1台 の100% | |
| | | | SIS低温側低圧注入ライン | VT-3 | 代表1台 の100% | |
| | | | 漏えい 検査時 | VT-2 | 100% | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の次陥の解釈」(令和元年6月5日原規技第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス1機器供用期間中検査範囲)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | 検査方法 | 検査範囲 | 備考 |
|--------|------|-------------------------|--------------|----------|----------|------------------|
| | | 検査の対象箇所 | 検査計画(10九年) | | | |
| F1. 41 | F-A | 支持構造物 加圧器逃がし弁ライン | 加圧器安全弁ライン | VT-3 | 代表1台の25% | クラス1機器供用期間中検査で管理 |
| | | | 余熱除去ポンプ入ロライン | VT-3 | 代表1台の25% | |
| | | | | VT-3 | 代表1台の25% | |
| | | | VT-3 | 代表1台の25% | | |

※1：NRA文書「運用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす機器その他の欠陥の隠匿(令和元年6月5日原規持参第1906051号)の改正版(以下「亀裂隠匿NRA文書改正」という。)の施行及び公開会社「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかるとの公表(令和元年8月5日)」の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

- ・維持規格2008年版：2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16版全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス1機器Ni基金使用部位特別検査範囲)

別表-7(21/32)

| 機器名 | | NRA文書(原規技発第1408063号) ※1 | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | 備考 |
|---------|------------|-------------------------|------|-----------------------|--|-----------------------|
| 検査の対象箇所 | | 検査方法 | 検査範囲 | 検査頻度 | | |
| 原子炉容器 | 原子炉容器底部の表面 | — | — | 100%/5年 | | クラス1機器Ni基金使用部位特別検査で管理 |
| | 計装用貫通部溶接継手 | BMV | 58箇所 | | | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、亀裂解釈NRA文書改正を2020年4月1日より適用する。
 ・亀裂解釈NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び原規技発第1906051号(改正 令和元年6月5日); 2020年4月～(第17保全サイクルから)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(原子炉格納容器内)特別検査)

別表-7(22/32)

| NRA文書(原規技発第1408063号)※1 | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | 備考 | |
|------------------------|------|-----------------------|-----------|------------------------|-----|
| 項目番号 | カテゴリ | 検査の対象箇所 | 検査方法 検査範囲 | | |
| - | - | 配管 | - | クラス2管(原子炉格納容器内)特別検査で管理 | |
| | | 充てんライン(3B) | 体積 | | 25% |
| | | 再生熱交換器連絡管 | - | | - |
| | | 充てんライン連絡管(3B) | 体積 | | 25% |

※1:NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会台「(原子炉庄力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会台」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、亀裂解釈NRA文書改正を2020年4月1日より適用する。
 ・亀裂解釈NRA文書 原規技発第1408063号(制定 平成26年8月6日)及び 原規技発第1906051号(改正 令和元年6月5日):2020年4月~(第17保全サイクルから)

重事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス2機器供用期間中検査範囲)

別表-7(23/32)

1. 余熱除去冷却器

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 代表1基 全長の 7.5% | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | 備考 |
|-------|------|------------------------------------|------------|-----------------------------|-----------------------|-----------------------------|----|
| | | | | | 検査方法 | 検査範囲 代表1基 全長の 7.5% | |
| C1.10 | C-A | 管側胴と管側フランジとの周溶接継手 | 体積 | 代表1基 全長の 7.5% | クラス2機器供用期間中検査で管理 | | |
| C1.20 | C-A | 管側縦板と管側胴との溶接継手 | 体積 | 代表1基 全長の 7.5% | | | |
| C2.21 | C-B | 管側入口管台と管側胴との溶接継手 | 体積及び 表面 | 代表1基 全長の 7.5% | | | |
| | | 管側出口管台と管側胴との溶接継手 | | | | | |
| C4.10 | C-D | 全ねじボルト | 体積 | 代表1基 全長の 7.5% | | | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス2機器供用期間中検査範囲)

別表-7(24/32)

2. 配管(1/3)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 備考 |
|--------|------|---|---------------------|------------|-------------|------------------|
| C3. 20 | C-C | 配管支持部 材取付け溶 接継手 | 高圧注入ポンプ出口ライン | 表面 | 全数の 7.5% | クラス2機器供用期間中検査で管理 |
| | | | 高圧注入ポンプ出口連絡 ライン | 表面 | 全数の 7.5% | |
| | | | 余熱除去ポンプ入口ライン | 表面 | 全数の 7.5% | |
| | | | 余熱除去冷却器出口ライン | 表面 | 全数の 7.5% | |
| | | | SIS低温側低圧注入ライン | 表面 | 全数の 7.5% | |
| | | | 格納容器再循環サンプ出口 ライン | 表面 | 全数の 7.5% | |
| | | | 充てんポンプ出口ライン | 体積及び 表面 | 全数の 7.5% | |
| | | | 余熱除去ポンプ入口ライン | 体積又は 表面 | 全数の 7.5% | |
| | | | 余熱除去ポンプ出口ライン | 体積又は 表面 | 全数の 7.5% | |
| | | | 余熱除去冷却器出口ライン | 体積及び 表面 | 全数の 7.5% | |
| C5. 11 | C-F | 呼び径100A を超える管 で公称厚さ が9.5mmを 超える溶接 継手 | SIS低温側低圧注入ライン | 体積及び 表面 | 全数の 7.5% | |
| | | | 高圧注入ポンプ出口ライン | 体積及び 表面 | 全数の 7.5% | |

※1: NRA 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

*維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス2機器供用期間中検査範囲)

2. 配管 (2/3)

別表-7 (25/32)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S_NA1-2008 検査の対象箇所 | 検査範囲 | 検査方法 | 検査計画(10年) | 備考 |
|--------|------|---|--|--|------------------|----|
| C5. 11 | C-F | 呼び径100Aを 超える管で公 称厚さが9.5mm を超える溶接 継手 | 格納容器再循環サブ出口 ライン 燃料取替用水ピット出口ライン 余熱除去ポンプ入口ライン 燃料取替用水ピット出口ライン | 全数の 7.5% 全数の 7.5% 全数の 7.5% 全数の 7.5% | クラス2機器供用期間中検査で管理 | |
| C5. 12 | C-F | | 高圧注入ポンプ出口ライン | 全数の 7.5% | | |
| C5. 21 | C-F | 呼び径50A以 上100A以下の 管で公称厚さ が5mmを超え る溶接継手 | 高圧注入ポンプ出口連絡 ライン SIS低温側高圧補助注入 ライン | 全数の 7.5% 全数の 7.5% | | |
| C5. 30 | C-F | ソケット溶接継 手 | SIS低温側高圧補助注入 ライン | 全数の 7.5% | | |
| C5. 41 | C-F | 呼び径50Aを超 える母管と管台 及び母管と枝 管との溶接継 手 | 高圧注入ポンプ出口ライン | 全数の 7.5% | | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる答台」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス2機器供用期間中検査範囲)

別表-7(26/32)

2. 配管(3/3)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S_NA1-2008 ※1 | | 検査範囲 | 備考 | |
|--------|------|-------------------------|-----------------|------|-------------|------------------|
| | | 検査の対象箇所 | 検査方法 | | | |
| F1. 21 | F-A | 支持構造物 | 充てんポンプ出口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | クラス2機器供用期間中検査で管理 |
| | | | 余熱除去ポンプ入口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | |
| | | | 余熱除去ポンプ出口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | |
| | | | 余熱除去冷却器出入口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | |
| | | | 余熱除去冷却器出口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | |
| | | | SIS低温側低圧注入ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | |
| | | | 高圧注入ポンプ出口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | |
| | | | 高圧注入ポンプ出口連絡ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | |
| | | | SIS低温側高圧補助注入ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | |
| | | | 格納容器再循環サンプ出口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | |
| | | | 燃料取替用水ピット出口ライン | VT-3 | 全数の 7.5% | |

※1: NRA文書「実用系電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電線その他の欠陥の検出(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、電線検察NRA文書改正という。)」の施行及び公開会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規則案件に関する事業者意見の聴取にかかる会合(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス2機器供用期間中検査範囲)

別表一7(27/32)

3. 充てんポンプ

| 維持規格 JSME S NAI-2008 ※1 | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | 備考 |
|-------------------------|------|-----------------------|-------------------|----|
| 項目番号 | カテゴリ | 検査の対象箇所 | 検査範囲 | |
| C3. 30 | C-C | ポンプ支持部材取付け溶接継手 | 表面 全数の7.5% | |
| C4. 30 | C-D | ケーシングボルト | 体積 代表1台の7.5% | |
| C6. 10 | C-G | ケーシングの溶接継手 | 表面 代表1台の7.5% | |
| F1. 43 | F-A | ポンプ台板脚 | VT-3 代表1台の7.5% | |

クラス2機器供用期間中検査で管理

4. 充てんポンプ(往復動式)

| 維持規格 JSME S NAI-2008 ※1 | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | 備考 |
|-------------------------|------|-----------------------|-----------------|----|
| 項目番号 | カテゴリ | 検査の対象箇所 | 検査範囲 | |
| F1. 43 | F-A | ポンプ台板脚 | VT-3 全数の7.5% | |

クラス2機器供用期間中検査で管理

5. 余熱除去ポンプ

| 維持規格 JSME S NAI-2008 ※1 | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | 備考 |
|-------------------------|------|-----------------------|-------------------|----|
| 項目番号 | カテゴリ | 検査の対象箇所 | 検査範囲 | |
| C6. 10 | C-G | ケーシングの溶接継手 | 表面 代表1台の7.5% | |
| F1. 43 | F-A | ポンプ台板脚 | VT-3 代表1台の7.5% | |

クラス2機器供用期間中検査で管理

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈(NRA文書改正という。))の施行及び公開会社「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会社」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
*維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16保安サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画表(クラス2機器供用期間中検査範囲)

別表-7(28/32)

6. 弁

| 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | 大阪発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | 備考 |
|-------------------------|------|-------------------------------|------|------------------|
| 項目番号 | カテゴリ | 検査の対象箇所 | 検査方法 | |
| F1.43 | F-A | 余熱除去冷却器出入口 ロライン | VT-3 | クラス2機器供用期間中検査で管理 |
| | | 余熱除去冷却器出口 ライン | VT-3 | |
| | | 支持構造物 格納容器再循環サン プ出口ロライン | VT-3 | |

※1. NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格2008年版:2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

1. 原子炉格納容器

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画(原子炉格納容器供用期間中検査範囲)

別表-7(29/32)

| 維持規格 JSME S NAI-2008 | | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10力年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | | |
|----------------------|------|-----------------------|---------------------|------|------|-----|------|------|---------------|--------------|---------------|----|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|
| 項目番号 | カテゴリ | 検査の対象箇所 | | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 2017年 第15回 | 2018年 第一回 | 2019年 第16回 | | 2020年 第17回 | 2021年 第一回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第一回 | 2026年 第21回 |
| E8.10 | E-G | 圧力保持 用ボルト 締付け部 | 機器搬入口 (PEN #540) | VT-4 | 25% | 1箇所 | VT-4 | 25% | | - | | | - | | | ○ | - | | |

※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年版)を2020年4月1日より適用する。
なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格2008年版:2013年~2020年3月(本サイクル開始~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2機器供用期間中検査10年計画

別表一7(30/32)

1.原子炉補機冷却水冷却器

| 項目番号 | カテゴリ | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 |
|-------|------|--------------------------------------|--------|------------------|----------------------------------|--------|--------------------|-----------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------|
| | | | | | | | | 2017年 第15回 | 2018年 第一回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第一回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第一回 | 2026年 第21回 | |
| C1.10 | C-A | 胴側胴と胴側フランジとの周継手 | 体積 | 代表1基の溶接継手長さの7.5% | 2箇所/1基 x 1基 | UT | 代表1基の7.5% (2箇所) | | — | | | | | | | | | A 7.5% |
| C1.10 | C-A | 胴側胴の周継手 | 体積 | 代表1基の溶接継手長さの7.5% | 2箇所/1基 x 1基 | UT | 代表1基の7.5% (2箇所) | | — | | | | | | | | | A 7.5% |
| C2.21 | C-B | 胴側入口管台と胴側胴との溶接継手 胴側出口管台と胴側胴との溶接継手 | 体積及び表面 | 代表1基の全数の7.5% | 1箇所/1基 x 1基 1箇所/1基 x 1基 | UT及びPT | 代表1基の50% (1箇所) | | — | | | | | | | | | A 入口側 |
| C2.22 | C-B | 胴側入口管台内面の丸み部分 胴側出口管台内面の丸み部分 | 体積 | 代表1基の全数の7.5% | 1箇所/1基 x 1基 1箇所/1基 x 1基 | UT | 代表1基の50% (1箇所) | | — | | | | | | | | | A 入口側 |
| C3.10 | C-C | 胴と当板との溶接継手 | 表面 | 代表1基の溶接継手数の7.5% | 3箇所/1基 x 1基 | PT | 代表1基の100% (3箇所) | | — | | | | | | | | | A 100% |
| F1.43 | F-A | 支持脚 | VT-3 | 代表1基の7.5% | 3箇所/1基 x 1基 | VT-3 | 代表1基の100% (3箇所) | | — | | | | | | | | | A 100% |

2.原子炉補機冷却水ポンプ(1/1)

| 項目番号 | カテゴリ | 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 設備数 | 検査方法 | 検査範囲 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 |
|-------|------|---------|------|-----------|----------------|------|--------------------|-----------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|-----------|
| | | | | | | | | 2017年 第15回 | 2018年 第一回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第一回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第一回 | 2026年 第21回 | |
| F1.43 | F-A | ポンプ台板脚 | VT-3 | 代表1基の7.5% | 4箇所/1台 x 2台 | VT-3 | 代表1基の100% (4箇所) | | — | | | | | | | | | A 100% |

※1: NRA 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
なお、本サイクル内の過去の維持規格適用期間は以下の通り。

・維持規格 2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格 2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス2 機器供用期間中検査10年計画

別表一7(31/32)

3.重大事故等クラス2機器漏えい検査(1/1)

| 項目 番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 ※1 | | SA時最高使用 圧力 (MPa) (工認記載値) | 検査 圧力 (MPa) | 検査 方法 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | | | |
|----------------------------------|------|-------------------------|--|-----------------------------------|-------------------|---------------|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|---|---|---|---|---|---|---|--|
| | | 系統名 | 検査の対象箇所 ライン名 | | | | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年 | 2026年 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | 第15回 | 第一回 | 第16回 | 第17回 | 第一回 | 第18回 | 第19回 | 第20回 | 第一回 | 第21回 | | | | | | | | | |
| C7.10 C7.30 C7.50 C7.70 | D-B | 原子炉補機 冷却海水系統 | A 海水ポンプライン | | 1.2 | 0.098 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | | |
| | | | B 海水ポンプライン | | 1.2 | 0.098 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | |
| | | | C 海水ポンプライン | | 1.2 | 0.098 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | | A 海水ヘッド出口ライン | | 1.2 | 0.098 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| C7.30 C7.50 C7.70 | C-H | 補助給水系統 | A、B 電動補助給水ポンプ入 ライン | | 0 | 水張り (静水頭圧) | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | | |
| | | | タービン動補助給水ポンプ入 ライン | | 0 | 水張り (静水頭圧) | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | | A 電動補助給水ポンプ出口ラ イン | | 13.1 | 9.4 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| C7.10 | C-H | 非常用ディーゼル発電機 系統 | B 電動補助給水ポンプ出口ラ イン | | 13.1 | 9.4 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | |
| | | | タービン動補助給水ポンプ出 ライン | | 12.7 | 9.4 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| C7.10 | C-H | 非常用ディーゼル発電機 系統 | A-非常用ディーゼル発電機 起動空気ライン B-非常用ディーゼル発電 機起動空気ライン | | 3.2 | 2.501 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | |

※1: NRA 文書「費用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈(令和元年6月5日原規技発第 1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈 NRA 文書改正という。)の施行及び公開会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合(令和元年8月5日)の結果(2019 年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012 年版/2013 年追補/2014 年追補)を 2020 年 4 月 1 日より適用する。
なお、本サイクル内の過去の維持規格適用期間は以下の通り。
・維持規格 2008 年版: 2013 年 7 月~2020 年 3 月(新規制基準施行による維持規格 2008 年版の即時適用~第 16 保全サイクルまで)

重大事故等クラス2供用期間中検査10年計画

・プレストレストコンクリート格納容器

別紙ー7(32/32)

| 検査の対象箇所 | 検査方法 | 検査範囲 | 頻度 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10年間) | | | | | | | | | | 備考 | |
|----------|---------|---------------------------|--------------------|-----------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|----|---|
| | | | | 2017年 第15回 | 2018年 第一回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第一回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第一回 | 2026年 第21回 | | |
| コンクリート部 | 目視検査 | PCCV着面測定部位 検査テンドン着面部周辺 | PCCV-ISIの 頻度による | ● ※ | - | ○ | ○ | - | - | - | ○ | - | - | - | - |
| ライナプレート部 | 目視検査 | ライナプレート表面測定部位 | PCCV-ISIの 頻度による | ● ※ | - | ○ | ○ | - | - | - | ○ | - | - | - | - |
| 緊張材定着部 | 目視検査 | 検査テンダンの緊張材定着部表面 | PCCV-ISIの 頻度による | ● ※ | - | ○ | ○ | - | - | - | ○ | - | - | - | - |
| テンドン | 緊張力確認検査 | フープテンドン 4本 逆リテンドン 3本 | PCCV-ISIの 頻度による | ● ※ | - | ○ | ○ | - | - | - | ○ | - | - | - | - |
| 防錆材 | 防錆材検査 | 検査テンダンの端部から採取 | PCCV-ISIの 頻度による | ● ※ | - | ○ | ○ | - | - | - | ○ | - | - | - | - |

※平成28年度実施のプレストレストコンクリート格納容器供用期間中検査自主検査の記録確認

重大事故等クラス3機器供用期間中検査10年計画

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 準拠 ※2 検査の対象箇所 | | 検査方法 ※1 | SA時最高使用圧力 (MPa) (工記記載) | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | |
|----------------------------|------|---|---------|------------|------------------------------|-----------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|----|---|
| | | 設備名 | 検査の對象箇所 | | | 2017年 第15回 | 2018年 第1回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第1回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第1回 | 2026年 第21回 | | |
| C7. 10 C7. 30 C7. 50 | C-H | 電源車内燃機関、冷却水ポンプ (電源車) | | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - | |
| | | 電源車(可搬式代替低圧注水ポンプ用)内燃機関、冷却水ポンプ (電源車(可搬式代替低圧注水ポンプ用)) | | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | | 燃料タンク (電源車) | | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - |
| | | 燃料タンク (電源車(可搬式代替低圧注水ポンプ用)) | | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - |

※1:技術基準第58条第2項に記載の「他の方法」により外観点検を実施するものと試験免除となるものを識別する必要があり(今後の成立性確認ならびに原子力事業本部からの指示にて美浜、高浜との統一が必要)
 ※2: NRA 文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破裂その他の破裂を引き起こす亀裂その他の亀裂」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16保全サイクルまで)
 ・維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス3機器供用期間中検査10年計画

別表-8(2/5)

重大事故等クラス3機器漏えい検査

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S-NA1-2008 準拠 ※2 | | 検査方法 ※1 | 大阪発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | |
|--------------------------------------|------|-----------------------------------|------|---------------|-------------------------------|--|---------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|----|--------------|---------------|
| | | 検査の対象箇所 設備名 | | | SA時最高使用圧力 (MPa) (工務記載値) | | 2017年 第15回 | 2018年 第1回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第1回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | | 2025年 第1回 | 2026年 第21回 |
| | | 検査の対象箇所 設備名 | | | SA時最高使用圧力 (MPa) (工務記載値) | | | | | | | | | | | | |
| C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70 | C-H | 可搬式空気圧縮機(代替制御用空気供給用) | | 0.90以上 | VT-2 | | - | | | - | | | | - | ○ | | |
| | | 可搬式空気圧縮機用空気だめ | | 1.05 | VT-2 | | - | | | - | | | | | - | ○ | |
| | | 増圧装置空気だめ | | 1.0 | VT-2 | | - | | | - | | | | | - | ○ | |
| | | 窒素ポンプ(代替制御用空気供給用) | | 14.7 | VT-2 | | - | | | - | | | | | - | ○ | |
| | | 窒素ポンプ(代替制御用空気供給用)~ホース先端 | | 0.98 17.16 | VT-2 | | - | | | - | | | | | - | ○ | |
| | | 代替制御用空気ライン窒素供給用ホース 20m、16m、10mホース | | 0.98 | VT-2 | | - | | | - | | | | | - | ○ | |
| | | 窒素ラインマニホールド接続用0.68mホース | | 17.16 | VT-2 | | - | | | - | | | | | - | ○ | |
| | | 可搬式空気圧縮機ラインマニホールド接続用2mホース | | 0.98 | VT-2 | | - | | | - | | | | | - | ○ | |
| | | 可搬式空気圧縮機ラインマニホールド接続用1.5mホース | | 0.98 | VT-2 | | - | | | - | | | | | - | ○ | |
| | | 可搬式空気圧縮機ラインマニホールド接続用5mホース | | 0.98 | VT-2 | | - | | | - | | | | | - | ○ | |
| 代替制御用空気供給ライン安全弁(4V-IA-765A、B) | | 吹出圧力 0.98 | VT-2 | | - | | | - | | | | | - | ○ | | | |

※1: 技術基準第58条第2項に記載の「他の方法」により外観点検を実施するものと試験免除となるものを識別する必要がある(今後の成立性確認ならびに原子力事業本部からの指示にて美浜、高浜との統一が必要)

※2: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の懸念」(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂懸念NRA文書改正という。)の施行及び公開会「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。

なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

-維持規格2008年版: 2013年7月~2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用~第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス3機器供用期間中検査10年計画

重大事故等クラス3機器漏えい検査

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 準拠 ※2 検査の対象箇所 設備名 | 検査方法 ※1 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | | | | | |
|--------------------------------------|------|--|------------|-----------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|----|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 2017年 第15回 | 2018年 第1回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第1回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第1回 | 2026年 第21回 | | | | | | | |
| C7. 30 | C-H | 可搬型格納容器水素ガス試料圧縮装置 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | | |
| | | 可搬型格納容器水素ガス試料圧縮装置接続用フレキシブルホース | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | |
| | | 可搬型格納容器水素ガス濃度計入口側接続用フレキシブルホース | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | |
| | | 可搬型格納容器水素ガス濃度計出口側接続用フレキシブルホース | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | |
| C7. 10 C7. 30 C7. 50 | C-H | 可搬式代替低圧注水ポンプ屋内送水用10mホース(2本) | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | | | |
| C7. 10 C7. 30 C7. 50 C7. 70 | C-H | 格納容器水素ガス試料冷却器用可搬型冷却水ポンプ | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | | |
| | | 窒素ポンプ(原子炉補機冷却水サージタンク加圧用) | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | B高圧注入ポンプ及び電動機冷却海水放出用ホース | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | 窒素ポンプ(原子炉補機冷却水サージタンク加圧用)～ホース先端 | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | 窒素ポンプ(原子炉補機冷却水サージタンク加圧用)窒素供給用フレキシブルホース | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | 格納容器水素ガス試料冷却器用可搬型冷却水ポンプ吸水用フレキシブルホース | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | 格納容器水素ガス試料冷却器用可搬型冷却水ポンプ送水用フレキシブルホース | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | |
| | | 格納容器水素ガス試料冷却器冷却水屋外排水用フレキシブルホース | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | | 原子炉補機冷却水サージタンク非常用窒素供給ライン逃がし弁 | VT-2 | 吹出圧力 0.34 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | | 原子炉補機冷却水サージタンク加圧ライン圧力 | VT-2 | 測定範囲 0～1.6 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |

※1:技術基準第58条第2項に記載の「他の方法」により外観点検を実施するものと試験免除となるものを識別する必要がある(今後の成立性確認ならびに原子力事業本部からの指示にて美浜、高浜との統一が必要)

※2:NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の脆裂(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。))の施行及び公開会合(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかるとの旨(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。

*維持規格2008年版:2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス3機器供用期間中検査10年計画

別表-8(4/5)

重大事故等クラス3機器漏えい検査

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 準拠 ※1 検査の対象箇所 設備名 | 検査方法 ※ | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | |
|----------------------------|------|--|----------------------|-----------------------|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------|----|---|---|
| | | | | 2017年 第15回 | 2018年 第一回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第一回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第一回 | 2026年 第21回 | | | |
| C7. 30 C7. 50 | C-H | 送水車(2台) 送水車吸水ホース(24本) 送水車送水ホース(138本) | VT-2 VT-2 VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - |
| C7. 10 C7. 50 | C-H | 送水車燃料タンク(2基) | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ | - | - | - |
| | | 可搬式代替低圧注水ポンプ(2台) | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ |
| | | 仮設組立式水槽(2台) | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ |
| C7. 10 C7. 30 C7. 50 | C-H | 可搬式代替低圧注水ポンプ吸水ホース(2本) | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ |
| | | 可搬式代替低圧注水ポンプ～可搬式代替低圧注水ポンプ出口接続口(2台) | VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ |
| C7. 10 C7. 50 C7. 70 | C-H | 可搬式代替低圧注水ポンプ送水ホース(6本) 大容量ポンプ出口ライン送水用送水管(6台) | VT-2 VT-2 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ○ |

※: 技術基準第58条第2項に記載の「他の方法」により外観点検を実施するものと試験免除となるものを識別する必要がある(今後の成立性確認ならびに原子力事業本部からの指示にて美浜、高浜との統一が必要)
 ※1: NRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす電線その他の欠陥の補修」(令和元年6月5日原研技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NRA文書改正という。)の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意思の聴取にかかるとの委員会」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、本サイクル内の過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 *維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16保全サイクルまで)

重大事故等クラス3機器供用期間中検査10年計画

別表-8(5/5)

重大事故等クラス3機器漏えい検査

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2008 準拠 ※2 | | 検査の対象箇所 | 検査方法 ※1 | 大飯発電所 第4号機 検査計画(10カ年) | | | | | | | | | | 備考 | | |
|-------|------|----------------------------|-------------------------|---------|---------|-----------------------|-----------|------------|------------|-----------|------------|------------|------------|-----------|------------|----|--|--|
| | | 設備名 | SA時最高使用圧力 (MPa) (工認記載値) | | | 2017年 第15回 | 2018年 第1回 | 2019年 第16回 | 2020年 第17回 | 2021年 第1回 | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | 2025年 第1回 | 2026年 第21回 | | | |
| C7.30 | C-H | 大飯4号機スプレイヘッド-A | 1.6 | - | VT-2 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 大飯4号機スプレイヘッド-B | 1.6 | - | VT-2 | | | | | | | | | | | | | |

※1: 技術基準第58条第2項に記載の「他の方法」により外観点検を実施するものと試験免除となるものを識別する必要がある(今後の成立性確認ならびに原子力事業本部からの指示にて差浜、高浜との統一が必要)
 ※2: NIRA文書「実用発電用原子炉及びその附属施設における破壊を引き起こす亀裂その他の欠陥の解釈(令和元年6月5日原規技発第1906051号)の改正版(以下、亀裂解釈NIRA文書改正という。)」の施行及び公開会合「(原子炉圧力容器の溶接継手の試験程度等)新規制要件に関する事業者意見の聴取にかかわる会合」(令和元年8月5日)の結果(2019年度中の計画変更)を踏まえ、維持規格(2012年版/2013年追補/2014年追補)を2020年4月1日より適用する。
 なお、過去の維持規格適用期間は以下の通り。
 ・維持規格2008年版: 2013年7月～2020年3月(新規制基準施行による維持規格2008年版の即時適用～第16保全サイクルまで)

クラス1配管特別検査3年計画

別表-9(1/1)

| 項目番号 | カテゴリ | 維持規格 JSME S NA1-2012/2013/2014 | 検査対象箇所 | 検査方法 | | 検査範囲 | 設備数※ | 大飯発電所 第4号機 検査計画(4カ年) | | | | 備考 |
|------|------|--------------------------------|--------------|------|------|------|----------------------|----------------------|---------------|---------------|---|--|
| | | | | 検査方法 | 検査範囲 | | | 2022年 第18回 | 2023年 第19回 | 2024年 第20回 | | |
| - | - | - | 配管の耐圧部分の溶接継手 | - | - | - | - | - | - | - | - | 第18回定検にて、過大な入熱を低減する対策を実施する予定であることから、2箇所については検査対象外。 |
| | | | | 体積 | 100% | 1箇所 | 100% (1箇所) 毎定検 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | | 体積 | 100% | 2箇所 | - | - | - | - | | |
| | | | | 体積 | 100% | 2箇所 | 100% (2箇所) 毎定検 | ○ | ○ | ○ | | |
| | | | | 体積 | 100% | 4箇所 | 100% (4箇所) 毎定検 | ○ | ○ | ○ | | |

※試験カテゴリB-J、項目番号B9.11のうち、「運転温度200℃以上」、「応力改善の実施の有無」、「全層TIG溶接の適用の有無」、「過大な溶接入熱の可能性の有無」及び「形状による影響」より抽出される箇所

別図

定期事業者検査時の安全管理の計画

定期事業者検査時の安全管理の計画

(1/25)

| 項目 | 保安規定条文 | 要求モード | 要求内容 | 燃料取出 | | | | | | | | | | | | 燃料装荷 | 起動試験 | 起動前弁点検 | 起動試験 | 調整運転 | |
|---------------------------------------|---|------------------------|---|------|-------|-------|-----------|-------|----------|-----|-----|-----|-----|------|---|------|------|--------|------|------|-----|
| | | | | ▽解列 | RCS降温 | R/V開放 | 1次系ポンプ他点検 | R/V組立 | RCS漏えい検査 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 4 | | | | | | 5-1 |
| RCS 水位 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| キャビティ満水 RCS満水 ミッドループ RCS全フロー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 未読昇維持機能 | 第20条 停止余裕 | モード3、4 | 停止余裕：1.6%Δk/k以上 | △ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード5 | 停止余裕：1.0%Δk/k以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3 | 減速材温度係数：-94×10 ⁻⁵ Δk/k/°C以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード6 | 1次冷却材中のほう素濃度：2800ppm以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3 (1次冷却材温度が260°C以上) | 1次冷却材中のほう素濃度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4 | 原子炉格納容器圧力9.8kPa [range]以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 放射線物質の閉じ込め機能、放射線の運へい及び放出低減機能 | 第50条 1次冷却材中のほう素濃度 第56条 原子炉格納容器 | モード3 (1次冷却材温度が260°C以上) | 1次冷却材中のほう素濃度：4.0×10 ¹⁰ Bq/cm ³ 以下 | △ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4 | 原子炉格納容器は、重大事故等対処設備を兼ねる。 原子炉格納容器の機能が健全であること 原子炉格納容器圧力9.8kPa [range]以下 原子炉格納容器エアロックが動作可能(原子炉格納容器エアロックのインターロック機構が健全であること、および原子炉格納容器エアロックが閉止可能(閉止状態であることを含む)であること。モード4の原子炉格納容器ハーシ後、直ちに閉止できることを条件に原子炉格納容器エアロックの両方のドアを開放する場合、適用しない) 原子炉格納容器隔離弁が動作可能(閉止可能(閉止状態であることを含む)) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4 | 原子炉格納容器スプレイ系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 原子炉格納容器スプレイ系2系統が動作可能(原子炉格納容器スプレイ系が動作不能時は、第90条(表90-4および表90-6)の運転上の制限も確認)(原子炉格納容器スプレイ系の弁閉閉点検を行う場合、2時間に限り適用しない) よう素除去薬品タンクのヒドレンジン濃度：35wt%以上 よう素除去薬品タンクのヒドレンジン液量(有効水量)：2.0m ³ 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4 | 原子炉格納容器スプレイ系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 原子炉格納容器スプレイ系2系統が動作可能(原子炉格納容器スプレイ系が動作不能時は、第90条(表90-4および表90-6)の運転上の制限も確認)(原子炉格納容器スプレイ系の弁閉閉点検を行う場合、2時間に限り適用しない) よう素除去薬品タンクのヒドレンジン濃度：35wt%以上 よう素除去薬品タンクのヒドレンジン液量(有効水量)：2.0m ³ 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4 | 原子炉格納容器スプレイ系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 原子炉格納容器スプレイ系2系統が動作可能(原子炉格納容器スプレイ系が動作不能時は、第90条(表90-4および表90-6)の運転上の制限も確認)(原子炉格納容器スプレイ系の弁閉閉点検を行う場合、2時間に限り適用しない) よう素除去薬品タンクのヒドレンジン濃度：35wt%以上 よう素除去薬品タンクのヒドレンジン液量(有効水量)：2.0m ³ 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4 | 原子炉格納容器スプレイ系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 原子炉格納容器スプレイ系2系統が動作可能(原子炉格納容器スプレイ系が動作不能時は、第90条(表90-4および表90-6)の運転上の制限も確認)(原子炉格納容器スプレイ系の弁閉閉点検を行う場合、2時間に限り適用しない) よう素除去薬品タンクのヒドレンジン濃度：35wt%以上 よう素除去薬品タンクのヒドレンジン液量(有効水量)：2.0m ³ 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 放射線物質放 | 第64条 原子炉格納容器スプレイ系 | モード3、4 | 原子炉格納容器スプレイ系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 原子炉格納容器スプレイ系2系統が動作可能(原子炉格納容器スプレイ系が動作不能時は、第90条(表90-4および表90-6)の運転上の制限も確認)(原子炉格納容器スプレイ系の弁閉閉点検を行う場合、2時間に限り適用しない) よう素除去薬品タンクのヒドレンジン濃度：35wt%以上 よう素除去薬品タンクのヒドレンジン液量(有効水量)：2.0m ³ 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4 | 原子炉格納容器スプレイ系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 原子炉格納容器スプレイ系2系統が動作可能(原子炉格納容器スプレイ系が動作不能時は、第90条(表90-4および表90-6)の運転上の制限も確認)(原子炉格納容器スプレイ系の弁閉閉点検を行う場合、2時間に限り適用しない) よう素除去薬品タンクのヒドレンジン濃度：35wt%以上 よう素除去薬品タンクのヒドレンジン液量(有効水量)：2.0m ³ 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4 | 原子炉格納容器スプレイ系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 原子炉格納容器スプレイ系2系統が動作可能(原子炉格納容器スプレイ系が動作不能時は、第90条(表90-4および表90-6)の運転上の制限も確認)(原子炉格納容器スプレイ系の弁閉閉点検を行う場合、2時間に限り適用しない) よう素除去薬品タンクのヒドレンジン濃度：35wt%以上 よう素除去薬品タンクのヒドレンジン液量(有効水量)：2.0m ³ 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4 | 原子炉格納容器スプレイ系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 原子炉格納容器スプレイ系2系統が動作可能(原子炉格納容器スプレイ系が動作不能時は、第90条(表90-4および表90-6)の運転上の制限も確認)(原子炉格納容器スプレイ系の弁閉閉点検を行う場合、2時間に限り適用しない) よう素除去薬品タンクのヒドレンジン濃度：35wt%以上 よう素除去薬品タンクのヒドレンジン液量(有効水量)：2.0m ³ 以上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 放射線物質放 | 第65条 アニュラス空気浄化系 | モード3、4 | アニュラス空気浄化系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 アニュラス空気浄化系2系統動作可能(アニュラス空気浄化系が動作不能時は第90条(表90-11)の運転上の制限も確認) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4 | アニュラスの機能が健全であること(原子炉格納容器内およびアニュラス内の機器の操作、点検等のため扉を開閉する間、適用しない) 2系統が動作可能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4 | アニュラスの機能が健全であること(原子炉格納容器内およびアニュラス内の機器の操作、点検等のため扉を開閉する間、適用しない) 2系統が動作可能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4 | アニュラスの機能が健全であること(原子炉格納容器内およびアニュラス内の機器の操作、点検等のため扉を開閉する間、適用しない) 2系統が動作可能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 放射線物質放 | 第77条 安全補機室空気浄化系 第87条 | モード3、4 | 安全補機室空気浄化系 原子炉キャビティ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4 | 安全補機室空気浄化系 原子炉キャビティ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4 | 安全補機室空気浄化系 原子炉キャビティ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4 | 安全補機室空気浄化系 原子炉キャビティ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

定期事業者検査時の安全管理の計画

(2/25)

| 主要工程 | | ▽並列 RCS 降温 | | | | | | | | | | ▽並列 | | | | | | | |
|------------|--------------------------|---|---|-----------|---|-------|-----|----------|-----|----------|-----|----------|-----|------|---|-----|---|---|---|
| | | R/V開放 | | 燃料排出 | | 燃料貯荷 | | 起動試験 | | 起動前5点検 | | 起動試験 | | 調整運転 | | | | | |
| | | R/V組立 | | 1次系ポンプ他点検 | | R/V組立 | | RCS補えい検査 | | RCS補えい検査 | | RCS補えい検査 | | 調整運転 | | | | | |
| RCS 水位 | | キャビティ流水 RCS 流水 ミッドループ RCS 全フロー | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 保安規定条文 | 要求モード | 要求内容 | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 3 | |
| 出の防止機能 | 原子炉キャビティ水位 | モード5、6 | 器内での燃料移動中以外の期間において、計画的な原子炉キャビティ水抜きによりモード6(低水位)に移行する場合、運転上の制限を適用しない。 ・機器ハッチが全ボルトで閉じられていること(原子炉格納容器内で燃料移動を行っていない場合、速やかに閉止できることを条件に以下のいずれかを満足する場合に開放すること)を許容する。この場合、運転上の制限を満足してはいないとはみなさない。 ・1次冷却材ポンプ停止中で余熱除去システムによる冷却時、加圧器安全弁が確立であることおよび加圧器水位が10~30%の範囲内にある場合。 ・原子炉キャビティ水位がEL32.2m以上である場合。 ・各エアロックが1つ以上のドアで閉止可能(閉止状態であることを含む) ・その他の貫通部のうち、隔離弁については閉止可能であること(閉止状態であることを含む)、隔離弁以外については閉止フランジまたは同等なものによって閉じられていること(原子炉格納容器内で燃料移動を行っていない場合は、速やかに閉止できることを条件に閉止することが許容される。この場合、運転上の制限を満足してはいないとはみなさない) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 原子炉停止後除熱機能 | 第89条 使用済燃料ピットの水位および水温 | 全モード | ・使用済燃料ピット水位: EL32.2m以上(照炉済燃料の移動を行っていない場合は適用しない) ・使用済燃料ピット水温: 65℃以下 | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ |
| | 第37条 1次冷却系 | モード3 | ・蒸気発生器による熱除去系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 ・蒸気発生器による熱除去系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 ・制御棒の引抜き操作が行える状態である場合は、蒸気発生器による熱除去系2系統以上が運転中 ・制御棒の引抜き操作が行える状態でない場合は、蒸気発生器による熱除去系2系統以上が動作可能であり、そのうち1系統以上が運転中 | × | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第38条 1次冷却系 | モード4 | ・余熱除去系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 ・蒸気発生器による熱除去系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 ・余熱除去系(動作不能時は、第90条(表90-4)の運転上の制限も確認)または蒸気発生器による熱除去系(動作不能時は、第90条(表90-8)の運転上の制限も確認)のうち、2系統以上が動作可能であり、そのうち1系統以上が運転中 | | × | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第39条 1次冷却系 | モード5-1 | ・余熱除去系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 ・余熱除去系(余熱除去系が動作不能時は、第90条(表90-4)の運転上の制限も確認)1系統が運転中(計 | | | × | | | | | | | | | | | | | |

定期事業者検査時の安全管理の計画

(3/25)

| 主要工程 | | ▽解列 RCS降温 | | | | | | | | | | 燃料取出 | | | 燃料装荷 | | | 起動試験 | | | 起動前点検 | | | ▽並列 | | | | | | | |
|----------------|--------|---------------------------------------|---|------|---|---|-----|-----|-----|-----|------|-------|-----|-----|-------|-----|---|----------|-----|-----|-------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|---|
| RCS水位 | | キャビティ流水 RCS海水 ミッドループ RCS全フロー | | | | | | | | | | R/V開放 | | | R/V組立 | | | RCS漏えい検査 | | | 調整運転 | | | | | | | | | | |
| 項目 | 保安規定条文 | 要求モード | 要求内容 | 関連設備 | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 5-1 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 3 | |
| 第40条 1次冷却系 | | モード5-2 | 面的にモード4に加熱する場合は、蒸気発生器1基以上の水位(狭域)が計器スパンの5%以上であることを条件に全ての余熱除去系を隔離することを許可 | 関連設備 | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 5-1 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 3 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 他の余熱除去が動作可能または運転中であるか、2基以上の蒸気発生器の水位(狭域)が計器スパンの5%以上であること(計画的にモード4に加熱する場合は、蒸気発生器1基以上の水位(狭域)が計器スパンの5%以上であることを条件に全ての余熱除去系を隔離することを許可) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第41条 1次冷却系 | | モード6-2 | <ul style="list-style-type: none"> 余熱除去系は、重大事故等対応設備を兼ねる。 余熱除去系(余熱除去系が動作不能時は、第90条(表90-4)の運転上の制限も確認)2系統が動作可能であり、そのうち1系統以上が運転中(1次冷却材ポンプによる1次冷却系空気を抜きを行う場合は2時間以内)全ての余熱除去系を隔離することを許可。 ポンプの切替を行う場合は、a, b, cの全てを満足させることを条件に15分以内に限り全ての余熱除去ポンプを停止することを許可。 a. 炉心出口温度が飽和温度より5.6℃以上下回るように維持されていること。 b. 1次冷却材中のほう素濃度が低下する操作が行われていないこと。 c. 1次冷却系水量低下につながる操作が行われていないこと。 | 関連設備 | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 5-1 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 3 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 余熱除去系は、重大事故等対応設備を兼ねる。 余熱除去系(余熱除去系が動作不能時は、第90条(表90-4)の運転上の制限も確認)1系統以上運転中(1次冷却材中のほう素濃度を低下させる操作を行わないことを条件に8時間あたり1時間に限り余熱除去ポンプを停止することを許可) 1次冷却材温度65℃以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第42条 1次冷却系 | | モード6-1 | <ul style="list-style-type: none"> 余熱除去系は、重大事故等対応設備を兼ねる。 余熱除去系(余熱除去系が動作不能時は、第90条(表90-4)の運転上の制限も確認)2系統動作可能であり、そのうち1系統以上運転中(キャビティ水張りおよび水抜きを行っている場合は余熱除去系への切替操作が可能であること、および他の1系統が運転中であることを条件に1系統を隔離することを許可) 1次冷却材温度65℃以下 | 関連設備 | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 5-1 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 3 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 余熱除去系は、重大事故等対応設備を兼ねる。 余熱除去系(余熱除去系が動作不能時は、第90条(表90-4)の運転上の制限も確認)1系統以上運転中(1次冷却材中のほう素濃度を低下させる操作を行わないことを条件に8時間あたり1時間に限り余熱除去ポンプを停止することを許可) 1次冷却材温度65℃以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第67条 主蒸気安全弁 | | モード3(原子炉起動時のモード3から主蒸気安全弁機 | <ul style="list-style-type: none"> 主蒸気安全弁は、重大事故等対応設備を兼ねる。 主蒸気安全弁が蒸気発生器毎に下記の個数以上動作可 | 関連設備 | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 5-1 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 3 |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> 主蒸気安全弁は、重大事故等対応設備を兼ねる。 主蒸気安全弁が蒸気発生器毎に下記の個数以上動作可 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

定期事業者検査時の安全管理の計画

| 項目 | 保安規定条文 | 要求モード | 要求内容 | 関連設備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|------------------------------------|---|--|--|--|--|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|---|-----|---|---|
| | | | | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モーター外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 3 | | | |
| RCS 水位 | | | | <p>▽解列 RCS 降温</p> <p>▽並列</p> <p>燃料排出</p> <p>R/V開放</p> <p>燃料貯荷</p> <p>起動試験</p> <p>起動前5点検</p> <p>調整運転</p> <p>1次系ポンプ他点検</p> <p>R/V組立</p> <p>RCS充えい検査</p> <p>キャビティ排水</p> <p>RCS 排水</p> <p>ミッドグループ</p> <p>RCS 全アロー</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 能 | 原子炉熱出力 80%超 : 5 個 原子炉熱出力 60%超で、かつ 80%以下 : 4 個 原子炉熱出力 40%超で、かつ 60%以下 : 3 個 原子炉熱出力 40%以下 : 2 個 | 関連設備 | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モーター外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 3 |
| | | | | モード 3 | <ul style="list-style-type: none"> 主蒸気隔離弁は、重大事故等対処設備を兼ねる。 主蒸気隔離弁が閉止可能 (閉止状態にある場合は、適用しない) 主給水隔離弁、主給水制御弁および主給水バイパス制御弁が閉止可能 (閉止または手動弁で隔離された状態にある場合は、適用しない) 主蒸気送がし弁は、重大事故等対処設備を兼ねる。 主蒸気送がし弁の自動での閉弁ができること (主蒸気送がし弁が動作不能時は、第 90 条 (表 90-9) の運転上の制限も確認) | <ul style="list-style-type: none"> 主蒸気隔離弁 主給水隔離弁 主給水制御弁 主給水バイパス 制御弁 主蒸気送がし弁 | △ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 68 条 主蒸気隔離弁 | モード 3 | <ul style="list-style-type: none"> 補助給水系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 電動補助給水ポンプによる 2 系統およびタービン動補給水ポンプによる 1 系統が動作可能 (タービン動補給水ポンプについては原子炉起動時のモード 3 において試運転に係る調整を行っている場合は適用しない) (補助給水系が動作不能時は、第 90 条 (表 90-8) の運転上の制限も確認) | <ul style="list-style-type: none"> 補助給水系 電動補助給水ポンプ タービン動補給水ポンプ | △ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 70 条 主蒸気送がし弁 | モード 3、4 (蒸気発生器が熱除去のために使用されている場合) | | <ul style="list-style-type: none"> 補助給水系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 電動補助給水ポンプによる 1 系統以上が動作可能 (補助給水系が動作不能時は、第 90 条 (表 90-8) の運転上の制限も確認) 復水ピットは、重大事故等対処設備を兼ねる。 復水ピット有効水量 : 730m³以上 (水量 (有効水量) を確認する場合は、第 90 条 (表 90-14) の運転上の制限も確認) | <ul style="list-style-type: none"> 補助給水系 電動補助給水ポンプ 復水ピット | △ | | | | | | | | | | | | | | | △ | | |
| 第 71 条 補助給水系 | モード 3 | | <ul style="list-style-type: none"> 蓄圧タンクは、重大事故等対処設備を兼ねる。 蓄圧タンクほう蒸温度 : 280ppm 以上 蓄圧タンクほう酸水量 (有効水量) : 27.0m³以上 蓄圧タンク圧力 : 4.04MPa [gage] 以上 蓄圧タンク出口弁全開 蓄圧タンクが運転上の制限を逸脱した場合は、第 90 条 (表 90-4) の運転上の制限も確認) 高圧注入系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 低圧注入系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 高圧注入系の 2 系統が動作可能 (動作不能時は、第 90 条 (表 90-3 および表 90-4) の運転上の制限も確認、弁閉閉点検を行う場合 2 時間に限り適用しない。高圧注入ポンプを用いて蓄圧タンクの水張りを行っている場合は、高圧注入系への切替操作が可能な状態であることを条件に許容) 低圧注入系の 2 系統が動作可能 (動作不能時は、第 9 | <ul style="list-style-type: none"> 蓄圧タンク 蓄圧タンク出口隔離弁 高圧注入系 低圧注入系 | △ | | | | | | | | | | | | | | | △ | | |
| 第 72 条 復水ピット | モード 3、4 (蒸気発生器が熱除去のために使用されている場合) | | | <ul style="list-style-type: none"> 蓄圧タンクは、重大事故等対処設備を兼ねる。 蓄圧タンクほう蒸温度 : 280ppm 以上 蓄圧タンクほう酸水量 (有効水量) : 27.0m³以上 蓄圧タンク圧力 : 4.04MPa [gage] 以上 蓄圧タンク出口弁全開 蓄圧タンクが運転上の制限を逸脱した場合は、第 90 条 (表 90-4) の運転上の制限も確認) 高圧注入系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 低圧注入系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 高圧注入系の 2 系統が動作可能 (動作不能時は、第 90 条 (表 90-3 および表 90-4) の運転上の制限も確認、弁閉閉点検を行う場合 2 時間に限り適用しない。高圧注入ポンプを用いて蓄圧タンクの水張りを行っている場合は、高圧注入系への切替操作が可能な状態であることを条件に許容) 低圧注入系の 2 系統が動作可能 (動作不能時は、第 9 | <ul style="list-style-type: none"> 蓄圧タンク 蓄圧タンク出口隔離弁 高圧注入系 低圧注入系 | △ | | | | | | | | | | | | | | △ | | |
| 第 51 条 蓄圧タンク | モード 3 (1 次冷却材圧力が 6.89MPa [gage] 起) | | | | <ul style="list-style-type: none"> 蓄圧タンクは、重大事故等対処設備を兼ねる。 蓄圧タンクほう蒸温度 : 280ppm 以上 蓄圧タンクほう酸水量 (有効水量) : 27.0m³以上 蓄圧タンク圧力 : 4.04MPa [gage] 以上 蓄圧タンク出口弁全開 蓄圧タンクが運転上の制限を逸脱した場合は、第 90 条 (表 90-4) の運転上の制限も確認) 高圧注入系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 低圧注入系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 高圧注入系の 2 系統が動作可能 (動作不能時は、第 90 条 (表 90-3 および表 90-4) の運転上の制限も確認、弁閉閉点検を行う場合 2 時間に限り適用しない。高圧注入ポンプを用いて蓄圧タンクの水張りを行っている場合は、高圧注入系への切替操作が可能な状態であることを条件に許容) 低圧注入系の 2 系統が動作可能 (動作不能時は、第 9 | <ul style="list-style-type: none"> 蓄圧タンク 蓄圧タンク出口隔離弁 高圧注入系 低圧注入系 | △ | | | | | | | | | | | | | △ | | |
| 第 52 条 非常用炉心冷却系 | モード 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | △ | | |

定期事業者検査時の安全管理の計画

(6/25)

| 主要工程 | | ▽並列 RCS 降温 | | | | | | | | | | 燃料貯荷 | | | ▽並列 | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|--------|---|--|--|---|---|-----|-----|-----|-----|------|-------|-----|-----|----------|-----|---|----------|---|-----|---|-----|---|---|---|---|---|
| | | R/V開放 | | | | | | | | | | 燃料貯荷 | | | 起動試験 | | | 調整運転 | | | | | | | | | |
| | | 1次系ポンプ他点検 | | | | | | | | | | R/V組立 | | | RCS漏えい検査 | | | RCS漏えい検査 | | | | | | | | | |
| 項目 | 保安規定条文 | 要求モード | 要求内容 | 関連設備 | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 5-2 | 4 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 3 | | | |
| RCS 水位 | | キャパシティ漏水 RCS 漏水 ミッドグループ RCS 全フロー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 47 条 1 次冷却材漏えい率 | | モード 3、4 | <ul style="list-style-type: none"> 原子炉格納容器サンプ水位計および炉内計装用シンブル配管室ドレンビット漏えい検出装置によって測定される未確認の漏えい率：0.23m³/h 以下（炉内計装用シンブル配管室ドレンビット漏えい検出装置によって測定される漏えい率は全て未確認の漏えい率とみなす） 原子炉格納容器サンプ水位計によって測定される原子炉冷却材圧力バウンダリ以外からの漏えい率：2.3m³/h 以下 原子炉格納容器サンプ水位計および炉内計装用シンブル配管室ドレンビット漏えい検出装置が動作可能 | <ul style="list-style-type: none"> 1 次冷却材系統 原子炉格納容器サンプ水位計 炉内計装用シンブル配管室ドレンビット漏えい検出装置 | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 48 条 蒸気発生器細管漏えい監視 | | モード 3、4 | <ul style="list-style-type: none"> 蒸気発生器細管に漏えいがないこと 蒸気発生器細管漏えい監視装置（蒸気発生器フローダウンスモニタ）が動作可能（プラント状態により監視ができない場合、洗浄中を除く） | <ul style="list-style-type: none"> 蒸気発生器細管 蒸気発生器フローダウンスモニタ | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 49 条 余熱除去系への漏えい監視 | | モード 3、4（余熱除去系隔離が閉じている場合） | <ul style="list-style-type: none"> 1 次冷却系から余熱除去系への漏えいがないこと（余熱除去系の選がし弁が動作していないこと） | <ul style="list-style-type: none"> 余熱除去系隔離弁 余熱除去系選がし弁 | × | △ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第 34 条 計測および制御設備（原子炉保護系計装） | | モード 3、4、5（原子炉トリップ遮断器が閉じ、制御棒の引き抜きが行える場合） | <ul style="list-style-type: none"> 原子炉保護系論理回路：4 系統 手動原子炉トリップ：2 チャンネル 中性子源領域中性子束高：2 チャンネル（中間領域中性子束高） 2 チャンネルが動作可能であることを条件に、P-6 リセット時においては、2 チャンネルをバイパスすることを許容。「中性子源領域炉停止中中性子束高」の警報を設定する場合は、残りのチャンネルが動作可能であることを条件に、2 時間に限り、1 チャンネルをバイパスをすることを許容。 | <ul style="list-style-type: none"> 原子炉保護系計装 左記信号検出、伝送ライン | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ |
| 第 34 条 計測および制御設備（工学的安全施設等作動計装） | | モード 3、4 | <ul style="list-style-type: none"> 非常用炉心冷却系作動論理回路：2 系統^{*1} （非常用炉心冷却系）手動起動：2 チャンネル 原子炉格納容器スプレイ系作動論理回路：2 系統^{*1} （原子炉格納容器スプレイ系・原子炉格納容器隔離 B・格納容器換気空調隔離）手動起動：4 チャンネル （原子炉格納容器隔離 A 作動論理回路：2 系統^{*1} （原子炉格納容器隔離 A・格納容器換気空調隔離）手動 | <ul style="list-style-type: none"> 非常用炉心冷却系作動計装 原子炉格納容器スプレイ系作動計装 原子炉格納容器隔離 A 作動計装 原子炉格納容器隔離 B 作動計装 | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

定期事業者検査時の安全管理の計画

(7/25)

| 主要工程 | | 作業計画 | | | | | | | | | | 調整運転 | | | | | |
|-------|--------|--|--|---|------|------|--------|------|-----|-----|------|------|------|-----|---|---|--|
| | | ▽解列 RCS降温 | R/V開放 | 燃料取出 | 燃料装荷 | 起動試験 | 起動前弁点検 | 起動試験 | ▽並列 | | | | 調整運転 | | | | |
| RCS水位 | | キャビテイ満水 RCS海水 ミッドループ RCS全フロー | | | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 保安規定条文 | 要求モード | 要求内容 | 関連設備 | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 3 | |
| | | | <p>起動：2チャンネル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(原子炉格納容器隔離A) 非常用炉心冷却系作動 ・原子炉格納容器隔離B作動論理回路：2系統※1 ・原子炉格納容器隔離Aと非常用高圧母線低電圧信号による隔離作動論理回路：2系統※1 ・(原子炉格納容器隔離Aと非常用高圧母線低電圧信号による隔離) 原子炉格納容器隔離A ・(原子炉格納容器隔離Aと非常用高圧母線低電圧信号による隔離) 非常用高圧母線低電圧：1母線あたり3チャンネル ・原子炉格納容器換気空調隔離作動論理回路：2系統※1 ・(原子炉格納容器換気空調隔離) 非常用炉心冷却系作動 <p>※1：原子炉保護系統論理回路の機能検査時において残り1系統が動作可能であることを条件に2時間に限り1系統ハイバスすることができる。(本表において同じ)</p> | <p>動計装</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子炉格納容器隔離Aと非常用高圧母線低電圧信号による隔離作動計装 ・原子炉格納容器換気空調隔離作動計装 ・左記信号検出、伝送ライン | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3 | <ul style="list-style-type: none"> ・(非常用炉心冷却系) 原子炉格納容器圧力高：4チャンネル(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に1チャンネルをハイバスできる) ・(原子炉格納容器スプレイス系・原子炉格納容器隔離B) 原子炉格納容器圧力異常高：4チャンネル(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に1チャンネルをハイバスできる) | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3(全主蒸気隔離弁が閉じている場合は除く) | <ul style="list-style-type: none"> ・主蒸気ライン隔離作動論理回路：2系統※1 ・(主蒸気ライン隔離) 手動起動：2チャンネル ・(主蒸気ライン隔離) 原子炉格納容器圧力異常高：4チャンネル(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に1チャンネルをハイバスできる) ・(主蒸気ライン隔離) 主蒸気ライン圧力低：各主蒸気ライン毎に4チャンネル(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に1チャンネルをハイバスできる) ・(主蒸気ライン隔離) 主蒸気ライン圧力減少率高：各主蒸気ライン毎に4チャンネル(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に1チャンネルをハイバスできる) | <ul style="list-style-type: none"> ・主蒸気ライン隔離作動計装 ・左記信号検出、伝送ライン | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3(主給水隔離弁、主給水制御弁、主給水バイパス制御弁が閉止または隔離されている場合は除く) | <ul style="list-style-type: none"> ・給水隔離作動論理回路：2系統※1 ・(給水隔離) 蒸気発生器水位異常高：1基あたり4チャンネル(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に1チャンネルをハイバスできる) ・(給水隔離) 非常用炉心冷却系作動 ・(給水隔離) 1次冷却材平均温度低と原子炉トリップの一致：[1次冷却材平均温度低：4チャンネル(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に1チャンネル | <ul style="list-style-type: none"> ・給水隔離作動計装 ・左記信号検出、伝送ライン | | | | | | | | | | | | | |

定期事業者検査時の安全管理の計画

(8/25)

| 主要工程 | | ▽並列 RCS 降温 | | | | | | | | | | 燃料貯荷 | | | | 起動試験 | | | | ▽並列 | | | |
|--------------------|---------------------------------|-------------------------------|---|------|---|-------|-----|-----------|-----|-------|-----|----------|-----|------|---|--------|---|------|---|------|------|---|---|
| | | R/V開放 | | 燃料取出 | | R/V組立 | | 1次系ポンプ他点検 | | R/V組立 | | RCS漏えい検査 | | 起動試験 | | 起動前5点検 | | 起動試験 | | 調整運転 | | | |
| 項目 | 保安規定条文 | 要求モード | 要求内容 | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 3 | 4 | 3 | 調整運転 | | |
| RCS 水位 | | モード3 (P-11以上) | <p>キャビティ排水 RCS 排水 ミッドループ RCS 全フロー</p> <p>要求内容 ネルをバイパスできる) [原子炉保護計装]</p> <p>・(非常用炉心冷却系) 原子炉圧力低: 4チャンネル(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に1チャンネルをバイパスできる) ・(非常用炉心冷却系・主蒸気ライン隔離) 主蒸気ライン圧力低: 各主蒸気ライン毎に4チャンネル(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に1チャンネルをバイパスできる) ・P-11 (加圧器圧力): 4チャンネル</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3 (P-11未満) | <p>・(主蒸気ライン隔離) 主蒸気ライン圧力減少異常: 各主蒸気ライン毎に4チャンネル(残りの3チャンネルが動作可能であることを条件に1チャンネルをバイパスできる)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安全上特に重要な関連機能(電源供給) | 第34条 計測および制御設備(ディーゼル発電機起動計装) | モード3、4 | <p>・ディーゼル発電機起動論理回路: 2系統 ・(ディーゼル発電機起動) 非常用炉心冷却系(動作)</p> | × | × | | | | | | | | | | × | | | | | | | | |
| | | モード5、6および照射済燃料移動中 | <p>・ディーゼル発電機起動論理回路: 1系統</p> | | | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第78条の3 外部電源 | | モード3、4、5、6および照射済燃料移動中 | <p>・(ディーゼル発電機起動) 非常用高圧母線低電圧: 所要の母線あたり3チャンネル</p> | × | × | × | × | × | × | △ | △ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × |
| | | モード3、4、5、6および使用済燃料ピットに燃料体を貯蔵中 | <p>(1)の外部電源のうち1回線以上は他の回線に対して独立性を有すること。(独立性を有するとは、1送電線の上流において1つの変電所または開閉所のみを連系しないこと)をいう。1つの変電所または開閉所のルートにより供給または受電している場合であっても、設備構成として、別ルートで連系が可能な状態であれば独立性を有しているといえることができる。)</p> | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × |
| 第79条 ディーゼル発電機 | | モード3、4 | <p>・ディーゼル発電機2基が動作可能(予備潤滑運転(ターニング、エアラン)を行う場合適用しない)(ディーゼル発電機が動作不能時は、第90条(表90-15)の運転上の制限も確認する。)</p> <p>・燃料油サービスタック貯油量(保有油量): 0.95m³以上(ディーゼル発電機が運転中および運転終了後の24時間間は適用しない)</p> | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第80条 | | モード5、6およびモード外 | <p>・ディーゼル発電機は、重大事故等対応処置を兼ねる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

定期事業者検査時の安全管理の計画

(9/25)

| 主要工程 | | ▽解列 RCS 降温 | | | | | | | | | | 燃料取出 | | | 燃料装荷 | | | 起動試験 | | | 起動前弁点検 | | | ▽並列 | | | | | | | | | | |
|--------|--------------------------|-------------------|---|---|---|-----|-----|-----|-----|------|-----|-------|-----|-----|----------|-----|---|------|-----|-----|--------|------|-----|-----|-----|-----|---|-----|---|---|--|--|--|--|
| 主要工程 | | R/V開放 | | | | | | | | | | R/V組立 | | | RCS漏えい検査 | | | 起動試験 | | | 調整運転 | | | | | | | | | | | | | |
| 項目 | 保安規定条文 | 要求モード | 要求内容 | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 3 | | | | |
| RCS 水位 | ディーゼル発電機 | モード3、4、5、6およびモード外 | <ul style="list-style-type: none"> ディーゼル発電機2基が動作可能であること(ディーゼル発電機が動作不能時は、第90条(表90-15)の運転上の制限も確認する。ディーゼル発電機の予備潤滑運転(ターニング、エアラン)を行う場合適用しない)(ディーゼル発電機には非常用発電機(所定の電力供給が可能なものをいい、複数の号炉で共用することができ)1基を含めることができる) 上記ディーゼル発電機に対応する燃料油サービスタンク貯油量(保有油量):0.95m³以上(ディーゼル発電機が運転中および運転終了後の24時間は適用しない) 燃料貯蔵タンクおよび重油タンクは、重大事故等対処設備を兼ねる。 所要のディーゼル発電機の燃料貯蔵タンクおよび重油タンクの合計油量(燃料貯蔵タンクの油量(保有油量)128m³以上を含む。):297m³以上** 所要のディーゼル発電機の潤滑油タンクの油量(保有油量):5.5m³以上** 所要のディーゼル発電機の起動空気圧力:2.50MPa(gage)以上** | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | <ul style="list-style-type: none"> ディーゼル発電機2基が動作可能であること(ディーゼル発電機が動作不能時は、第90条(表90-15)の運転上の制限も確認する。ディーゼル発電機の予備潤滑運転(ターニング、エアラン)を行う場合適用しない)(ディーゼル発電機には非常用発電機(所定の電力供給が可能なものをいい、複数の号炉で共用することができ)1基を含めることができる) 上記ディーゼル発電機に対応する燃料油サービスタンク貯油量(保有油量):0.95m³以上(ディーゼル発電機が運転中および運転終了後の24時間は適用しない) 燃料貯蔵タンクおよび重油タンクは、重大事故等対処設備を兼ねる。 所要のディーゼル発電機の燃料貯蔵タンクおよび重油タンクの合計油量(燃料貯蔵タンクの油量(保有油量)128m³以上を含む。):297m³以上** 所要のディーゼル発電機の潤滑油タンクの油量(保有油量):5.5m³以上** 所要のディーゼル発電機の起動空気圧力:2.50MPa(gage)以上** | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第81条 | ディーゼル発電機の燃料油、潤滑油および補助用空気 | モード3、4、5、6およびモード外 | <ul style="list-style-type: none"> 燃料貯蔵タンクおよび重油タンクは、重大事故等対処設備を兼ねる。 所要のディーゼル発電機の燃料貯蔵タンクおよび重油タンクの合計油量(燃料貯蔵タンクの油量(保有油量)128m³以上を含む。):297m³以上** 所要のディーゼル発電機の潤滑油タンクの油量(保有油量):5.5m³以上** 所要のディーゼル発電機の起動空気圧力:2.50MPa(gage)以上** | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第82条 | 非常用直流通電源 | モード3、4 | <ul style="list-style-type: none"> 蓄電池は、重大事故等対処設備を兼ねる。 非常用直流通電源2系統(蓄電池(安全防護系用)(蓄電池が動作不能時は、第90条(表90-15)の運転上の制限も確認)および充電器(充電器または充電器のいずれかをいい、両方が機能喪失した場合、動作不能)が動作可能) 蓄電池は、重大事故等対処設備を兼ねる。 所要の設備の維持に必要な非常用直流通電源に接続する系統(蓄電池(安全防護系用)(蓄電池が動作不能時は、第90条(表90-15)の運転上の制限も確認)および充電器(充電器または充電器のいずれかをいい、両方が機能喪失した場合、動作不能)が動作可能) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第83条 | 非常用直流通電源 | モード5、6および照射済燃料移動中 | <ul style="list-style-type: none"> 蓄電池は、重大事故等対処設備を兼ねる。 所要の設備の維持に必要な非常用直流通電源に接続する系統(蓄電池(安全防護系用)(蓄電池が動作不能時は、第90条(表90-15)の運転上の制限も確認)および充電器(充電器または充電器のいずれかをいい、両方が機能喪失した場合、動作不能)が動作可能) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第84条 | 所内非常用母線 | モード3、4 | <ul style="list-style-type: none"> 次の所内非常用母線が受電していること(電源の自動切替の間は適用しない) 2つの非常用高圧母線 4つの非常用低圧母線 2つの非常用直流通電源 4つの非常用計器用母線 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

定期事業者検査時の安全管理の計画

(10/25)

| 主要工程 | | ▽並列 RCS 高温 | | | | | | | | | | 燃料投出 | | | | 燃料投荷 | | | | 起動試験 | | | | ▽並列 | | | | | | |
|-----------------------|--------------------------------|-----------------------------|---|---|----------------|---|-----|-----|-----|-----|------|-------|-----|-----|-----|----------|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|---|---|---|---|---|---|
| | | R/V開放 | | | | | | | | | | R/V組立 | | | | RCS漏えい検査 | | | | 起動試験 | | 調整運転 | | | | | | | | |
| | | 1次系ポンプ他点検 | | | | | | | | | | R/V組立 | | | | RCS漏えい検査 | | | | 起動試験 | | 調整運転 | | | | | | | | |
| | | キャビレイ流水 | | | | | | | | | | R/V組立 | | | | RCS漏えい検査 | | | | 起動試験 | | 調整運転 | | | | | | | | |
| | | RCS 漏水 | | | | | | | | | | R/V組立 | | | | RCS漏えい検査 | | | | 起動試験 | | 調整運転 | | | | | | | | |
| | | ミッドループ | | | | | | | | | | R/V組立 | | | | RCS漏えい検査 | | | | 起動試験 | | 調整運転 | | | | | | | | |
| | | RCS 全フロー | | | | | | | | | | R/V組立 | | | | RCS漏えい検査 | | | | 起動試験 | | 調整運転 | | | | | | | | |
| | | 要求内容 | | | | | | | | | | R/V組立 | | | | RCS漏えい検査 | | | | 起動試験 | | 調整運転 | | | | | | | | |
| 項目 | 保安規定条文 | 要求モード | 要求内容 | 関連設備 | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モード外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 3 | 4 | 3 | | | |
| 安全上特に重要な関連機能 (海水系統他) | 第5条 所内非常用母線 | モード5、6および照射済燃料移動中 | 所要の設備の維持に必要な次の所内非常用母線が受電していること (電源の自動切替の間は適用しない) ・非常用高圧母線 ・非常用低圧母線 ・非常用計器用母線 | ・非常用高圧母線 ・非常用低圧母線 ・非常用計器用母線 | | | × | × | × | × | △ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | |
| | 第73条 原子炉補機冷却水系 | モード3、4 | ・原子炉補機冷却水系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 ・原子炉補機冷却水系2系統が動作可能 (原子炉補機冷却水系が動作不能時は、第90条 (表90-7) の運転上の制限も確認) ・A 原子炉補機冷却海水系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 ・原子炉補機冷却海水系統る系統が動作可能 (A 原子炉補機冷却海水系が動作不能時は第90条 (表90-7) の運転上の制限も確認) | ・原子炉補機冷却水系 | × | | | | | | | | | | | | | | | × | | | | | | | | | | |
| | 第74条 原子炉補機冷却海水系 | モード3、4 | ・原子炉補機冷却海水系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 ・原子炉補機冷却海水系統る系統が動作可能 (A 原子炉補機冷却海水系が動作不能時は第90条 (表90-7) の運転上の制限も確認) | ・原子炉補機冷却海水系 | | | | | | | | | | | | | | | | | × | | | | | | | | | |
| | 第75条 制御用空気系 | モード3、4 | 制御用空気圧力 (母管圧力) : 0.60MPa [gage] 以上 | ・制御用空気系 | | | | | | | | | | | | | | | | | × | | | | | | | | | |
| 安全上特に重要な関連機能 (制御用空気系) | 第34条 計測および制御設備 (中央制御室非常用循環系計装) | モード3、4および使用済燃料ピットでの照射済燃料移動中 | ・中央制御室非常用循環系作動論理回路 : 所要の中央制御室非常用循環系2系統 ・(中央制御室非常用循環系) 手動起動 : 所要の中央制御室非常用循環系につき2チャンネル | ・中央制御室非常用循環系作動論理回路 : 所要の中央制御室非常用循環系2系統 ・(中央制御室非常用循環系) 手動起動 : 所要の中央制御室非常用循環系につき2チャンネル | × | × | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | |
| | 第34条 計測および制御設備 (中央制御室非常用循環系計装) | モード3、4 | ・(中央制御室非常用循環系) 非常用炉心冷却系作動 | ・(中央制御室非常用循環系) 非常用炉心冷却系作動 | × | | | | | | | | | | | | | | | × | | | | | | | | | | |
| | 第76条 中央制御室非常用循環系 | モード3、4および使用済燃料ピットでの照射済燃料移動中 | ・中央制御室非常用循環系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 ・中央制御室非常用循環系2系統以上動作可能 (中央制御室あたり) (中央制御室非常用循環系が動作不能時は、第90条 (表90-17) の運転上の制限も確認)) | ・中央制御室非常用循環系は、重大事故等対処設備を兼ねる。 ・中央制御室非常用循環系2系統以上動作可能 (中央制御室あたり) (中央制御室非常用循環系が動作不能時は、第90条 (表90-17) の運転上の制限も確認)) | ・中央制御室非常用循環系 | × | × | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | △ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × |
| | 第34条 計測および制御設備 (中央制御室外原子炉停止装置) | モード3 | ・ほう筒ポンプ ・加圧器圧力 | ・ほう筒ポンプ ・加圧器圧力 | ・中央制御室外原子炉停止装置 | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 制御室外からの安全停止機能 | 第34条 計測および制御設備 (中央制御室外原子炉停止装置) | モード3、4 | ・充てんポンプ ・加圧器後備ヒータ ・抽出水オリフィス隔離弁 ・海水ポンプ ・原子炉補機冷却水ポンプ ・電動補助給水ポンプ ・加圧器水位 | ・充てんポンプ ・加圧器後備ヒータ ・抽出水オリフィス隔離弁 ・海水ポンプ ・原子炉補機冷却水ポンプ ・電動補助給水ポンプ ・加圧器水位 | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第34条 計測および制御設備 (中央制御室外原子炉停止装置) | モード3、4 | ・充てんポンプ ・加圧器後備ヒータ ・抽出水オリフィス隔離弁 ・海水ポンプ ・原子炉補機冷却水ポンプ ・電動補助給水ポンプ ・加圧器水位 | ・充てんポンプ ・加圧器後備ヒータ ・抽出水オリフィス隔離弁 ・海水ポンプ ・原子炉補機冷却水ポンプ ・電動補助給水ポンプ ・加圧器水位 | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

定期事業者検査時の安全管理の計画

| 主要工程 | | RCS水位 | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---------------------------------------|----------------------------------|--|--|-----------|-----------|-------|----------|--------|------|------|--|------|--|-----|--|
| 項目 | 保安規定条文 | 要求モード | 要求内容 | 関連設備 | △解列 RCS降温 | | R/V開放 | | 燃料取出 | | 燃料装荷 | | 起動試験 | | △形別 | |
| | | | | | R/V開放 | 1次系ポンプ他点検 | R/V組立 | RCS漏えい検査 | 起動前弁点検 | 起動試験 | 調整運転 | | | | | |
| 事故時のフラッシュ状態把握機能 | 第34条 計測および制御設備(事故時監視計装) | モード4 | <ul style="list-style-type: none"> 蒸気発生器水位(広域) 主蒸気圧力 中性子束(中性子領域) 1次冷却材圧力(広域) 1次冷却材温度(広域)(低温側) 余熱除去ポンプ | | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3 | <ul style="list-style-type: none"> 事故時監視計装は、重大事故等対処設備を兼ねる。各計装が動作不能時は、第90条(表90-16)の運転上の制限も確認する。 ※ 1次冷却材圧力(広域)：2チャンネル 1次冷却材温度(広域)(高温側)：4チャンネル 1次冷却材温度(広域)(低温側)：4チャンネル 加圧器水位：2チャンネル 圧縮タンク水位：2チャンネル 主蒸気ライン圧力：2チャンネル(各ライン) 復水ビッド水位：2チャンネル 蒸気発生器水位(狭域)：4チャンネル 蒸気発生器水位(狭域)：2チャンネル(各SG) 補助給水流量：4チャンネル 燃料取替用ピット水位：2チャンネル 格納容器再循環タンク水位(広域)：2チャンネル 格納容器再循環タンク水位(狭域)：2チャンネル 格納容器内圧力：2チャンネル 格納容器内温度：2チャンネル 格納容器内高レンジエリアモニタ(低レンジ)：2チャンネル 格納容器内高レンジエリアモニタ(高レンジ)：2チャンネル 原子炉補給冷却サージタンク水位：2チャンネル 制御用密閉圧力：2チャンネル(※は適用しない) 高圧安全注入流量：2チャンネル 低圧安全注入流量：2チャンネル | <ul style="list-style-type: none"> 左記事故時監視計装 | | | | | | | | | | | | |
| 重大事故等対処設備 | 第90条 (表90-3-1) 1次冷却系フィードアンドプリード | モード3および4(蒸気発生器が熱除去のために使用されている場合) | <ul style="list-style-type: none"> 高圧注入系を系統以上動作可能(ポンプ手動起動(系統構成含む)で可) 加圧器送がい弁2台による1次冷却系統の減圧系が動作可能 | <ul style="list-style-type: none"> 高圧注入ポンプ2台 加圧器送がい弁2台 燃料取替用ピット | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4、5および6 | <ul style="list-style-type: none"> 高圧注入系が1系統動作可能(ポンプが手動起動(系統構成含む)で可)または運転中であること) 低圧注入系が1系統動作可能(ポンプが手動起動(系統構成含む)で可)または運転中であること) | <ul style="list-style-type: none"> 高圧注入ポンプ1台 余熱除去ポンプ1台 燃料取替用ピット | | | | | | | | | | | | |
| | | モード3、4、5および6 | <ul style="list-style-type: none"> 蓄圧タンクほう素濃度:2800ppm以上 蓄圧タンクほう素水量(有効水量):27.0m³以上(1基あたり) 蓄圧タンク圧力:4.0MPa[gage]以上(モード3(1次冷却材 | <ul style="list-style-type: none"> 蓄圧タンク | | | | | | | | | | | | |

定期事業者検査時の安全管理の計画

(12/25)

| 項目 | 保安規定条文 | 要求モード | 要求内容 | 関連設備 | 主要工程 | | | | | | | | | | 調整運転 | | | | |
|--------|--|--|---|---|-----------|-------|------|------|------|--------|------|-----|---|---|------|---|---|---|---|
| | | | | | ▽並列 RCS低温 | R/V開放 | 燃料排出 | 燃料貯荷 | 起動試験 | 起動前弁点検 | 起動試験 | ▽並列 | | | | | | | |
| RCS 水位 | | | キャビティ溜水 RCS 溜水 ミッドループ RCS 全フロア | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 圧力 6.89MPa[gage]を超える場合) ・蓄圧タンク出口弁全開(手動での閉弁および閉弁ができること) ・モード3(1次冷却材圧力 6.89MPa[gage]以下の場合)、4、5および6において圧力が 1.0MPa[gage]以上であること。 ・蓄圧タンク4基(モード3(1次冷却材圧力 6.89MPa[gage]以下の場合)、4、5および6においては3基) | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | モード3、4、5および6 第90条 (表90-4-3) 代替炉心注水-B充てんポンプ(自己冷却)による代替炉心注水- | ・B充てんポンプ(自己冷却)1台 ・燃料取替用水ピット ・復水ピット ・空冷式非常用発電装置 ・燃料油貯蔵タンク ・重油タンク ・タンクローリー | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × |
| | モード3、4、5および6 第90条 (表90-4-4) 代替炉心注水-A格納容器スプレポンプ(RHRS-CSS連絡ライン使用)による代替炉心注水- | ・A格納容器スプレポンプ(RHRS-CSS連絡ライン使用)による代替炉心注水可能(ポンプ手動起動(系統構成含む)できること) ・可搬式代替低圧注水ポンプによる代替炉心注水可能 | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × |
| | モード3、4、5および6 第90条 (表90-4-5) 代替炉心注水-C可搬式代替低圧注水ポンプによる代替炉心注水- | ・可搬式代替低圧注水ポンプ(可搬式代替低圧注水ポンプ用電源車含む)1台×2 ・送水車1台×2 ・仮設置立式水槽1台×2 ・軽油ドラム缶 ・燃料油貯蔵タンク ・重油タンク ・タンクローリー | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × |
| | モード3、4、5および6 第90条 (表90-4-6) 代替再循環 | ・A格納容器スプレポンプ(RHRS-CSS連絡ライン使用)による代替再循環系が動作可能(ポンプ手動起動(系統構成含む)できること) ・B高圧注水ポンプ(海水冷却)による高圧代替再循環系が動作可能(ポンプ手動起動(系統構成含む)できること) | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × |

定期事業者検査時の安全管理の計画

(13/25)

| 主要工程 | | | 主要工程 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--------------|---|--------------|---|-----------|-------|------|------|------|-------|------|------|-----|-----|-----|---|-----|---|-----|---|---|
| 項目 | 保安規定条文 | 要求モード | 要求内容 | 関連設備 | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モータ外 | 6-1 | 6-2 | 5-1 | 5-2 | 4 | 5-1 | 4 | 5-1 | 3 | |
| | | | | | ▽解列 RCS降温 | R/V開放 | 燃料取出 | 燃料整備 | 起動試験 | 起動前点検 | 起動試験 | 調整運転 | | | | | | | | | |
| RCS水位 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| キャビティ減水 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| RCS海水 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ミッドループ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| RCS全フロー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第90条 (表90-5-1) | モード3 | 第90条 (表90-5-1) | モード3 | 要求内容 | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モータ外 | 6-1 | 6-2 | 5-1 | 5-2 | 4 | 5-1 | 4 | 5-1 | 3 | |
| 第90条 (表90-5-1) 加压器過し弁による減圧 | モード3 | 第90条 (表90-5-1) 加压器過し弁による減圧 | モード3 | <ul style="list-style-type: none"> 窒素ポンプ(代替制御空気供給用)または可換式空気圧縮機(代替制御空気供給用)を使用した加压器過し弁による1次冷却系の減圧系が動作可能 可換式バッテリー(加压器過し弁用)を使用した加压器過し弁による1次冷却系の減圧系が動作可能 可換型バッテリー(加压器過し弁用)を使用した加压器過し弁による1次冷却系の減圧系が動作可能 可換型バッテリー(加压器過し弁用)を使用した加压器過し弁による1次冷却系の減圧系が動作可能 可換型バッテリー(加压器過し弁用)を使用した加压器過し弁による1次冷却系の減圧系が動作可能 可換型バッテリー(加压器過し弁用)を使用した加压器過し弁による1次冷却系の減圧系が動作可能 可換型バッテリー(加压器過し弁用)を使用した加压器過し弁による1次冷却系の減圧系が動作可能 可換型バッテリー(加压器過し弁用)を使用した加压器過し弁による1次冷却系の減圧系が動作可能 | × | | | | | | | | | | | | | | | | × |
| 第90条 (表90-6-1) 原子炉格納容器スプレイ | モード3、4、5および6 | 第90条 (表90-6-1) 原子炉格納容器スプレイ | モード3、4、5および6 | <ul style="list-style-type: none"> 原子炉格納容器スプレイ系(より高除去率タンク除く)の1系統以上が動作可能(ポンプ手動起動/系統構成含む) | × | × | × | × | × | × | | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × |
| 第90条 (表90-6-2) 代替原子炉格納容器スプレイ/恒設代替低圧注水ポンプによる代替原子炉格納容器スプレイ | モード3、4、5および6 | 第90条 (表90-6-2) 代替原子炉格納容器スプレイ/恒設代替低圧注水ポンプによる代替原子炉格納容器スプレイ | モード3、4、5および6 | <ul style="list-style-type: none"> 恒設代替低圧注水ポンプによる代替原子炉格納容器スプレイ系が動作可能 | × | | | | | | | | | | | | | | | | × |
| 第90条 (表90-6-3) 代替原子炉格納容器スプレイ/可換式代替低圧注水ポンプによる代替原子炉格納容器スプレイ | モード3、4、5および6 | 第90条 (表90-6-3) 代替原子炉格納容器スプレイ/可換式代替低圧注水ポンプによる代替原子炉格納容器スプレイ | モード3、4、5および6 | <ul style="list-style-type: none"> 可換式代替低圧注水ポンプによる代替原子炉格納容器スプレイ系が動作可能 | × | | | | | | | | | | | | | | | | × |
| 第90条 (表90-7-1) 原子炉格納容器内自然対流冷却 | モード3、4、5および6 | 第90条 (表90-7-1) 原子炉格納容器内自然対流冷却 | モード3、4、5および6 | <ul style="list-style-type: none"> 原子炉格納容器内自然対流冷却系が動作可能(ポンプ手動起動/系統構成含む)で動作すること、または運転中であること | × | × | × | × | × | × | | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × |

定期事業者検査時の安全管理の計画

(14/25)

| 主要工程 | | ▽並列 RCS 低温 | | | | | | | | | | 燃料排出 | | | | 燃料貯荷 | | | | 起動試験 | | | | 起動前5点検 | | | | ▽並列 | | |
|--------|---|---|--|---|---|-----|-----|-----|-----|------|-----|-------|-----|-----|---|-------|---|-----|---|----------|---|---|---|--------|---|---|---|-----|--|--|
| | | R/V開放 | | | | | | | | | | R/V開放 | | | | R/V組立 | | | | RCS漏えい検査 | | | | 調整運転 | | | | | | |
| 項目 | 保安規定条文 | 要求モード | 要求内容 | 3 | 4 | 5-1 | 5-2 | 6-1 | 6-2 | モータ外 | 6-2 | 6-1 | 5-2 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 5-1 | 4 | 3 | 4 | 3 | 4 | 3 | 4 | 3 | | |
| RCS 水位 | | キャビティ漏水 RCS 漏水 ミッドループ RCS 全ブロー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第90条 (表90-7-2) 大容量ポンプによる原子炉格納容器内自然対流冷却および代替補機冷却 | モード3、4、5および6 | <ul style="list-style-type: none"> 大容量ポンプによる海水供給系(大容量ポンプから海水管接続口まで)2系統が動作可能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第90条 (表90-8-1) 蒸気発生器2次側による炉心冷却(注水) | モード3および4(蒸気発生器が熱除去のために使用されている場合) | <ul style="list-style-type: none"> 復水ピットを水源とした電動補助給水ポンプ(2台で1系統可能(ポンプ手動起動(系統構成含む)できること、または運転中であること) 復水ピットを水源としたタービン補助給水ポンプによる蒸気発生器への給水系1系統が動作可能(ポンプ手動起動(系統構成含む)できること、または運転中であること、原子炉起動時のモード3において試験運転に係る調整を行っていない場合は運転上の制限は適用しない、現場手動による起動を含む) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第90条 (表90-9-1) 蒸気発生器2次側による炉心冷却(蒸気放出) | モード3および4(蒸気発生器が熱除去のために使用されている場合) | <ul style="list-style-type: none"> 主蒸気逃がし弁が手動での開弁ができること(積場手動含む) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第90条 (表90-10-1) waters 温度低減 | モード3、4、5および6 | <ul style="list-style-type: none"> 静的触媒式水素再結合装置の所要数が動作可能 静的触媒式水素再結合装置温度監視装置の所要数が動作可能 原子炉格納容器水素燃焼装置の所要数が動作可能 原子炉格納容器水素燃焼装置の所要数が9系統の電源から受電可能 原子炉格納容器水素燃焼装置温度監視装置の所要数が動作可能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 第90条 (表90-10-2) waters 温度監視 | モード3、4、5および6 | <ul style="list-style-type: none"> 可搬型格納容器水素ガス濃度計等による waters 温度監視系1系統(可搬型格納容器水素ガス濃度計1個、格納容器水素ガス試料冷却器用可搬型冷却水ポンプ1台、可搬型格納容器水素ガス試料圧縮装置1台、格納容器水素ガス試料冷却器1個および格納容器水素ガス試料水分分離器1台) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |